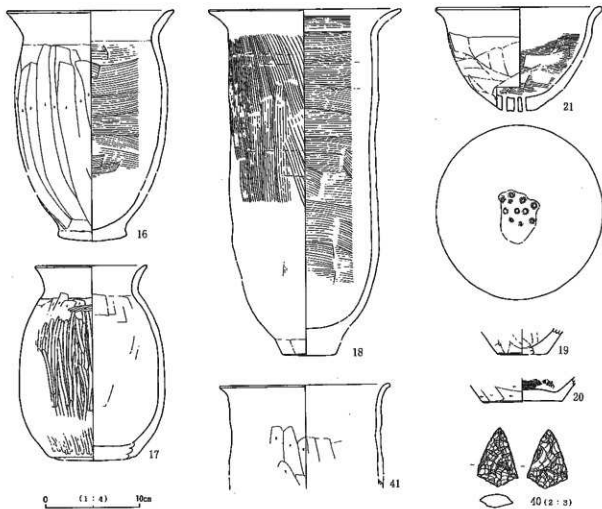
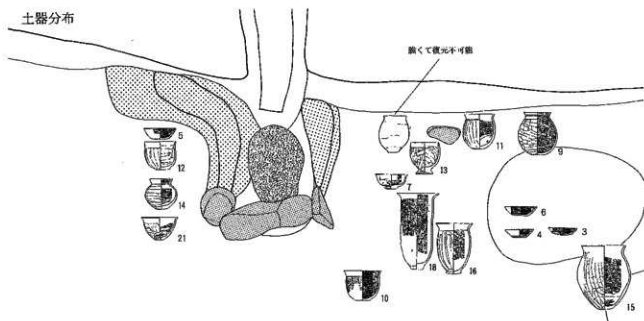


第63图 H54号住居址



土器分布



第64図 T1 54号住居址

第38表 H54号住居址出土遺物一覽表(2)

10	土師器 鉢	18.2 7.3 14.3	内 外 ミガキ→黒色処理 胴部ハケナデ→ナデ→口縁部横ナデ	変形(厚挽) 内 N20(黒) 外 10Y R8/3(洗黄緑)	1mm以下の白色粒子を含む。	I区
11	土師器 壺	15.0 6.7 16.8	内 口縁部横ナデ・胴～底部ハケナデ(一部にナデ) 外 胴・底部ヘラナデ・口縁部横ナデ	口縁部58残存(内面調整、外面磨耗) 2.5Y R7/4(洗赤橙)	2~8mmの赤色粒子を多く含む。1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少量含む。	
12	土師器 鉢	15.3 6.3 13.6	内 胴～底部ナデ→口縁部横ナデ 外 胴部縦ナデ→口縁部横ナデ・底部ナデ	変形 10Y R8/4(洗黄緑)	4mm以下の赤色粒子、1mm以下の白色粒子を含む。	
13	土師器 白付壺	13.6 8.2 15.2	内 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ・胴部ナデ 外 胴・底部ヘラナデ・口縁部横ナデ	変形 7.5Y R7/4(にぶい橙)・5Y R7/6(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	
14	土師器 壺	11.1 5.7 14.6	内 (ナデ)・横位ミガキ 外 胴・底部横位ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部2/3残存(胴部より下、完全に残る。(外面磨耗)) 10Y R8/3(洗黄緑)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。小丸含む。	
15	土師器 丸胴壺	21.5 7.1 30.9	内 口縁部横ナデ・胴～底部ハケナデ 外 胴・底部横位ナデ→胴部縦位ヘラクスリ→口縁部ミガキ	底部変形。口縁部一部残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm~2mmの赤色粒子・黒色粒子を含む。	I区
16	土師器 壺	(17.6) (7.2) 24.4	内 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ・胴下半～底部ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラクスリ・底部ヘラクスリ	口縁部3/4残存 2.5Y R7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	I区
17	土師器 丸胴壺	(12.0) (9.1) <20.4>	内 口縁部横ナデ・胴部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラクスリ→横位ミガキ	口縁部1/2残存 5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	カマドI区
18	土師器 壺	20.4 8.2 36.7	内 胴部ハケナデ→口縁部横ナデ・胴下半～底部ナデ 外 胴部縦位ハケナデ→口縁部横ナデ・底部ナデ	口縁部3/4残存。底部変形 5Y R7/4(にぶい橙)	1~3mmの白色粒子多量含む。 底部に木葉痕あり。	I区
19	土師器 壺	(5.4) (2.7)	内 ナデ 外 ナデ	底部1/2残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	堀方
20	弥生土器 壺	8.6 <2.5>	内 ナデ(一部土具使用) 外 ヘラクスリ	底部変形 10Y R8/3(洗黄緑)	1mm以下の白色粒子を含む。	堀方
21	土師器 瓶	17.8 3.7 11.1	内 口縁部横ナデ・胴～底部ハケナデ→黒色処理 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	ほぼ変形 内 N20(黒) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子、1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。縦割れあり。	
41	鉢か壺	18.2 — <11.0>	内 口縁部横ナデ→胴部ヘラクスリ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラクスリ	口縁部1/3 5Y R5/3(にぶい赤褐色)	3mm以下の白色粒子を含む。	I区堀方

## 41) H55号住居址 (第65・66図、第39表、図版二十七・五十七・五十八)

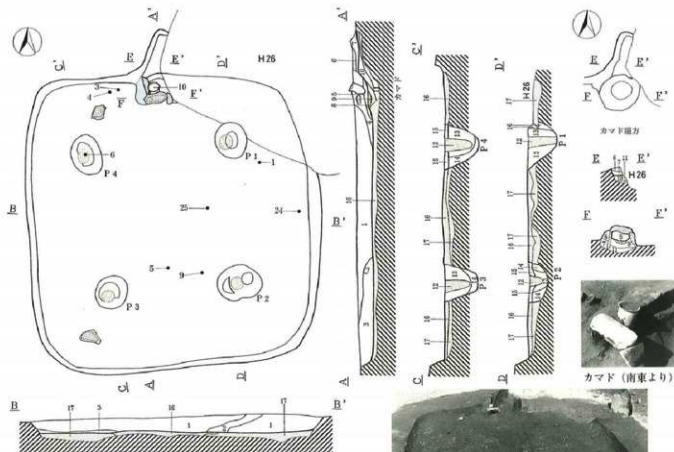
6お6グリットにあり、H26に切られ、D25を切る。南北596cm、東西581cm、深さ35cmの方形を呈す。カマドはH26に東袖を破壊されるが北壁中央にあり、主軸方位はN-9°-Wを指す。カマドは袖先に石を組み、カマドには10の長胴甕がセットされた状態で検出された。主柱穴はP1~P4で円ないし楕円形を呈し、短径64~68cm、深さ40~72cmを測り、24~28cmの柱痕が検出された。

掲載遺物には土師器杯(1)、碗(2・3)、瓶(4)、丸胴壺(5)、長胴壺(6~11・14)、滑石製紡錘車(24・25)黒曜石製剥片(22)、黒曜石製石鏃(23)がある。1は須恵器蓋杯の模倣か底部は扁平である。内面はナデで黒色処理される。2・3は内面ミガキ黒色処理で、外面も黒色処理されている。丸胴壺は外面ハケ調整でミガキ調整がなされていない。10の長胴壺はカマドに置かれ、外面ミガキ調整され、最大径は口縁にある。他にハケナデ、ヘラクスリの甕がみられる。隣接するH54より、いくらか長胴壺の胴部器形などは古い。古墳時代後期の土器群であろう。

第39表 H55号住居址出土遺物一覽表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	11.4 11.6 2.9	内 みこみ瓶ナデ・口縁部横ナデ(わずかなミガキ)→黒色処理 外 底部ヘラクスリ→口縁部横ナデ	変形 内 N20(黒) 外 7.5Y R5/3(にぶい橙)	1mmの黒色粒子を含む。	
2	土師器 瓶	11.9 — 6.6	内 横位ミガキ→黒色処理 外 ミガキ	ほぼ変形(内外磨耗) 内 N20(黒) 外 5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子多量含む。	I区
3	土師器 瓶	12.5 6.1 6.2	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部～底部ヘラクスリ→黒色処理	変形(内面磨耗) 内 N20(黒) 外 10Y R4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を多量、1~2mmの赤色粒子を多量含む。	

1. 古墳時代

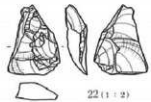


カマド (南東より)



H 55号住居址 (南より)

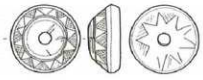
- H 55 土層説明
1. 黒褐色土層 (HVR34) 砂ブロック・炭化物を含む。
  2. 褐色土層 (HVR40) 砂粒子・砂ブロックを多量に含む。
  3. 黒褐色土層 (HVR23) 炭化物・シルト質土粒子を含む。
  4. 灰褐色土層 (SYR42) 粘土ブロック・造土ブロックを含む。
  5. 暗赤褐色土層 (SYR35) 粘土ブロック・造土粒子・炭化物を含む。
  6. 紅褐色土層 (SYR50) 粘土土塊、(カマド埋没灰土)
  7. 褐色土層 (SYR45) 粘土ブロック、地山 (砂粒子) を含む。
  8. 暗赤褐色土層 (SYR36) 造土。
  9. 黒褐色土層 (SYR21) 粘土粒子・炭化物・灰を含む。(カマド埋)
  10. 暗赤褐色土層 (SYR23) 粘土粒子・粘土ブロックを含む。(カマド埋)
  11. 灰褐色土層 (SYR52) 粘土ブロックを含む。地山 (砂粒子) を含む。(カマド埋)
  12. 柱頭。
  13. 黒褐色土層 (HVR32) 黒色土 (HVR13) を帯状に含む。地山 (砂) ブロックを含む。(ピット埋)
  14. 土5い・黄褐色土層 (HVR43) 地山 (砂) 粒子を含む。砂のブロックを含む。(ピット埋)
  15. 黒褐色土層 (HVR22) 粘土ブロックを含む。(ピット下の埋)
  16. 黒褐色土層 (HVR32) 黒色土層 (HVR13) の混在土層。(埋)
  17. 黒色土層 (HVR13) 地山 (砂) を多量に含む。礫を含む。(埋)



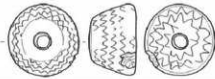
22 (1:2)



23 (2:3)

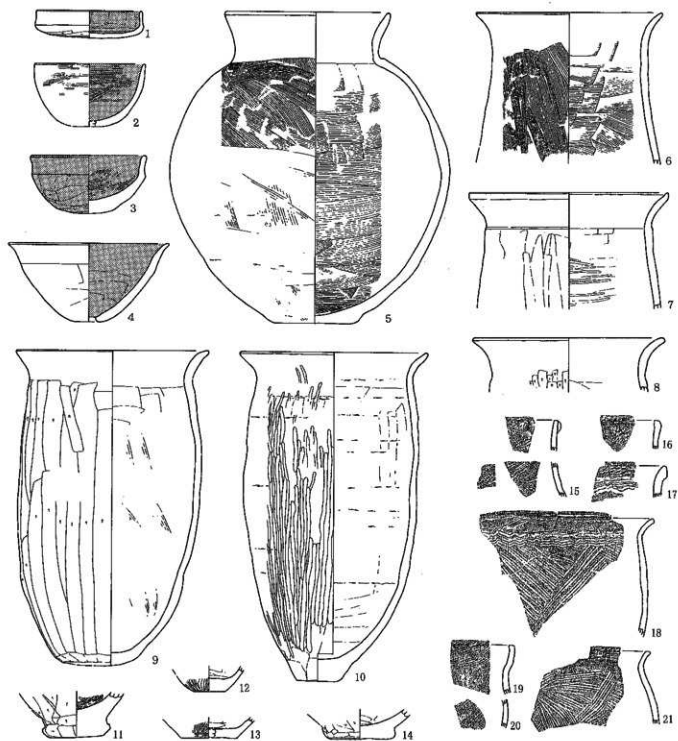


24 (1:2)



25 (1:2)

第65図 H 55号住居址



第66图 H55号住居址

0 (1:4) 10cm

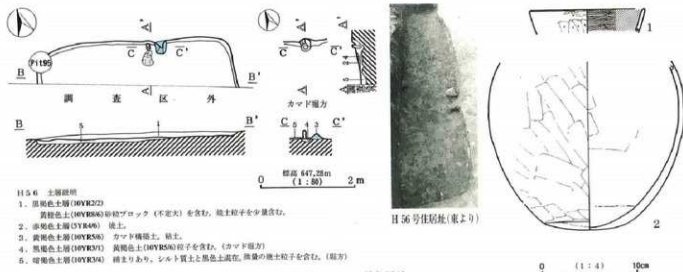
第39表 H55号住居址出土遺物一覧表(2)

4	土師器 瓶	(17.2) (3.2) 8.3	内外 口縁部横ナデ・胴部ナデ→黒色処理 胴部ナデ・口縁部横ナデ	口縁部12残存 内 N20(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	砂質。 1mmの白色粒子含む。 一見。	
5	土師器 丸胴壺	17.7 8.9 34.9	内外 口縁部横ナデ・胴部→底部ハナメ 胴上半ハケナデ→胴中央・底部ナデ→ 口縁部横ナデ	口縁部18残存 5Y R7/4(赤い) 5Y R8/3(淡黄)	3mm以下の赤色粒子を多量、 1mm以下の黒色粒子を少量 含む。	
6	土師器 壺	20.0 — <16.0>	内外 口縁部横ナデ・胴部横位ハケナデ・ナデ 胴部横位ハケナデ→口縁部横ナデ	口縁部3/4残存 10Y R7/3(赤い黄橙)	緻密。	P2
7	土師器 壺	(21.4) — <12.2>	内外 胴部横位ナデ→部分的にミガキ→口縁 部横ナデ 胴部横位ナデ→口縁部横ナデ	口縁部18残存 5Y R7/4(赤い)	緻密。 粉末質の胎土に1~4mm大 の小石含む。	Ⅲ区
8	土師器 壺	(20.6) — <5.7>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラケズリ	口縁部14残存 7.5Y R7/3(赤い)	1mm以下の白色粒子と1m mの赤色粒子を含む。	検出
9	土師器 壺	20.4 9.0 33.4	内外 口縁部横ナデ→胴部底部ヘラナデ(工具 使用) 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラケズリ・ 底部ナデ	口縁部 一部欠損 7.5Y R7/4(赤赤)	1mmの赤色粒子・小石を 含む。	
10	土師器 壺	20.0 4.3 35.0	内外 口縁部横ナデ→胴→底部ナデ 口縁部横ナデ・胴部底部ヘラケズリ→ 胴部横位ミガキ	口縁部7/8残存、底部完形 5Y R6/4(赤い)	1mmの白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子多量含む。	
11	土師器 壺	— 7.1 <4.8>	内外 ハケナデ ヘラケズリ	底部完形 7.5Y R7/4(赤い)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子多く含む。	Ⅲ区
12	土師器 壺	— 3.3 <2.7>	内外 ナデ(ヘラ) ミガキ	底部完形 2.5Y R6/6(橙) 7.5Y R7/4(赤い)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	
13	弥生土師 器	— (8.0) <2.2>	内外 ナデ ハケナデ→ミガキ	底部12残存 5Y R4/1(黄灰) 5Y R5/2(灰黄)	1mm以下の白色粒子を多く 含む。	I区
14	土師器 壺	— 7.0 <3.2>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部完形 5Y R4/2(灰黄)	小石含む。	I区・地方

## 42) H56号住居址(第67図、第40表、図版二十八・五十八)

5×4グリットにあり、北端のみ調査し住居址の大半は調査区域外である。東西398cm、壁残高14cmを測る。カマドは北壁中央より東寄りであり、わずかに粘土と焼土があった。主軸方位はN-10°-Eを指す。ピット等は検出されていない。

掲載土器には土師器杯か鉢(1)、丸胴壺(2)がある。古墳時代後期であろう。



第67図 H56号住居址

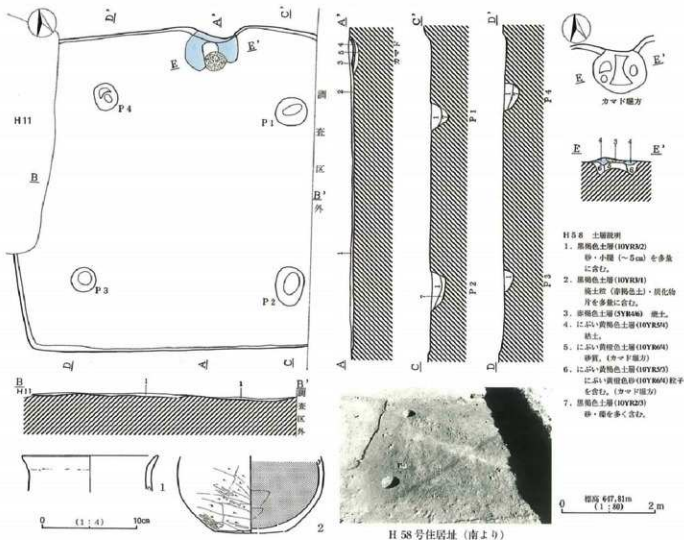
第40表 H 56号住居址出土遺物一覧表

番号	器物	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯?	(12.2) — <2.5>	内外 ミガキ→黒色装埋 口縁部ミガキ・体部ヘラケズリ	口縁部18残存 内 N20(黒) 外 2.5YR2(灰白)	1mm以下の白色粒子多量含む。	西
2	土師器 丸胴壺	— 9.6 <17.5>	内外 ナナ ナナ	底部34残存 2.5YR74(淡赤橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	東

## 43) H 58号住居址 (第68図、第41表、図版二十八・五十八)

調査区東端の4ヶ5グリットにあり、H11に切られる。南北668cm、壁残高8cmを測り形態は方形を呈すものと推測される。カマドは北壁中央にあり、焼土と袖の粘土が残っていた。主軸方位はN-10°-Eを指す。主柱穴はP1~P4で楕円ないし円形を呈し、短径で52~60cm、深さ24~40cmを測る。

掲載土器は土師器小型壺(1)、鉢(2)である。いずれも全器形は明らかでないが古墳時代後期のものである。



第68図 H 58号住居址

第41表 II 58号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 小丸壺	(14.6) -<3.8>	内外 横ナデ 横ナデ	口縁部1/2残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子を含む。	カマド 4c5G
2	土師器 鉢	(8.0) -<3.1>	内外 ミガキ・黒色処理 ヘラケズリ・ミガキ	底面3/4残存 7.5Y R5/2(灰褐色)	雑煮。 1mm以下の白色粒子・小石 を含む。	カマド 5a4G 4c5G

## 44) H 61号住居址 (第69図、第42表、図版二十八・五十八)

5あ2グリットにあり、北側は調査区域外で調査できなかった。東西470cm、壁残高24cmを測る。カマドは検出されなかった。北端が調査されていないので、北壁にあるものと推測される。P1～P3が径16～30cm、深さ12～28cmの主柱穴かと推測されるが明確でない。北東には径52cm、深さ36cmを測る円形のピットがある。南西の床からは編物石が10個まとまって出土している。重さは300～475g、7が760gを測る。

掲載遺物には土師器杯(2)、小型丸底(3)、鉢(1)、小型の長胴壺(4)、土製円版(5)、磨製品の未製品(6)、編物石(7～16)がある。2の土師器杯は口縁部が浅い底から曖昧な内外の稜を持って外傾する。内面はミガキ黒色処理である。鉢は口縁部横ナデ、体部ナデ調整される。小型丸底は短い口縁にやや扁平な球形の体部で外面はミガキ、内面は底部付近がミガキ調整される。長胴壺は最大径が胴部にある。これらより、古墳時代後期の土器群であろう。

第42表 H 61号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 鉢	(15.0) -<8.5>	内外 胴部ナデ・口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・胴部ナデ	口縁部1/5残存 10Y R3/1(黒褐色)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	IV区
2	土師器 杯	- 6.2 -<2.2>	内外 ミガキ・黒色処理 ナデ	底部1/2残存 内 N20(黒) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・小石を含む。	II区
3	土師器 小丸丸底	5.2 4.7 6.6	内 口縁部横ナデ・胴・底部ナデ(底部一部 ミガキ) 外 ミガキ	ほぼ定形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒 子を多く含む。	II区
4	土師器 壺	14.0 -<15.0>	内外 口縁部横ナデ・胴部横ナデヘラナデ 胴部横ナデヘラナデ・口縁部横ナデ	口縁部・胴部ほぼ定形 7.5Y R8/4(浅黄褐色)・2.5Y R 7/6(橙)	2mm以下の赤色粒子を含む。	P3
5	土師器 土製円版	8.8 0.8	内外 ミガキ ヘラケズリ	7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子を含む。 杯の二次利用	IV区

## 45) H 62号住居址 (第70図、第43表、図版二十八・五十九)

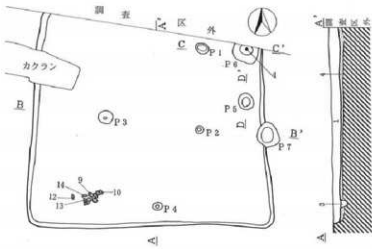
4け3グリットにあり、南北342cm、東西388cm、壁残高3cmを測る東西に長い長方形を呈す。床面でプラン確認しているので、壁のないところもある。カマド等の火処は検出されていない。主軸方向はN-7°-Eを指す。柱穴は中央にP1があり、短径で32cm、深さ60cmを測る。幅20cm、深さ6cmの間仕切り溝が西壁から中央のピットまである。他遺物は検出されていない。

掲載遺物には土師器杯(1～3)、壺(4)がある。土師器杯は1が小型で、器台か高杯かもしれない。内外面ミガキ調整される。2・3は内面ミガキ黒色処理され、3は浅い丸底から、口縁が大きく外反気味に伸びている。4は外面にハケ目を残している。古墳時代後期の土器群であろう。

第43表 H 62号住居址出土遺物一覧表(1)

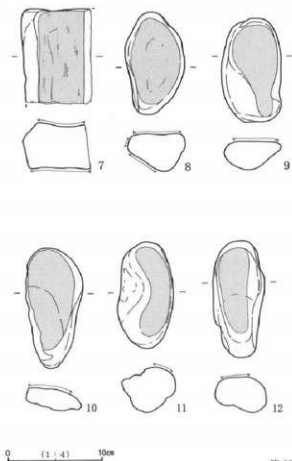
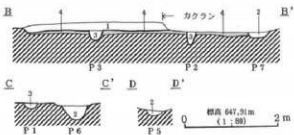
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(9.6) (8.2) -<2.1>	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ハケナデ・ミガキ	口縁部1/4残存 5Y R8/4(淡褐色)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	
2	土師器 杯	(14.0) (11.2) -<3.2>	内外 ミガキ・黒色処理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/5残存 内 N20(黒) 外 10Y R5/1(褐色)	1mm以下の白色粒子、 1mmの赤色粒子を含む。	



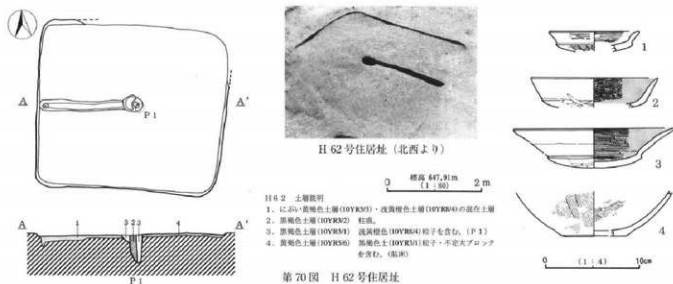


H 61号住居址 (西より)

- H 61 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) に赤い黄褐色 (10YR6/4) ・に赤い黄褐色 (10YR5/4) シルト質砂粒を含む。φ 1 cmのピリスを含む。
  2. 灰褐色土層 (10YR5/2) に赤い黄褐色土 (10YR6/4) 砂子を含む。
  3. 塊状土層 (10YR6/4) ・に赤い黄褐色土層 (10YR6/4) の混在土層
  4. 黄褐色土層 (10YR5/6) 2次堆積。黒褐色土 (10YR3/4) 砂子、不定大ブロックを含む。(見取)



第69図 H 61号住居址



第43表 H 62号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	土器器種	量	内外	ミガキ→黒色処理 体部底部分ナデ・口縁部横ナデ・底部ヘウ ケスリ→わずかにミガキ	口縁部1/2残存 内 N 20(黒) 外 10Y R 8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	5a4G
3	土器器種	17.1 5.0 4.2	内外	ミガキ→黒色処理 体部底部分ナデ・口縁部横ナデ・底部ヘウ ケスリ→わずかにミガキ	口縁部1/2残存 内 N 20(黒) 外 10Y R 8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	5a4G
4	土器器種	— (7.2) <4.7>	内外	ミガキ ハケナデ→底部ミガキ	底部約1/4残存 7.5Y R 7/2(明褐色)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	

## 2. 弥生時代

## 46) H 17号住居址 (第71図、第44表、図版二十九・五十九)

3か8グリットにあり、北西の半分は調査区域外である。南北518cm、調査域で東西440cmを測り、隅丸長方形を呈すものと推測される。壁残高12cmである。長軸方位はN-26°-Wを指す。主柱穴はP1の南西のみ検出され、他は区域外である。掘方では少し南にずれて旧ビットのP6が見つかっている。火処は検出されていない。東壁沿いのP2~P5、P8は浅いピットである。他遺構の掘立柱建物址が重複していた可能性もある。

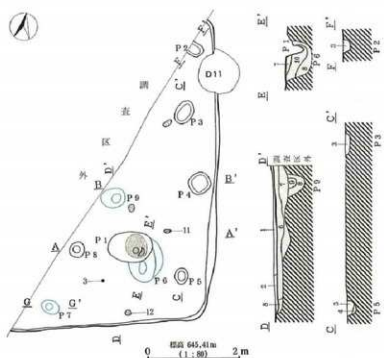
掲載遺物は弥生時代の壺(1・4・6~8)・壺(2・3・5・9)、安山岩製スリ石(10~12)、軽石製浮子(13)がある。

壺は受口状を呈し、端部と口縁上部外面に縄文を、胴部には縦に挿斜斜文を施している。2は上部を欠損して、全器形がわからない。胴部内外面ミガキ赤色塗彩される。

これらより、弥生の中期後半の土器群であろう。

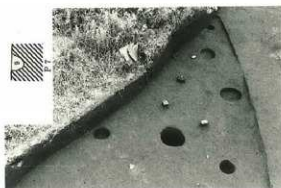
第44表 H 17号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	量	内外	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ・ハケナデ 口縁部横ナデ→胴部ハケナデ 口唇部縄文 胴部5本1面とする挿斜斜 文文	口縁部1/6残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	細密。	検出
1	弥生土器 壺	(24.0) — <11.7>	内外	口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ・ハケナデ 口縁部横ナデ→胴部ハケナデ 口唇部縄文 胴部5本1面とする挿斜斜 文文	口縁部1/6残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	細密。	検出
2	弥生土器 鉢	— (8.2) <9.5>	内外	横位ミガキ→赤色塗彩 斜位ミガキ→赤色塗彩	底部約1/4残存 濃い赤色塗彩	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を少量含む。	検出
3	弥生土器 壺	— (10.0) <4.1>	内外	胴部ハケナデ→底部ナデ 縦位ミガキ	底部約1/4残存 7.5Y R 5/2(灰褐色)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	

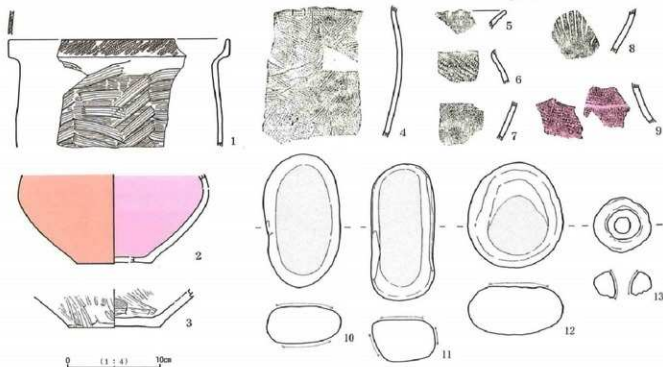


## H 17 土層説明

1. 黒褐色土層 (OYK2) シルト質土を含む。
2. 赤褐色土層 (OYK3)  
暗褐色砂 (OYK3A) を含む。粘土粒子を含む。
3. 暗褐色土層 (OYK3C)  
暗褐色砂 (OYK3A) を多く含む。(柱間)
4. 暗褐色土層 (OYK3D)  
黒山の砂土層。(ピット掘方様土)
5. 暗褐色土層 (OYK3E)  
上部に黄褐色 (OYK3G) シルト質土ブロックを含む。  
(ピット掘方様土)
6. 暗褐色土層 (OYK3F) 砂質土。(柱間)
7. 黒褐色土層 (OYK2)  
上部に黄褐色 (OYK3G) シルト質土ブロックを含む。  
(P 1 掘方様土)
8. 暗褐色土層 (OYK3C)  
暗褐色 (OYK3F) 砂質土主体。(床下ピット掘方様土)
9. 暗褐色土層 (OYK3D)  
暗褐色 (OYK3F) 砂質土主体。(床下ピット柱間)
10. 暗褐色土層 (OYK3E)  
暗褐色 (OYK3F) ブロックを含む。(P 6 掘土)



## H 17号住居址 (南より)



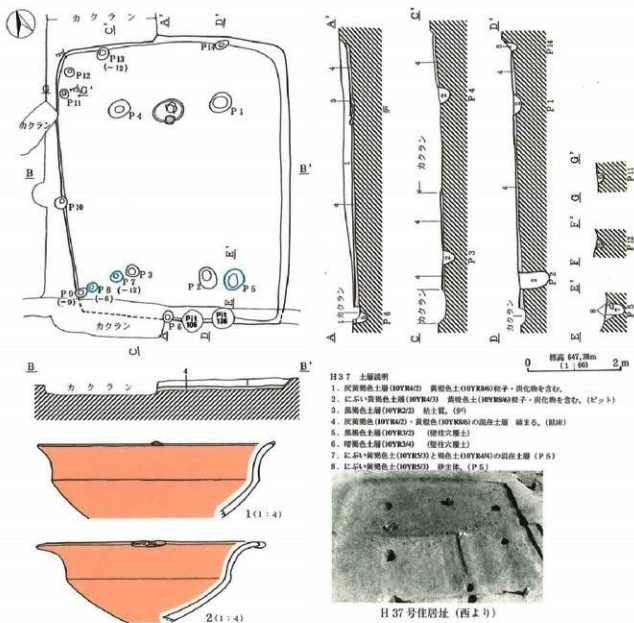
第71圖 H 17号住居址

## 47) H 37 号住居址 (第72図、第45表、図版二十九・五十九)

2ヶ10グリットにあり、西側遺構上面に帯状の視孔が南北に入り、床面を壊しているが扇方でプランは確認できた。南北576cm、東西460cm、壁残高17cmの隅丸長方形を呈す。長軸方位N-15°-Eを指す。主柱穴はP1~P4の4本で北側の柱穴の間に炉がある。炉は高杯の杯部を置いて炉底とし南に長径20cmの川原石を置いて炉縁石としている。壁際には壁柱穴がある。周溝はみつからなかった。

掲載遺物は赤色塗彩された高杯杯部(1・2)である。2は炉底として使用されていた。両者とも杯中位で外縁を持って外反外傾するもので端部には突起が付く。その他の土器破片は少なく、赤色塗彩の突起の付く杯、斜条痕の寛、無彩の頸部に飾横線文を施す壺片などがあるのみである。

高杯の器形などから弥生時代後期の土器群であろう。



第72図 H 37 号住居址

第45表 H37号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	(25.0) — <8.0>	内 ミガキー赤色塗彩 外 ミガキー赤色塗彩	口縁部1/4残存 濃い赤色塗彩7.5R4/6(赤)	白色粒子を含む。	H37日区堀方 H38床
2	弥生土器 高杯	23.6 — <8.7>	内 ミガキー赤色塗彩 外 ミガキー赤色塗彩	杯部口縁部1/2残存 濃い赤色塗彩7.5R4/6(赤)	白色粒子を含む。 梅花7あり。	炉床

## 48) H 44号住居址 (第73・74図、第46表、図版三十一・五十九・六十)

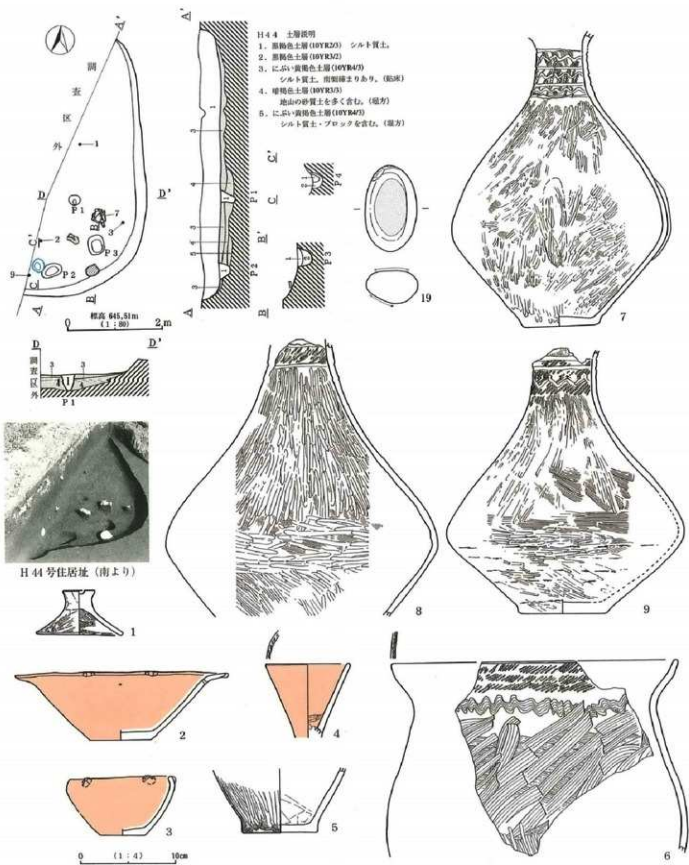
3お3グリットにあり、南東域を調査したのみで、大平は調査区域外である。規模はわからないが輪形に近い隅丸長方形を呈すようである。壁残高は32cmである。長軸方位はN-6°-Wを指す。南東の主柱穴がP1で、他は区域外で調査できなかった。炉も区域外であろう。

掲載遺物は弥生式土器蓋(1・15)、鉢(2)、杯(3)、高杯(4)、壺(5・6・10~13)、壺(7~9・14・16~18)がある。1の蓋は大きい蓋の縁を欠いて小さくしたのか端部は焼成後欠いて、整えている。2の鉢は内外面赤色塗彩され、口縁部を外方に折り水平に鈎をつけ、さらに端部には突起を付けて裝飾性が高められている。6の壺は大型品である。口縁部の受口態が曖昧で口縁が内湾したような形態になっている。口縁部外面に縄文、頸部に帯指波状文、胴部に帯指斜走文が施される。壺はいずれも口縁部がなく、全器形はわからない。7がイチジク状で胴上部が膨らむが、8・9はそろばん玉状で胴上部があまり膨らまない。いずれも文様は頸部のみで、縄文を転がし、ヘラ描き横線、横位の波状文を施している。

これらより弥生時代中期後半の土器群であろうと思われる。

第46表 H44号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 蓋	9.2 3.4 4.8	内 ハケナデー黒色焼物 つまみナデー天井部ミガキ 外 成部ヘラナ デ	定形(厚紙) 内 N20(黒) 外 7.5Y R74(にぶい燈)	1mm以下の白色粒子を含む。 口縁部打ち欠く(転用)。	
2	弥生土器 鉢	(22.2) (5.4) 7.1	内 ミガキー赤色塗彩 外 ミガキー赤色塗彩 底 ミガキ	底蓋3/4残存 濃い赤色塗彩10R4/8(赤)	縦帯。口唇部に突起あり(推定8ヶ所)。腰部に穿孔あり(焼成前か)。	
3	弥生土器 杯	11.5 4.8 6.2	内 ミガキー赤色塗彩 外 ミガキー赤色塗彩	口縁部7/8残存。底蓋完全 濃い赤色塗彩10R4/6(赤)	縦帯。 口唇部に5ヶ所突起あり。	
4	弥生土器 杯	(9.0) — <5.8>	内 成部ナデー口縁から体部横位ミガキー赤 色塗彩 外 底位ミガキー赤色塗彩 口唇部縄文	口縁部1/2残存 濃い赤色塗彩。10R4/8(赤)	縦帯。 1mm以下の白色粒子を含む。	
5	弥生土器 壺	— 8.1 <8.7>	内 ミガキ(原産) 外 ハケナデー縦位ミガキ	底蓋完全(内面塗彩) 7.5Y R6/4(にぶい燈)	1mm以下の白色粒子-黒色 粒子を含む。	
6	弥生土器 壺	(30.5) — <20.3>	内 ハケナデー横位ミガキ 口唇部縦ナデー胴部斜位ハケナデー胴下 平位ミガキ 外 口唇部から口縁部縄文 胴部6本1組と する帯指波状文 胴部4~6本を1組とす る帯指斜走文(羽状)。	口縁部1/8残存 10Y R8/2(灰白)	縦帯。	
7	弥生土器 壺	— 8.3 <30.9>	内 ナデーハケナデー外 ハケナデーミガキ 胴部縄文を地文とし、4本のヘラ描横走 平行線文を区切り、ヘラ描山形文3本を 施す。胴部中央(最大径の部分)に胎付 が1ヶ所あり(播移用の粘土帯か)。	底蓋完全 10Y R8/3(浅黄橙)	縦帯。 全体に赤色塗彩を施した痕跡 が認められるが、範囲は判別 できない。	
8	弥生土器 壺	— <28.8>	内 ハケナデー外 ハケナデーミガキ 縄文を地文とし2本のヘラ描横走平行線 文の間にヘラ描斜走文を施す。	頸部-胴部1/2残存 10Y R7/3(にぶい黄橙)	縦帯。 赤色塗彩があるが、範囲分ら ず。	
9	弥生土器 壺	— 9.4 <27.4>	内 ナデー外 ハケナデーミガキ 胴部縄文を地文とし、2本のヘラ描横走 平行線文を施し、その下にヘラ描山形文 を施す。	底蓋完全 7.5Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子-赤色 粒子を含む。赤色塗彩の痕跡 が認められるが、範囲は判別 できない。	



第73図 H 44号住居址



第74図 H44号住居址

## 49) H45号住居址 (第75・76図、第47表、図版三十・六十)

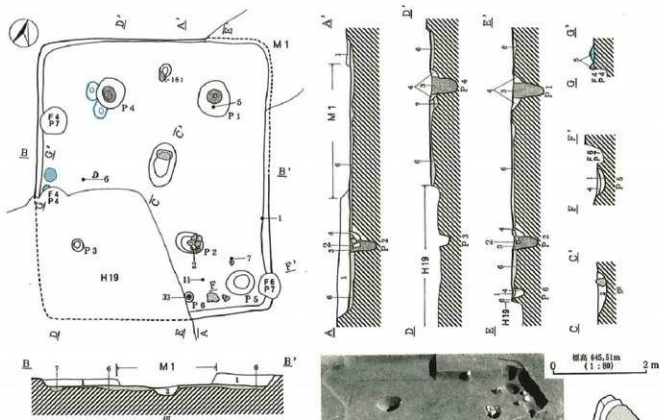
3う6グリットにあり、H19・F4・F6・M1に切られる。南北562cm、東西471cm、壁残高24cmの長方形を呈す。長軸方位はN-14°-Wを指す。P1~P4の4本が主柱穴で短径で41~76cmの円形または楕円形のピットの中に径24~32cm、深さ40~68cmの柱痕がみられた。中央には炉があり、長楕円形で、北に伊礫石を置いている。長径92cm、短径52cm、深さ18cmを測る。南東にP5がある。西端中央には粘土塊がみられた。

掲載遺物は弥生式土器の高杯(11)、鉢(12)、甕(1・2・4・5・13・14・16・18・20・25・26)、台付甕(3・10)、壺(6~9・15・17・19・21~24・17~31)、チャート製のスリ石(34)、黒曜石割片(32)、片岩製磨製石族(33)がある。1の甕はI緑が短く強く外反し、口縁部に縄文、胴部に横溝垂下文と波状文を施文している。3は台付き甕であるが、1と同様の文様構成となっており、内面はミガキで黒色処理されている。5は大形甕で口縁部が受口状で口唇部・I緑部外面に縄文が転がり、胴部に文様がなない。壺は口縁部形態が単純にただ外反するものと短頸と受口状の3形態がある。6・8は頸部にヘラ描文が施文される。

これらより、弥生時代中期後半の土器群であろう。

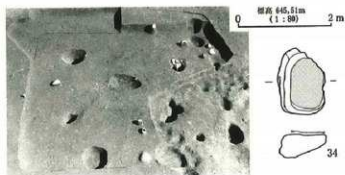
第47表 H45号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存景・色調	粘土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(15.3) 7.6 19.5	内外文 I緑部横ナデ・胴部横位ハケナデ 口縁部横ナデ・胴部横位ハケナデ 口唇部縄文・胴部上半分を1組とする 横溝波状文を施し、8本組とする横溝 垂下文4本によって、胴部を縦に4分層す	底部定形 7.5 Y R5/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	
2	弥生土器 甕	— 7.4 <16.0>	内外文 縦位ミガキ ハケナデナデ・胴下半に縦位ミガキ 5本組とする横溝斜走文を施す。	底部定形 7.5 Y R7/3(におい色)	1mm以下の白色粒子を多量、 1mm以下の黒色粒子を少量含む。	
3	弥生土器 台付甕	(11.7) (6.1) 12.3	内外文 横位ミガキナデ・黒色処理 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ・縦位ミガキ 口唇部縄文 胴部6本を1組とする横 溝垂下文を6本施し6分層する。それぞ れの区画に7本組とする横溝波状文を3本 ずつ施し、3~4本のヘラ横溝波状文によ り3分層する。横溝垂下文上にそれぞれ1 つずつ筋付文を施す。	口縁部2/3、底部3/4残存 内 N20(黒) 外 7.5 Y R8/4(浅黄褐色)	1mm以下の白色粒子を含む。	I区・IV区 M1 H19横出
4	弥生土器 甕	(16.2) — <8.7>	内外文 横位ミガキ I緑部横ナデ・胴部ハケナデ 胴部に7~8本組とする横溝斜走文	口縁部1/4残存 7.5 Y R5/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	II区 F6・P3
5	弥生土器 甕	(31.6) 11.0 35.2	内外文 横位ハケナデ・縦位ミガキ 斜位ハケナデ・斜位横位ミガキ 口唇部からI緑部縄文	底部定形、口縁部2/3残存 7.5 Y R7/6(靑)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	P1
6	弥生土器 甕	11.8 — <11.9>	内外文 胴部ヘラナデとナデ・I緑部横ナデ 横形縦位ハケナデ・口縁部横ナデ 口唇部縄文 胴部3本のヘラ横溝波状文 縦文・2本のヘラ横溝波山形文	I緑部2/3残存 7.5 Y R8/4(浅黄褐色)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	III区
7	弥生土器 甕	8.0 — <15.1>	内外文 I緑部横ナデ・胴部横ナデ 口縁部横ナデ・頸・胴部ナデ・縦位ミガキ	I緑部定形 10 Y R&2(灰白)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	II区
8	弥生土器 甕	(17.0) — <10.2>	内外文 横位ミガキ ハケナデ・縦位ミガキ I唇部からI緑部縄文・胴部縄文を地 文とし3本のヘラ横溝波状文を施す。	口縁部3/16残存 7.5 Y R7/3(におい色)	1mm以下の白色粒子を含む。 I緑部縄文内にわずかに赤 色塗彩残存。	II区・III区 M1
9	弥生土器 甕	(9.6) — <9.4>	内外文 ハケナデ ハケナデ・ミガキ	底部1/6残存 10 Y R7/2(におい黄褐色)	緻密。	IV区



H45 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂質。
2. 黒褐色土層 (7.5YR3/4) 粘土・炭化物粒子を含む。(P)
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂質。(柱状)
4. 褐色土層 (10YR4/4) 砂質土。(ピット層方)
5. 灰白色土層 (5Y8/2) 粘土。
6. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土ブロック混じり。(30cm)
7. 暗褐色土層 (10YR3/3) シルト質土。(層方)

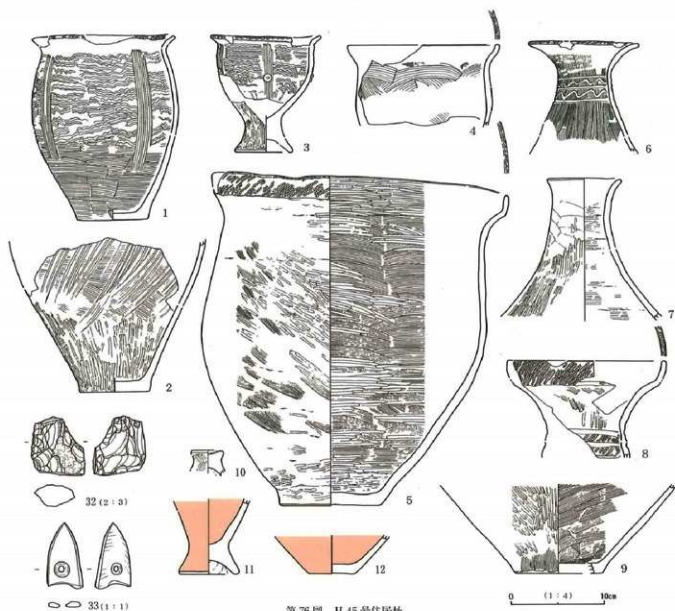


H45号住居址 (西より)



第75図 H45号住居址





第76图 H45号住居址

第47表 H45号住居址出土遺物一覧表(2)

10	弥生土器 台付蓋	- 3.6 <2.6>	内外 刷部ミガキ・脚部ナデ ミガキ	底部ほぼ完形 5Y R6/4(にふい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 転用で蓋として利用か。	Ⅱ区
11	弥生土器 高杯	- 6.4 <7.9>	内外 杯部横紋ミガキ→赤色塗彩・脚部ナデ 縦戻ミガキ→赤色塗彩	底部完形 10Y R8/2(灰白) 濃い赤色塗彩10R 4/8(赤)	1mm以下の黒色粒子を含む。	
12	弥生土器 鉢	(4.8) <4.1>	内外 横紋ミガキ→赤色塗彩 縦戻ミガキ→赤色塗彩・底部ナデ	底部1/2残存 10Y R8/6(浅黄橙) 濃い赤色塗彩10R 4/8(赤)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区・M1

## 50) H 46号住居址 (第77・78・79図、第48表、図版三十一・六十一・六十二)

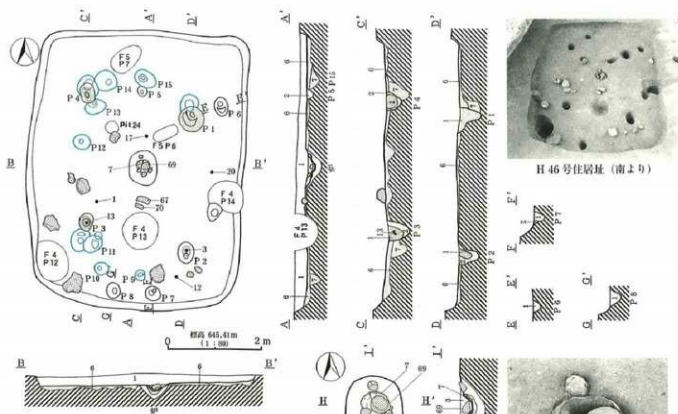
3お5グリットにあり、F・4・5に切られる。南北557cm、東西436cm、壁残高27cmを測り、隅丸長方形を呈す。長軸方位はN-4°-Eを指す。主柱穴はP1~P4の4本で径32~54cm、深さ48~52cmを測る。旧主柱穴が壁方から検出され、建て替えがなされている。北のP15は棟持柱、南壁下には2個の出入り口施設のピットがある。が中央にあり、楕円形を呈し、長径74cm、短径60cm、深さ28cmの幅込みに壺の胴下部を置いて火床としていた。炉の窓の縁に10cm大の川原石4個を置き架緑石としている。中央の20cm大の川原石(安山岩)は第77図69に掲載した凹石である。使用していたものが入り込んだ様である。

掲載遺物には弥生式土器の鉢(1・2・27・51)、高杯(3・4)、蓋(5)、壺(6~15・26・28~35・42・46~48・56)、台付甕(17・19・22・23)、罎(16・18・20・21・24・25・36~41・43~45・49・50・52~55・57~63)がある。石製品では、片岩製製石鉄木製品の一部磨かれている物(64)、黒色ガラス質安山岩製の一部磨耗痕のある剥片石器(66)、黒色ガラス質安山岩の剥離により整えられた未製品の剥片(66)、安山岩製のスリ石(67・70)、安山岩製の敲打石(68)がある。弥生式土器の鉢・高杯はミガキ赤色塗彩される。6の壺は端部は面取り縄文が施文されるが素縁で、口縁外面・頸部に縄文、頸部のヘラ描き沈線とあつまりした文様構成である。7は炉底に使用された土器で、胴下部のみであるが胴部中に縄文を転がし、ヘラで連続文を施している。14は素縁で端部は丸い。文様は三角の縮歯文を意識した文様が施文される。台付甕は「コ」字重ね文である。甕は短く外反する素口縁と受け口とがある。頸部には柳指塵状文が施され、柳指の波状文、羽状文が施される。

これらは弥生時代中期後半の土器であろう

第48表 H 46号住居址出土遺物一覽表(1)

番号	器種	注記	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 鉢	15.5 5.3 7.5	内 外 ミガキ赤色塗彩 ミガキ赤色塗彩・底部ミガキ	口縁部3/4残存・底部完形。 濃い赤色塗彩GYR50(明赤燻)	1mm以下の白色殺子を含む。 口縁部に穿孔あり。 突縁付く。塗彩剥落。	1146Ⅲ区 H45Ⅱ区
2	弥生土器 鉢	4.8 <2.1>	内外 ミガキ赤色塗彩 ミガキ赤色塗彩・底部ナデ	底部完形(内面磨痕) 断面10Y R&2(灰白)	1mm以下の白色殺子・黒色殺子を含む。	Ⅲ区
3	弥生土器 高杯	- <3.7>	内外 杯部赤色塗彩・脚部ナデ及びハケナデ ミガキ赤色塗彩	脚部破片 断面10Y R&2(灰白)	1mm以下の白色殺子を含む。 脚部内面にもみみ残存。	P2
4	弥生土器 高杯	- <2.9>	内外 杯部ミガキ・脚部ナデ ミガキ赤色塗彩	脚部のみ残存 断面10Y R&3(浅黄燻)	微燻。1mm以下の白色殺子含む。	Ⅲ区 転用
5	弥生土器 蓋	8.7 (3.2) 4.2	内外 文 ミガキ ミガキ 口唇部に縄文	口縁部1/2残存 7.5Y R5/3(ぶい燻)	1mm以下の白色殺子含む。	Ⅳ区
6	弥生土器 壺	14.1 <26.5>	内外 文 ハケナデ→口縁部横位ミガキ 胴部縦位ミガキ・口縁部横ナデ 口唇部縄文・口唇から頸部縄文→頸部に 1本のヘラ指痕を伴う縄文	口縁部完形 10Y R&2(浅黄燻)	微燻。1mm以下の白色殺子を含む。赤色塗彩。赤彩範囲ははっきり分らないが、外面面欠かす。長肌。	Ⅰ区
7	弥生土器 壺	- 11.2 <15.1>	内外 文 ハケナデ・外ハケナデ→ミガキ 胴部中央横文を縄文とし、ヘラ指痕連続三角文を呈す。	底部完形 10Y R7/3(ぶい黄燻)	微燻。	炉
8	弥生土器 壺	5.5 <2.7>	内外 ハケナデ ハケナデ→ミガキ	底部完形 10Y R&3(浅黄燻)	1mm以下の白色殺子・黒色殺子・赤色殺子を含む。	Ⅳ区
9	弥生土器 壺	- (6.7) <3.6>	内外 ナデ(ハケ球工具使用) ナデ→ハケナデ	底部1/2残存 10Y R&3(浅黄燻)	微燻。1mm以下の白色殺子・黒色殺子を含む。	Ⅳ区
10	弥生土器 壺	- 10.5 <2.1>	内外 ナデ ナデ→縦位ミガキ	底部完形 10Y R&3(浅黄燻)	微燻。 転用。	Ⅲ区
11	弥生土器 壺	5.6 <2.4>	内外 底 ハケナデ→ミガキ ハケナデ	底部完形 10Y R&3(浅黄燻)	1mm以下の赤色殺子・黒色殺子を含む。	Ⅳ区
12	弥生土器 壺?	10.7 <8.4>	内外 ナデ ナデ→ハケナデ→ミガキ(一部分) 横ナデ→ハケナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 5Y R5/2(灰燻)	1mm以下の白色殺子・黒色殺子を含む。	
13	弥生土器 壺	- <12.4>	内外 文 ハケナデ→口縁部ミガキ ハケナデ・縦位ミガキ 縄文を縄文とし、2本のヘラ指痕を伴う 縄文で区切る	頸部残存 5Y R7/6(靑)	1mm以下の白色殺子・黒色殺子を含む。さめ定。	



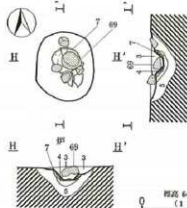
H46号住居址 (南より)



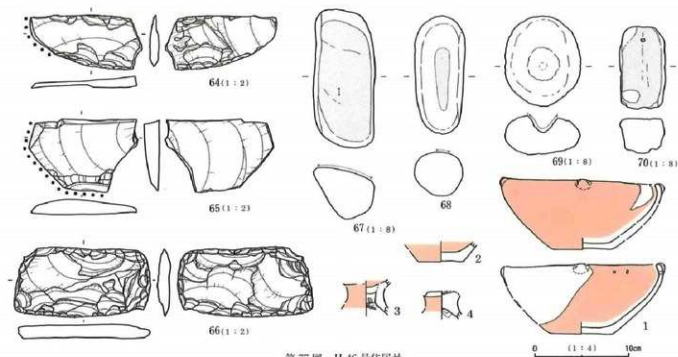
P1 (南より)

## H46 土層説明

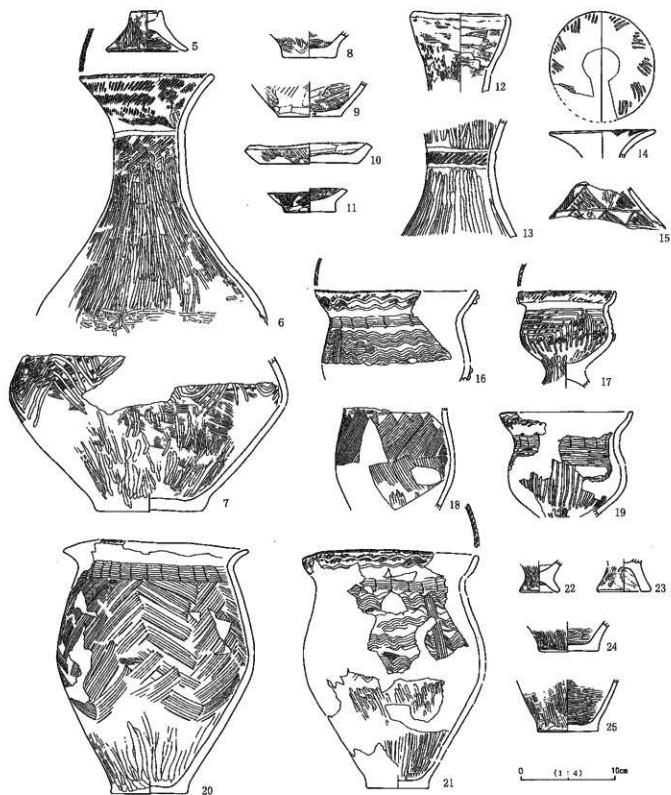
1. 褐色土層 (HVRK2) 暗褐色土 (HVRK3) を多く含む。
2. 暗褐色土層 (HVRK3) に赤い黄褐色土 (HVRK4) を多く含む。(ピット層)
3. 黄褐色土層 (HVRK4) 粘土状土を含む。(P)
4. 黄褐色土層 (HVRK4) の上部周辺は掘り、赤褐色土 (HVRK5) を出す。(P掘方)
5. 暗褐色土層 (HVRK3) 砂質。(P掘方)
6. 赤い黄褐色土層 (HVRK4) 粘りあり、シルト質土粒子・地山の砂土多く含む。(埋戻)
7. 暗褐色土層 (HVRK3) (床下ピット)



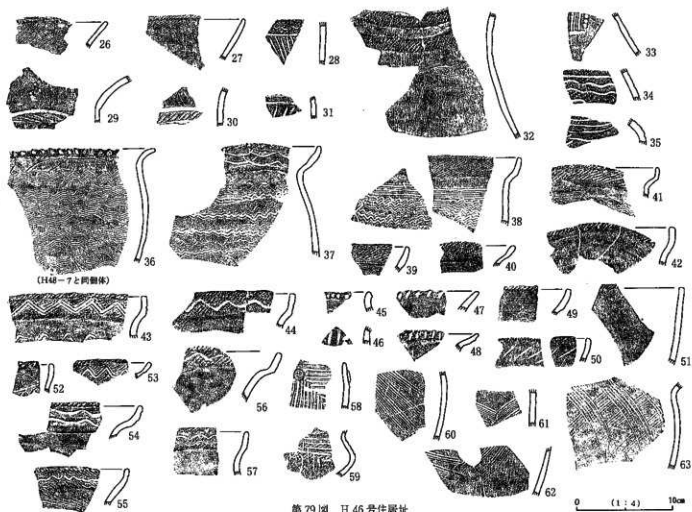
H46, 41m (1:40) 1m



第77図 H46号住居址



第78图 H46号住居址



第79図 H46号住居址

0 (1:4) 10cm

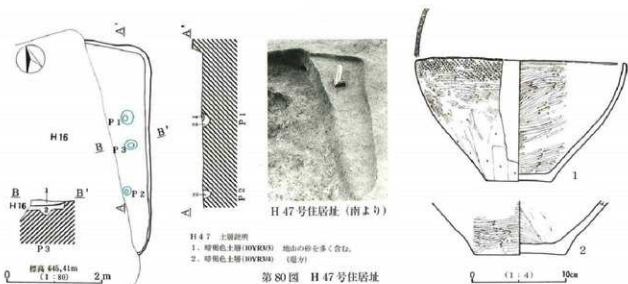
第48表 H46号住居址出土遺物一覧表(2)

14	弥生土器 壺	11.3 — <2.9>	横ナデ 横ナデ 口縁部内面にヘラ掻き波状三角文を施す。	口縁部3/4残存 10 Y R 72(にぶい貴様)	1mm以下の白色粒子を多量、 黒色粒子を少量含む。 15と同體。	Ⅲ区
15	弥生土器 壺	— — —	内文 ハケナデ、外 ミガキ 横文を地文としヘラ掻き波状平行線文で 区画した文様帯にヘラ掻き波状三角文を 施し、三角形の中をヘラ掻き波状平行線文 を施す。	胴上部の一部残存 7.5 Y R 74(にぶい貴様)	紋面。 14と同體。	Ⅲ区
16	弥生土器 壺	(17.2) — <9.5>	内外文 口縁部横ナデ、胴部ハケナデ→ミガキ 口縁部横ナデ、胴部ハケナデ 口唇部横文、口縁部横文を地文として2 条のヘラ掻き波状文を施す。胴付文あり。 胴部6本1組とする横波状文を施す。 胴部6本1組とする横波状文を施した 後、6本1組とする横波状下文を施す。	口縁部1/4残存 7.5 Y R 53(にぶい貴様)	きめ細かい。	Ⅲ区
17	弥生土器 台付壺	10.5 — <10.1>	内文 ミガキ、外 口縁部横ナデ→胴部縦紋ミ ガキ 口唇→口縁部横文、胴部横文を地文とし、 3分幅にヘラ掻「コ」の字文。胴部に 施付文3ヶ所、口縁部に貼付文1ヶ所(テ 所着)	口縁部7/8残存 5 Y R 63(にぶい貴様)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	
18	弥生土器 壺	— — <10.6>	内文 ハケナデ→横紋ミガキ 口縁部横ナデ、胴下部ミガキ 6~8本1組とする横波斜状文	胴部破片 7.5 Y R 73(にぶい貴様)	精選されている。	Ⅱ区、Ⅲ区
19	弥生土器 台付壺	(14.2) — <11.0>	内外文 横ナデ、口縁部横ナデ、外 ハケナデ 口唇部横文、口縁部横文を地文として2 条のヘラ掻き波状文を施し、胴部7本1組と する横波状文を施し、上縁を1条のヘ ラ掻き波状平行線文で区切る。胴部横文 を地文としヘラ掻「コ」の字文を施す。	口縁部1/8残存 10 Y R 74(にぶい貴様)	きめ細かい。1mm以下の白 色粒子を含む。	I区Ⅱ区 Ⅲ区

20	弥生土器 壺	(19.4) 8.0 <26.7>	内 ハケナデ→ミガキ 胴部ハケナデ→ミガキ・口縁部横ナデ 口縁部横文 胴部8本1組とする飾縹帯 状文 胴部5-8本1組とする飾縹帯状文	口縁部1段残存・底部完形 7.5Y R6/2(灰緑)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	Ⅱ区Ⅲ区 カマド
21	弥生土器 壺	(18.4) (6.6) 25.0	内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・胴部ハ ケナデ→胴下半部横位ミガキ 文 口縁部横文 口縁部横文を地文とし、2 条のヘラ・縹帯状文を施す。胴部6本1組 とする飾縹帯状文 胴部上半部6本1組と する飾縹帯状文を施した際、6本1組と する飾縹帯下文を施す。	口縁部1段・底部1段残存 10Y R7/2(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
22	弥生土器 台付壺	- 4.2 <3.3>	内外 腰部・台部共ナデ 横位ミガキ	底部完形 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 網罟。	Ⅱ区
23	弥生土器 台付壺	- 5.7 <3.4>	内外 腰部・台部共ナデ ナデ→ミガキ	底部完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
24	弥生土器 壺	- 6.5 <3.1>	内外 ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ→横位ミガキ	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	網罟。	Ⅲ区
25	弥生土器 壺	(6.4) <5.3>	内外 ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ→横位ミガキ	底部1段残存 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 外面にスス付着。	Ⅲ区

## 51) H 47号住居址 (第80回、第49表、図版三十一・六十)

3え10グリットにあり、大半をH16に切られて壊され、東端が調査できた。南北の残長が424cm、壁残高12cmを測る。長軸方位はN-15°-Eを指す。壁際に3個のピットが検出されたが小ピットである。他にはない。掲載遺物は弥生時代中期の鉢(1)、壺(2)がある。鉢は口唇部と口縁に縄文を施す無彩のものである。2は大型の壺の底部である。土器破片は少ない。これらは、弥生時代中期の土器群であろう。



H 47 土層断面

1. 暗褐色土層(10YR3/3) 地山の砂を多く含む。
2. 暗褐色土層(10YR3/4) (壁方)

第80回 H 47号住居址

第49表 H 47号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 鉢	(22.6) (7.0) 12.9	内 ミガキ 外 胴下半部ヘラズリ・胴上 半部ハケナデ→ミガキ 文 口唇・口縁部に縄文を施す。	底部1段・口縁部1段残存 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を少量含む。	南
2	弥生土器 壺	- 9.8 <3.7>	内外 ハケナデ・ナデ 横位ミガキ	底部完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を少量含む。	南

## 52) H 48 号住居址 (第81・82図、第50表、図版三十二・六十二・六十三)

7い2グリットにあり、H21に切られ、北半分は壊されている。東西464cm、壁残高34cmを測り隅丸長方形を呈す。長軸方位はN-0°で北を指す。主柱穴はH21の重床部にも残されており、P1-P4である。径30-60cm、床より50cm前後掘込まれている。南端には貯蔵穴であろうか長楕円形の長さ92cm、深さ20cmの穴がある。

炉は中央にあり、北端をH21に壊されるが長楕円形で、短径55cm、深さ24cmを測る。炉底には栗の割部を輪切りにして円筒にし、中に飯を置いていた。南側に川原石を3個置いて炉縁石としている。

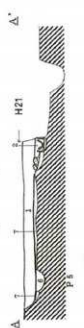
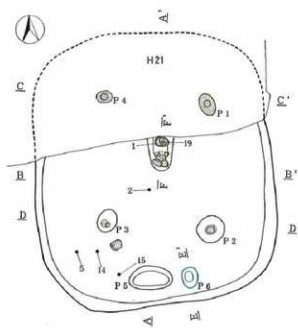
掲載遺物には弥生式土器莖 (I-9・20-29・32-41・47・53)、台付甕 (10・11)、壺 (12-17・31・32・43・46・48-52)、鉢または杯 (15・44)、注口土器 (18)、瓶 (19) がある。石製品には黒色ガラス質安山岩で周縁部が剥離され、磨削されてはいるが未製品であろうもの (55-57)、磨製石斧の先端部 (58) がある。

1の変形土器は炉で使用していた。7は口縁部が強く短く外反し口縁端部に刻み目、胴上部に溝波状文が施される。H46の36と接合している。莖はいづれも素線のもので13は内湾するがほかは外反する。14は端部は面取りをしてあるが縄文は転がしている。これらより弥生時代中期後半の土器であろう。

第50表 H 48号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 壺	— <16.0>	内外 横位ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ→下半のみ縦位ミガキ 3-6本1組とする縦溝波状文	胴部のみ残存 7.5Y R84(浅黄緑)	緻密。 1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
2	弥生土器 壺	— 6.4 <8.4>	内外 ハケナデ→ミガキ ナデ→下半部縦位ミガキ 4本1組とする縦溝波状文を施した後、7 本1組とする縦溝波状文を施し、貼付文 を施す。	底面完全形 10Y R73(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	Ⅲ区
3	弥生土器 壺	— 6.7 <5.7>	内外 ミガキ ミガキ	底面完全形 7.5Y R63(にぶい黄)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	Ⅲ区・Ⅱ区
4	弥生土器 壺	(13.4) <12.1>	内 ミガキ、外、11線部横ナデ→胴部ナデ→ 下半のみ縦位ミガキ 文 口部部焼突文 胴部7-8本1組とする縦 溝波状文 胴部10本1組とする縦溝波状 平行線文を施す。	口部部1/8残存 5Y R63(にぶい黄)・5Y R 41(胴底)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。 器内不均。	Ⅱ区・Ⅲ区
5	弥生土器 壺	— (8.0) <3.4>	内外 ハケナデ→ミガキ ミガキ	底面1/2残存 7.5Y R74(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
6	弥生土器 壺	— 7.3 <5.7>	内外 胴部縦位ミガキ・底面横位ミガキ 胴部ハケナデ→縦位ミガキ・底面ナデ	底面完全形 10Y R73(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	Ⅲ区
7	弥生土器 壺	(22.2) <12.2>	内外 ハケナデ→横位ミガキ 口部部横ナデ→胴部ハケナデ→下半のみ 縦位ミガキ 文 口部部への焼突文 胴部5本1組とする 縦溝波状文	口部部1/2残存 7.5Y R73(にぶい黄)	緻密。 1mm以下の白色粒子を含む。 1146-36と接合。	Ⅱ区・検出
8	弥生土器 壺	— (8.8) <5.8>	内外 ミガキ ミガキ	底面1/5残存 7.5Y R74(にぶい黄)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を少量含む。	Ⅲ区
9	弥生土器 小型壺	— (4.2) <2.6>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ	底面1/2残存 7.5Y R76(橙)	1mm以下の白色粒子を多量、 黒色粒子・赤色粒子を少量含む。	Ⅰ区
10	弥生土器 台付甕	— (9.0) <5.0>	内外 莖部 ミガキ・台部 横ナデ ナデ→ミガキ	底面1/3残存 7.5Y R74(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	Ⅱ区・Ⅲ区
11	弥生土器 壺	(6.8) <4.2>	内外 莖部 ナデ→台部 ハケナデ 縦位ハケナデ	底面完全形 10Y R84(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	Ⅲ区
12	弥生土器 壺	(16.0) <11.8>	内外 横位ミガキ 11線部横ナデ→胴部ハケナデ 口部部焼突文 胴部横文・4本のヘラ横溝 5本行焼突文で区切り、2本のヘラ横溝状 文を施す。	11線部1/4残存 7.5Y R84(浅黄緑)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	Ⅰ区・Ⅲ区
13	弥生土器 壺	(16.2) <3.2>	内外 横位ミガキ ナデ 口部部に焼突文を施す。	口部部1/8残存 7.5Y R74(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子を多量、 黒色粒子を少量含む。	Ⅲ区

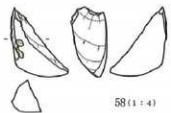
2. 弥生時代



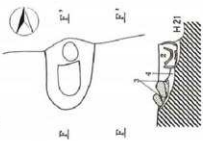
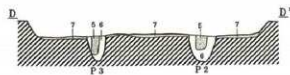
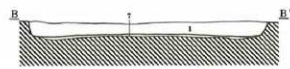
H 48号住居址 (北より)

H 48 土層説明

1. 灰黄褐色土層 (HYR42) 炭化物・にがい黄褐色 (HYR64) 砂粒を含む。
2. にがい黄褐色土層 (LOYR50) 炭化物・小粒を含む。(P)
3. 赤褐色土層 (SYR48) 雑土。(P)
4. にがい黄褐色土層 (LOYR64) 炭化物を含む。(P)
5. 黒褐色土層 (OYR34) (注釈)
6. にがい黄褐色土層 (LOYR54) (ビッド層方)
7. 暗褐色土層 (OYR30) 砂質土層、埋山の砂粒・砂ブロックを含む。(H)



58(1:4)

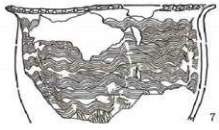
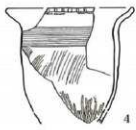
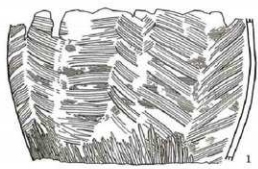


炉壁方



H 48号住居址炉 (東より)

標高 645.51m (1:40)



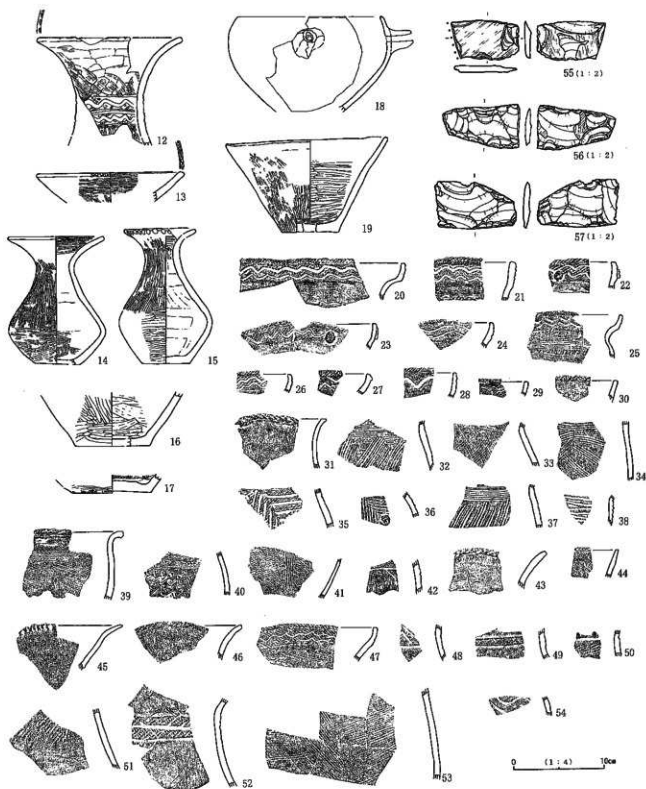
(H46-36と同構造)



第81図 H 48号住居址

0 (1:4) 10cm





第82图 H 48号住居址

第50表 H 48号住居址出土遺物一覧表(2)

14	弥生土器 壺	10.7 4.9 14.0	内 外	口縁部ミガキ・胴-胴上半部ナデ・胴下 半-底部ハケナデ 口縁部横ナデ・胴-胴部ミガキ	口縁部はほぼ定形 10 Y R 72(におい黄緑)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。 口縁部曲がり。	
15	弥生土器 壺	(7.8) (5.2) 14.8	内 外	口縁部横ナデ・胴部横ナデ・胴部 斜位-横位ナデ 口縁部ナデ・胴-胴部ミガキ・底部ナデ 口縁部ヘラ指刺突文	底部34残存 10 Y R 82(灰白)	緻密。	
16	弥生土器 壺	(8.2) (5.8)	内 外	ハケナデ ミガキ	底部18残存 7.5 Y R 83(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子・少量 含む。	Ⅱ区
17	弥生土器 壺	(8.6) <2.0>	内 外	ナデ・ハケナデ ハケナデ・横位ミガキ	底部78残存 10 Y R 76(におい黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。	Ⅱ区
18	弥生土器 注口土器	(16.0) — <10.3>	内 外	横位ミガキ 磨滅していて判別できない。	口縁部19残存(外面磨滅) 10 Y R 83(浅黄緑) 内面に淡い赤色塗彩	緻密。 注口あり。	Ⅰ区・Ⅱ区 Ⅲ区
19	弥生土器 壺 (一丸)	18.0 6.3 10.3	内 外	横位ミガキ 横位ミガキ	底部変形。口縁部34残存 2.5 Y R 66(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を含む。	Ⅱ・M21 Ⅲ区東方

## 53) H 50号住居址(第83・84図、第51表、図版三十二・三十三・六十三)

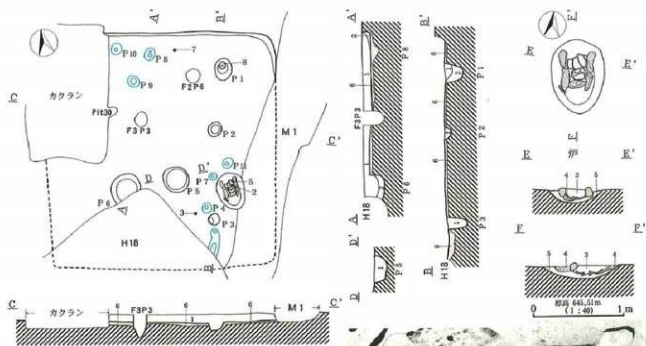
3×8グリットにあり、H18・M1・カクランに切られている。西南にかけてはプランが確認できなかった。南北残長520cm、東西残長360cm、壁残高23cmを測る。長軸方位はN-10°-Eを指す。P1・P3は主柱穴であるが、西側のピットが明確ではない。円形で径36・24cm、深さ40・44cmを測る。炉は南東の主柱穴P3の北にある。卵形で長径80cm、短径60cm、深さ16cmの堀込みに川原石を5個「コ」の字に配列し、その内側に2個体の甕を敷いて炉底としていた。P5・P6は伴う遺構かは明確でない。

掲載遺物は弥生土器壺(1~5・12・13・17)、台付壺(6)、壺(7~9・14~16)、土製陶版(10・11)がある。石製品では輝緑岩製の扁平片刃石斧、黒曜石製の剥片(19)がある。

2の甕は口縁が短く外反し口唇部に縄文を転がすだけで文様は施文されない。5は同じく口縁部が短く外反し、口唇部に縄文を施し、頸部に帯指線状文、胴上半に帯指斜交文を施文している。6の台付壺は受口で、口唇部・口縁に縄文、胴上半に帯指波状文と垂下文が施される。壺形土器は単に外反する赤口縁で短く外反する。いずれも端部は面取りし縄文を転がし、7は頸部に縄文とヘラ指沈線、8は頸部に粘土帯でたくくして上下にヘラ指波状文を廻らしている。これらは弥生時代中期後半の土器であろう。

第51表 H 50号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・溝整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	弥生土器 壺	(23.0) (9.0) 13.8	内 外	斜位ミガキ ハケナデ-横位ミガキ	底部34残存 10 Y R 83(浅黄緑)	緻密。 鉢に転用か。	Ⅰ区
2	弥生土器 壺	(23.2) — <12.3>	内 外	口縁部横ナデ・胴部ハケナデ-ミガ(横 位ミガキ)-横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ヘラ指刺突文 口唇部縄文	口縁部14残存 10 Y R 76(におい黄緑)	1mm以下の白色粒子・少量 含む。	
3	弥生土器 壺	(7.4) <5.7>	内 外	ミガキ ハケナデ-ミガキ ナデ	底部78残存 7.5 Y R 74(におい黄)	1mm以下の白色粒子含む。	
4	弥生土器 壺	(5.0) <3.0>	内 外	ミガキ(横位) ハケナデ-横位ミガキ ミガキ	底部13残存 10 Y R 72(におい黄緑)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。	Ⅲ区
5	弥生土器 壺	(21.6) 8.0 24.6	内 外 文	ミガキ 口縁部横ナデ・胴部1.5半ハケナデ・胴下 半横位ミガキ 口唇部縄文 胴部5本1組とする帯指波状文 胴部5-6本1組とする帯指斜交文	底部ほぼ定形 10 Y R 83(浅黄緑)	緻密。	Ⅱ・Ⅲ区
6	弥生土器 台付壺	(17.0) <12.2>	内 外 文	横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部1.1逆部縄文 口唇部に円形の粘 付文を施す(2→残存) 胴部胴上半を10本1組とする帯指波状文 を4条施し、10本1組とする帯指垂下文を 4ヶ所に施し、4等分する。	口縁部14残存 7.5 Y R 62(灰白)	緻密。 脚部はない。	Ⅰ区・Ⅲ区



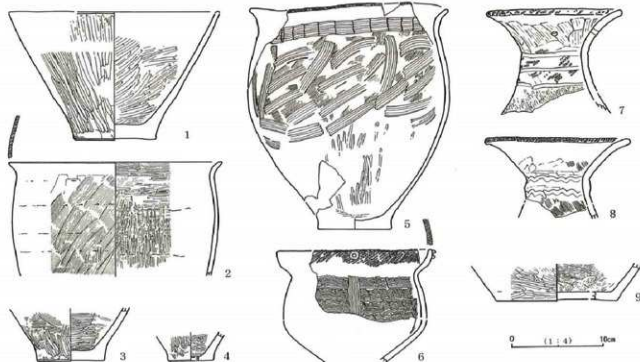
H 50 土層説明

1. 暗褐色土層 (HVR30) 暗褐色(HVR30)砂を多量に含む。
2. 暗褐色土層 (HVR30) 暗褐色(HVR30)砂主体。
3. 原褐色土層 (HVR30) わずかに炭化物粒を含む。(SP)
4. 原褐色土層 (HVR30) 炭化物・焼土粒子を含む。(SP)
5. 暗褐色土層 (HVR30) 砂質、チラチラ。(SP地方)
6. 原褐色土層 (HVR27) 焼土の砂フロックが多量混入し、シット質土を含む。(臨川)

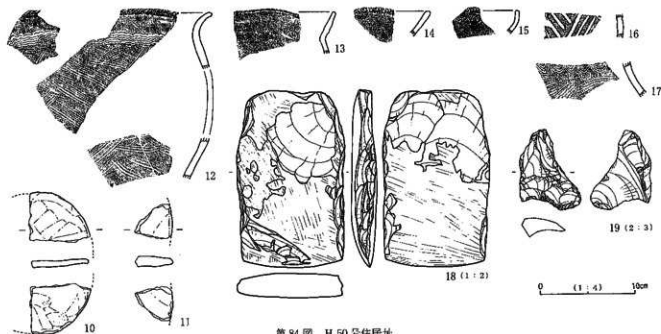


H 50号住居址 (北より)

如 (東より)



第83図 H 50号住居址



第84図 H50号住居址

第51表 H50号住居址出土遺物一覧表

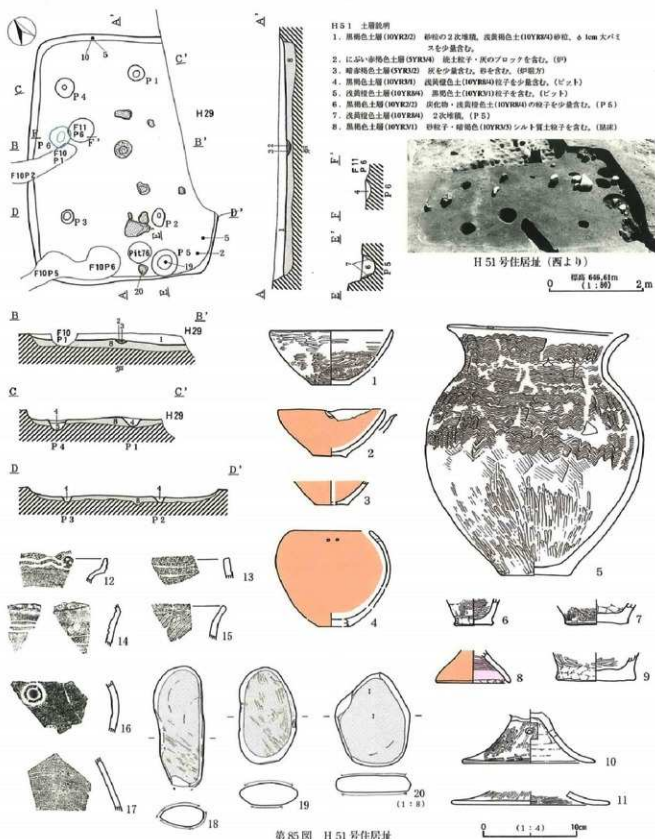
7	弥生土器 壺	14.9 — <11.3>	内外 口縁部横ナデ→ミガキ 胴部ナデ 口縁部横ナデ 胴部ナデ 胴部ミガキ 口唇部横文 胴部横文を施した後3条の ヘラ指痕を平行横文	口縁部3/4残存 7.5Y R 8/4(成黄緑)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。 口縁部に一ヶ所焼成前穿孔 あり。 摩耗している。	
8	弥生土器 壺	16.0 — <8.7>	内 口縁部(小ヶ状工具による)横ナデ→ミ ガキ 胴部ナデ 外 口縁部ハケナデ→横ナデ 胴部ナデ 胴部ハケナデ→ミガキ 文 口唇部横文 胴部帯状に粘土を貼り、2 状のヘラ指痕状文を施す。	口縁部完形 7.5Y R 7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	
9	弥生土器 壺	(13.4) — <4.0>	内外 ハケナデ ミガキ	底部1/3残存 5Y R 5/3(ぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	Ⅱ区
10	土製円板	<6.5> <5.1> <0.7>	内外 指及び工具によるナデ 指及び工具によるナデ	破片 7.5Y R 7/4(ぶい橙)	砂質。 1mmの白色粒子・小石含む。	Ⅰ区
11	土製円板	<4.0> <3.6> <1.1>	内外 ナデ ナデ	破片 7.5Y R 7/4(ぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。小石含む。	Ⅱ区

## 54) H 51 号住居址 (第85図、第51表、図版三十三・六十三・六十四)

6き4グリットにあり、H29・F10・F11に切られる。南北496cm、東西383cm、壁残高20cmの隅丸長方形を呈す。長軸方位はN-32°-Eを指す。主柱穴はP1-P4で、円形を呈し径24~40cm、深さ12~24cmを測る。炉は中央にあり、径20cmの円形範囲に焼土がみられた。

掲載遺物は杯(1~3)、高杯(8・10・11)、小鉢(4)、甕(5・6・9・15・17)、壺(7・12・13・16)、縄文の鉢(14)である。石製品では18が砂岩、スリ面があり端部が割れる。19が粘板岩でスリ面を持ち、赤色顔料が付着している。20は安山岩で、出入り口の敷石として使用されていた。

1は無形のミガキ調整された杯で、2~4・8は赤色塗彩され、10・11の高杯脚部は無形である。5の甕は口縁が胴



第85图 H51号住居址

部から屈曲して大きく外反し胴上部が球形に張るもので、口縁部から胴上部まで横溝波状文を施す。10・11の高杯脚部は胴部が大きく開くものである。10は円形の透が4箇所穿孔されている。

これらより弥生時代末～古墳時代初頭の土器群であろうか。

第52表 H 51号住居出土土器物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 杯	13.2 4.2 5.7	内外 ミガキ ミガキ	底部完形 2.5Y R 5/6(明赤褐色)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を多く含む。	Ⅱ区・Ⅲ区
2	弥生土器 杯 (片口)	11.5 3.6 5.0	内外 底 ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩	底部完 深い赤色塗彩10R 4/6(赤)	縦溝。 注口あり。	Ⅲ区・Ⅳ区
3	弥生土器 杯	— (3.5) <2.5>	内外 底 ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩 ミガキ・赤色塗彩	底部1/2残存 深い赤色塗彩10R 3/6(暗赤)	縦溝。	Ⅳ区
4	弥生土器 鉢	8.2 (3.4) 10.1	内外 底 ハケナデ→縦位ミガキ 縦位ミガキ・赤色塗彩 ミガキ	底部1/2残存 深い赤色塗彩10R 4/6(赤)	1mm以下の白色粒子含む。 内い合いに2ヶ所2コづつ穿 孔あり。	Ⅳ区
5	弥生土器 甕	19.2 7.5 26.3	内外 文 口縁部横位ミガキ・胴・底部ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→胴下半 縦位ミガキ 口縁部→胴下半に5本～13本を1組とする 横溝波状文を施す。	底部完形、口縁部3/4残存 7.5Y R 7/6(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	Ⅳ区
6	弥生土器 甕	— (4.2) <2.7>	内外 底 横位ミガキ ナデ・ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/6(にぶい橙)	縦溝。 1mm以下の白色粒子少量含 む。	Ⅲ区幅方
7	弥生土器 甕小段	— (6.7) <2.2>	内外 底 ナデ ハケナデ	底部1/2残存 10Y R 4/1(閑灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区幅方
8	弥生土器 高杯脚部	— (8.0) <3.4>	内外 底 ハケナデ・横ナデ・ナデ ミガキ・赤色塗彩	底部1/6残存 外 深い赤色塗彩 内 深い赤色塗彩	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区
9	弥生土器 甕	— (8.4) <3.0>	内外 底 ナデ→横位ミガキ ナデ・ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R 6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	Ⅲ区
10	弥生土器? 高杯	— 14.2 <3.3>	内外 底 径部ミガキ・脚部ナデ→胴部横ナデ ミガキ	底部3/4残存 7.5Y R 4/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 脚に4ヶ所に透かしあり。	Ⅱ区
11	弥生土器? 高杯	— (16.8) <1.4>	内外 底 ハケナデ(横位) ハケナデ(縦位)	底部1/5残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	Ⅲ区

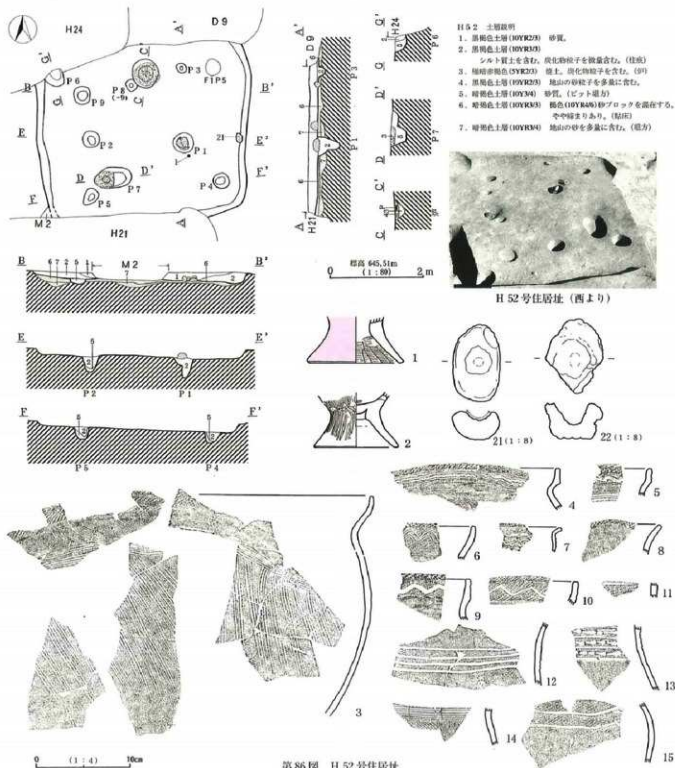
## 55) H 52号住居址 (第86・87図、第53表、図版三十四・六十四)

3い9グリットにあり、H21・H24・F1・D9に切られる。南北残長360cm、東西420cm、壁残高21cmを測る。長軸方位はN-4°-Wを指す。主柱穴はP1・P2で南側の2本にあたる。径40・30cm、深さ44・36cmを測る。炉は住居中央にあたる場所にあり、径60cmの円形範囲に焼土がみられた。また南西のP7上面にも焼土がみられた。

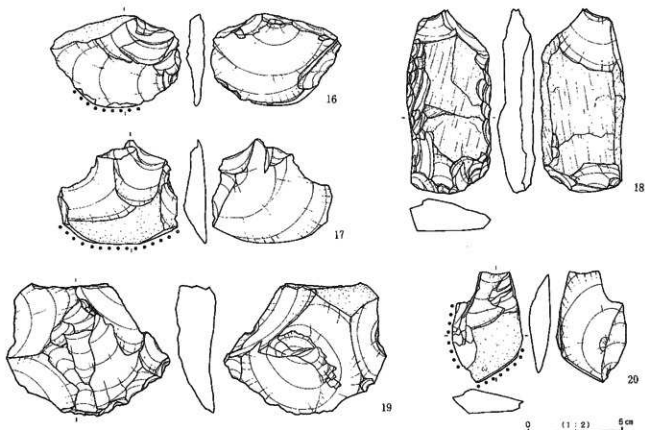
掲載遺物には弥生式土器の台付鉢(1)、台付甕(2)、甕(1~7・9~10・14)、甕(8・11~13・15)と軽石製の円石(21・22)がある。また石製品には黒色ガラス質安山岩製の剥片石器が出土している(16・17・19・20)。拓部に刃部を作り出している。18は黒色ガラス質安山岩より、緑色がかっている。扁平片刃石斧の未製品であろうか。拓影図にみる裏は受け口で端部面取り縄文を転がしている。裏は口縁部面取り後縄文を転がし、頸部・胴部への施文はヘラ描きである。これらは弥生時代中期後半の土器群であろうか。

第53表 H 52号住居址出土土器物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 台付鉢	— 10.3 4.9	内外 底 ナデ及びハケナデ ミガキ・赤色塗彩	脚部完形 内 10Y R 8/3(浅黄橙) 外 深い赤色塗彩2.5Y R 5/6 (明赤褐色)	縦溝。	
2	弥生土器 台付甕	— 9.0 <3.8>	内外 底 胴部ミガキ・脚部 横ナデ ハケナデ→縦位ミガキ	脚部3/4残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	H24Ⅲ区



第86図 H 52号住居址



第 87 図 H 52 号住居址

## 56) H 53 号住居址 (第88図、第54表、図版三十四・六十五)

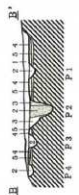
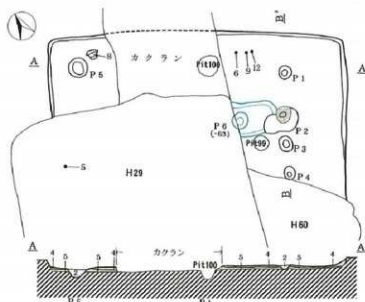
6か4グリットにあり、H29・H60に切れ、攪乱により中央部を壊される。東西617cm、壁残高11cmを測る。住居址の形態はつかめない。軸方位はN-28°-Eを指す。P2が北東の主柱穴で他は攪乱や、他遺構によって壊されている。炉も壊されている。

掲載遺物には弥生式土器の壺(1~4・15~18)、甕(6~11)、蓋(5)、杯(12~14)がある。壺は小型品で、端部面取りし縄文施文され短く外反する1、受口で端部面取り縄文施文、口縁外側縄文にヘラ描波状文、胴部文様は「コ」の字重ね文の3の壺と帯描波状文と帯描斜走文の4がある。6は壺の小型品で、胴下部に円形で24mmの焼成後の穴が開く。口縁部刻み、頸部にヘラ描き沈線が施される。7は中型品で、口縁端部面取り縄文を転がし、外反する口縁で、頸部にヘラ描き沈線のみを施す。8・11は大型品で、8は明瞭な外縁はないが受口で口縁端部面取りし縄文、頸部に縄文と3本の横位平行沈線を施文する。11は受口外面に縄文を転がさないでヘラ描波状文のみ施文し、頸部に縄文を転がし、ヘラ描の沈線が横走する。鉢ないし杯は赤色塗彩ミガキが施される。これらの土器は弥生時代中期後半の土器群であろう。

第 54 表 H 53 号住居址出土遺物一覽表 (1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	粘土・特徴	出土位置
1	弥生土器 壺	(18.0) — <11.4>	ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ナデ 口唇部 縄文 胴部 8~9本1組とする、帯描波状文を 施す。	11線部1/4残存 7.5Y R5/2(灰青)・7.5Y R7/3 (にぶい色)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子少量含む。	検出
2	弥生土器 蓋	— (6.4) <10.3>	ミガキ ハケナデ→ミガキ 帯描波状文(単位わからない)	底面1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい色)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	Ⅱ区





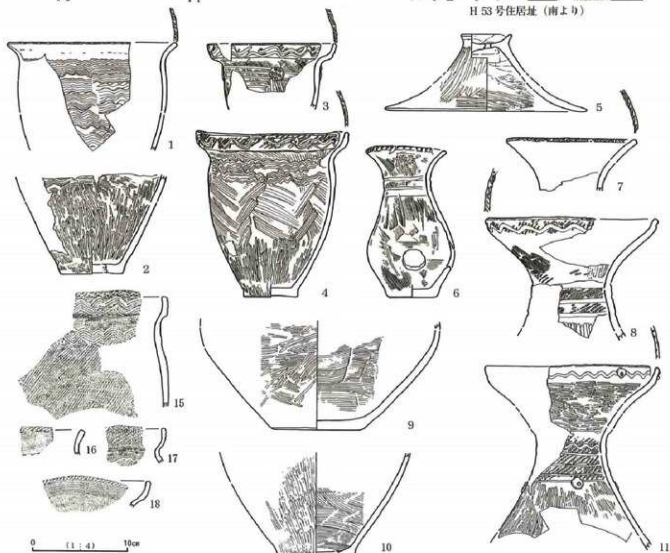
## H53 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1)  
シルト質土砂子・粘土ブロック・砂を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)  
シルト質土砂子・砂粒子を含む。(砂層)
3. 暗褐色土層 (10YR2/3) (ピット層3)
4. 暗褐色土層 (10YR2/3)  
褐色(10YR4/6)砂ブロックを混在する。(砂層)
5. 暗褐色土層 (10YR2/4)  
地中の砂を多量に含む。(粗方)

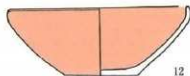
標高 646.58m  
(1:50) 2m



H53号住居址 (南より)



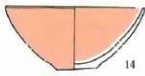
第88圖 H53号住居址



12



13



14

第89図 H 53号住居址

0 (1:4) 10cm

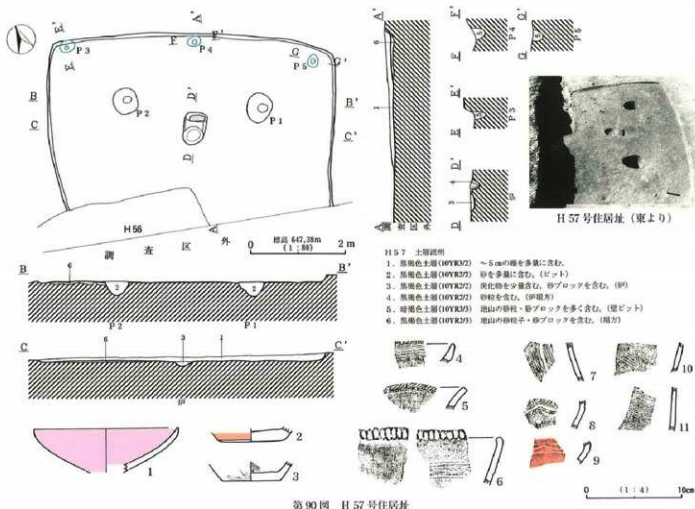
第54表 H 53号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
3	弥生土器 甕	(13.8) — <6.9>	内外文 ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部縄文 口唇部横ナデ→ヘラ描流状文を2条 胴部へラ描「コ」の字を施し、単位の間 切り部分にボタン状の貼付文を施す。4 個の口縁部残存	口縁部1/2残存 7.5Y R6/4(にぶい梅)	緻密。 1mmの白色粒子を含む。	Ⅱ区
4	弥生土器 甕	(16.3) 5.8 17.4	内外文 口縁部横位ミガキ・胴部横位ミガキ ハケナデ→胴下平横位ミガキ 口唇部縄文 口唇部縄文を地文とし、2条のヘラ描 流状文 胴部6本組とする横描流状文を2条 胴部5本組とする横描流状文	底部完形、口縁部1/3残存 7.5Y R5/2(灰白)	1mm以下の白色粒子含む。	
5	弥生土器 蓋	(21.6) 5.4 8.1	内外 ヘラナデ・ハケナデ→粗いミガキ ミガキ	縁はほぼ完形、口縁部1/6残存 5Y R5/3(にぶい赤黄)	緻密。 つまみに一孔あり。	Ⅱ区1層
6	弥生土器 甕	8.6 5.4 15.9	内外文 ナデ・ハケナデ→口縁部わずかミガキ ハケナデ→ミガキ 口唇部にヘラ描斜突文 頸部にヘラ描 横走平行線文	底部完形、口縁部1/2残存 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。 1mmの白色粒子含む。 胴下部に浅黄褐色孔あり。 底部にも孔あり。	
7	弥生土器 甕	14.0 — <5.1>	内外文 横ナデ 横ナデ 口唇部に縄文を施す 頸部にヘラ描横 走文	口縁部完形 7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。 1mm以下の黒色粒子含む。	
8	弥生土器 甕	(18.5) — <12.9>	内外文 口縁部ミガキ(横紋)・頸部ナデ 口唇部横ナデ→ハケナデ・胴部横位ミガ キ 口唇部 縄文(増殖している) 口唇部 縄文→ヘラ描流状山形文 頸部 縄文→3条のヘラ描横走平行線 文	口縁部2/3残存 7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。	Ⅱ区
9	弥生土器 甕	— 10.0 <11.5>	内外 ハケナデ ハケナデ→ミガキ	底部完形(内面調整) 7.5Y R5/3(にぶい梅)	1mm以下の黒色粒子・白色 粒子・赤色粒子を含む。	
10	弥生土器 甕	— 8.1 <11.2>	内外 ハケナデ ミガキ(根位)	底部2/3残存(摩耗) 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。 外面に一部、赤色塗料の付着 がみられる。	Ⅱ区・Ⅱ区
11	弥生土器 甕	(18.6) — <19.7>	内 口縁部横位ミガキ・頸部ナデ・胴部ハケ ナデ 外 口縁部横ナデ・横位ミガキ 胴部横位ミ ガキ 口唇部縄文 口唇部横ナデの後ボタン状 貼付文(2コのみ残存)施す 頸部縄文を地文とし、ヘラ描流状山形文 を施し、その下に4条のヘラ描横走平行 線文を施す。その後頸部と胴部の境にボ タン状貼付文(2コのみ残存。そのうち1 コは、中央に穴がない)施す。	口縁部1/2残存(摩耗) 10Y R8/2(灰白)	緻密。 口縁上部外面に縄文を転が していない。	Ⅱ区1層
12	弥生土器 鉢	(19.0) 7.5 7.2	内外 底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩 塗彩されない	口縁部1/2残存、底部3/4残存 (外面底部調整済) 濃い赤色塗彩10R4/6(赤)	緻密。	
13	弥生土器 鉢	17.8 2.5 7.5	内外 底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩 塗彩されない	底部完形(底部調整) 濃い赤色塗彩10R4/8(赤)	緻密。1mmの黒色粒子・白 色粒子を含む。口唇部に突起あ り。	
14	弥生土器 杯	(14.7) 4.2 6.6	内外 底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩 塗彩されない	口縁部1/5残存、底部1/2残存 濃い赤色塗彩10R3/6(暗赤)	緻密。	Ⅱ区・Ⅱ区

## 57) H 57号住居址 (第90図、第55表、図版三十四・三十五・六十四)

5き3グリットにあり、南側半域は調査区域外である。東西580cm、壁残高14cmを測り隅丸長方形を呈するものであろう。軸方位はN-25°-Eを指す。主柱穴は北側のP1・P2である。円形で径52cm、深さ30cmを測る。炉は主柱穴の間にあり、北側に炉縁石が置かれている。楕円形を呈し、長径68cm、短径50cm、深さ8cmを測る。

掲載遺物には弥生式土器の杯または高杯(1)、鉢(2)、壺(3・5・7~9)、甕(4・10・11)と縄文晩期の深鉢(6)がある。資料に限られ時期の詳細はわからないが、北側に炉がある住居址で、赤色塗彩がみられるなど、弥生時代後期の土器群であろうか。



第90図 H 57号住居址

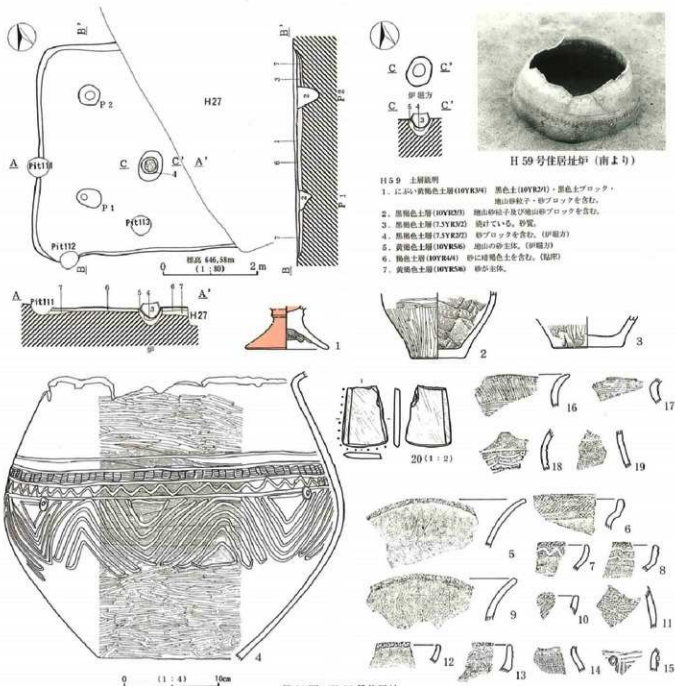
第55表 H 57号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	15.0 <1.6>	内外 赤色塗彩 赤色塗彩	口縁部1/4残存 濃い赤色塗彩 底の色7.5Y R8/4(浅黄緑)	緻密。	N区
2	弥生土器 壺	7.1 <1.4>	内外 ナデ 濃い赤色塗彩	底部1/2残存 濃い赤色塗彩 底の色10Y R8/2(灰白)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	I区
3	弥生土器 壺	(6.0) <2.0>	内外 ナデおよびハケナデ ミヤキ	底部1/2残存 10Y R8/2(灰白)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	I区

## 58) H 59 号住居址 (第91図、第56表、図版三十五・六十五)

6エ7グリットにあり、H27に東を切られる。南北427cm、東西は残長で408cmを測り、隅丸方形を呈するものであろうか。主柱穴は西側のP1・P2で径40・44cm、深さ28・48cmを測る。炉は住居址中央にあり、長径65cm 短径50cm 深さ37cmの楕円形の堀込みに4の甕を置いて火壺としていた。

掲載遺物には弥生式土器高杯(1)、壺(2・5・8~11・13・17~19)、甕(3・4・6・7・12・14~16)、黒色ガラス質安山岩製の端部がミガキ込まれている磨製製品の未製品(25)がある。4は口縁と底部を欠損しており、甕器形に甕の文様が施文され、胴中に文様がへう描される。実測資料・拓影図は検出面の資料で、弥生中期から後期末までが混入している。本住居址に確実伴うのは4の甕のみである。炉の甕や多くみられる破片からは、弥生時代中期後半であろうか。



第56表 H59号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	— (9.6) <4.5>	内外 ハケナデ ミガキ→赤色塗彩	底部2/3残存 10Y R9/2(灰白) 濃い赤色塗彩10R4/6(赤)	緻密。 凸帯線部にあり。	検出
2	弥生土器 壺	— 5.7 <6.9>	内外 ハケナデ ミガキ ナデ	底部完形 10Y R6/3(浅黄緑)	緻密。	検出
3	弥生土器 壺	— 7.6 <3.2>	内外 ナデ ハケナデ→隠位ミガキ	底部完形 7.5Y R7/1(にぶい靑)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	検出
4	弥生土器 壺	— 29.0	内 横状ミガキ 外 文 掘状工具による横位ナデ→横位ミガキ 4条の横走平行線文で4本1組とする帯 線状文、ヘラ端状文を区画する。その 下(胴部中央)に、ヘラ端状三角文を施 す。さらに、胴部中央にボタン状筋付文4 コが等分に施される。	胴部のみ残存 内 10Y R7/3(にぶい靑) 外 10Y R7/3(にぶい靑)	緻密。	否

## 3. 時代不詳の住居址

## 59) H8号住居址 (第14図、図版五・六・四十)

5え8グリットにあり、古墳時代のH10・H7に切られる。南北360cm、東西422cm、壁残高4cmの不整長方形を呈す。浅いため床面が一部削平され、ことに南側はプランも不明確であり、火処は検出されなかった。柱穴はP1～P4で柱痕が残り主柱穴であろう。

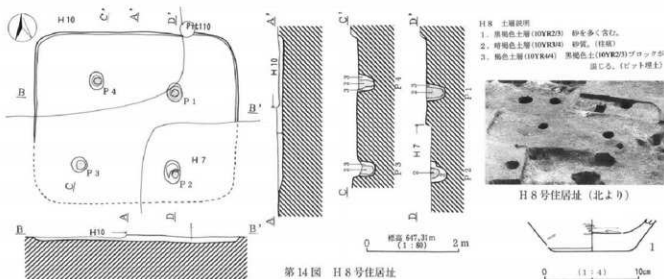
掲載遺物は弥生時代の壺の底部である。しかし破片は弥生時代中期の破片、古墳時代初頭のハケ壺、古墳時代後期の杯・甕、平安時代須恵器杯まで混入している。カマドの痕跡のないことなどから古墳時代中期以前であることはいえるが限定できる資料はない。

## 60) H39号住居址 (第92図、図版三十五)

5こ3グリットにあり、東側の大半は調査区域外である。南北396cm、東西252cm 壁残高15cm で、長軸方位N7°-Eを指す。出土遺物がなく時期がわからない。

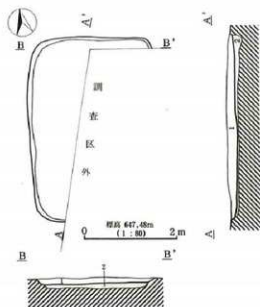
## 61) H60号住居址 (第93図、図版三十五)

6か5グリットにあり、H24・29と攪乱に切られ、H53を切る。しかし攪乱と重複のため、プランも充分にわからず、遺物は弥生中期の壺胴部片が検出面で3片あるのみである。時期の決定はできない。



第57表 H 8号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 壺	9.3 ×3.3	内外 ナナ ミガキ(摩耗している)	底部定形(外面摩耗) 内 7.5V R 7/4(にぶい段) 外 5V R 7/4(にぶい段)	砂質、2mm以下 の白色砂子、 黒色砂子を含む。	P3



## H 39 土層説明

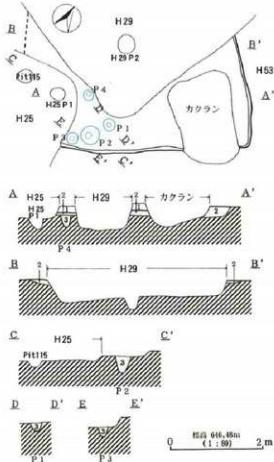
1. 黒褐色土層 (HVRK3) にぶい黄褐色土 (HVRM1) 砂子・6.5mm以下  
パミスを少量含む。

2. 黒褐色土層 (HVRK2)・灰黄褐色土 (HVRM2) 混在土層 (地方)



H 39号住居址 (西より)

第92図 H 39号住居址



## H 60 土層説明

1. 黒褐色土層 (HVRK3) 地山にのみ砂子を含む。

2. 黄褐色土層 (HVRK6) 地山か、砂が主体で砂まわりは全くない。

3. 黒褐色土層 (HVRK2) 地山砂子を含む。



H 60号住居址 (南西より)

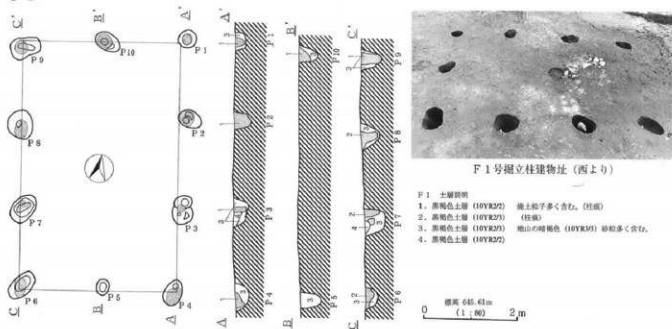
第93図 H 60号住居址

## 第2節 掘立柱建物址

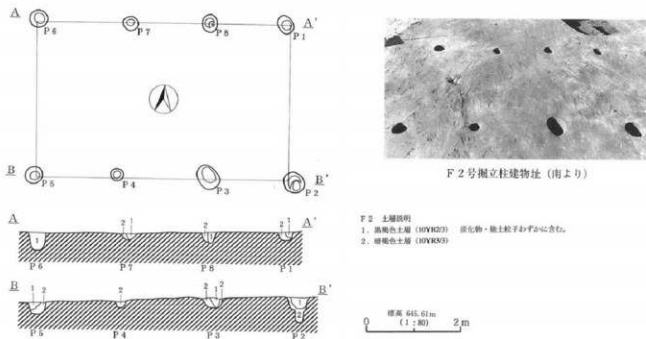
## 1) F1号掘立柱建物址 (第94図、図版三十六)

3い8グリットで検出され、古墳時代の後期のH24、弥生時代のH52・M2・D9・D20を切る。3間×2間の南北棟で主軸方位はN-11°-Wを指す。桁行き520cm、梁行き352cmの側柱式である。ピットは楕円形を呈し、長径は40~65cm、深さ26cm~46cmを測り、円形の柱痕が検出された。出土物は土器破片が少量あり、いずれも弥生式土器で、柳葉斜走文の甕、頸部糜状文の甕、無彩の壺胴部、赤色塗彩の杯ないし鉢の破片が出土している。

F 1



F 2



第94図 F1・F2号掘立柱建物址

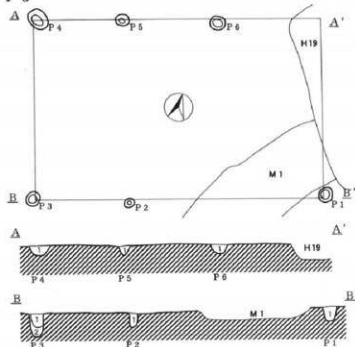
## 2) F2号掘立柱建物址 (第94図、図版三十六)

3え8グリットにあり、弥生時代のH50・M1・D22を切る。3間×1間の東西棟で、主軸方位はN-93°-Wを指す。桁行き536cm、梁行き328cmの側柱式である。柱穴は円形基調で、長径26~51cm、深さ12~53cmを測り、柱痕がみられた。出土遺物はP2から弥生式土器4片である。堯の底部と無彩の壺胴部片である。

## 3) F3号掘立柱建物址 (第95図、図版三十六)

3お7グリットにあり、古墳時代後期のH19・弥生時代のH50・M1を切る。3間×1間の東西棟で、長軸方位はN-73°-Wを指す。遺構と重複している地点のピットは検出できなかった。桁行き620cm、梁行き380cmの側柱式である。柱穴は円形を呈し、径20~48cm、深さ17~50cmを測る。出土遺物にはP2から土器小片が3片あり、土師器の葉片である。

## F3



F3 土層説明  
1. 黒褐色土層 (10YR2/0)  
2. 暗褐色土層 (10YR3/0) 砂土状。



F3号掘立柱建物址 (南より)

標高 645.61m  
0 1:100 2m

第95図 F3号掘立柱建物址

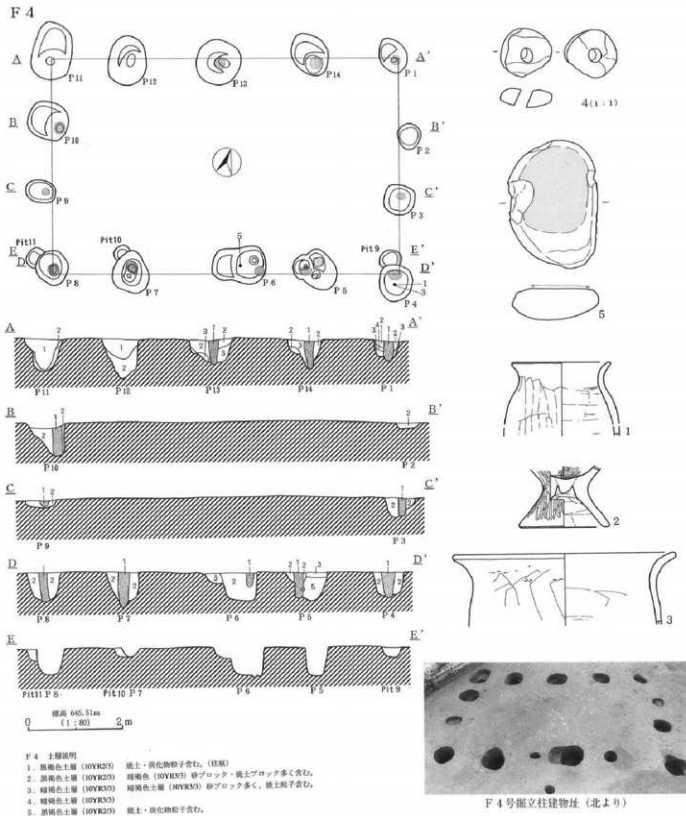
## 4) F4号掘立柱建物址 (第96図、第58表、図版三十六・六十六)

3え6グリットにあり、古墳時代後期のH19、弥生時代のH45・H46、F5、単独ピットP9・10・11を切る。4間×3間の東西棟で、長軸方位はN-70°-Wを指す。桁行き736cm、梁行き452cmの側柱式である。柱穴は円形ないし隅丸方形を呈し、長径54~117cm、深さ13~86cmを測る。南の列に重複する単独ピットP9~11は旧ピット列であろうか。径20~28cmの円形の柱痕がみられた。掲載遺物は土師器甕(1・3)、弥生式土器の台付甕(2)、滑石製白玉(4、P4出土)、砂岩製編物石(5、P6出土)がある。

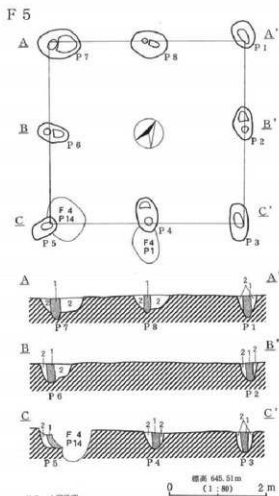
## 5) F5号掘立柱建物址 (第97図、図版三十六・六十六)

3え5グリットにあり、弥生時代のH46を切り、F4に切られる。2間×2間の側柱式である。東西が桁行きで400cm、梁行き368cmを測る。長軸方位はN-53°-Wを指す。柱穴は楕円形で長径58~90cm、深さ34~48cmを測る。柱痕が検出されている。伴う遺物はない。

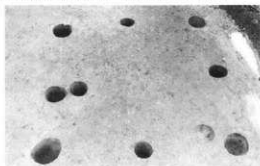
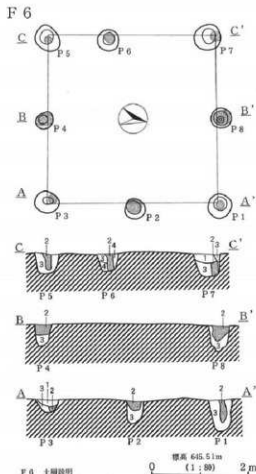




第 96 図 F 4号掘立柱建物址



F 5号獨立柱建物址 (北より)



F 6号獨立柱建物址 (南より)

第97図 F 5・6号獨立柱建物址

### 6) F6号獨立柱建物址 (第97図、図版三十六・六十六)

3い7グリットにあり、弥生時代のH45・M2を切っている。2間×2間で側柱式である。軸方位はN-23°-Wである。一辺352cmの方形を呈する。ピットは円形基調で長径24~56cm、深さ30~68cmを測り、柱痕が検出された。

出土遺物は土器破片があり、弥生時代の堯・無彩のヘラ描文のある壺、赤色塗彩される杯などが50片ほどある。土師器は古墳時代後期の長胴壺口縁部片・土師器杯の底部ヘラケズリ、内面ナデ調整の模倣杯の破片が8点ほどある。

## 7) F7号独立柱建物址 (第98図、図版三十六・六十六)

6く3グリットにあり、重複関係はない。2間×1間の東西棟ではある。南中央のピットが独立柱建物址の内側に入り込み、定位置にない。桁行き384cm、梁行き300cm、長軸方位はN-90°を指す。P3・P6から古墳時代後期の橙色の須恵器模倣杯片と、内面ミガキ外面口縁部横ナデ底部ヘラケズリされる杯片がある。後者は内面で屈曲し積を持って口縁が外傾する。

## 8) F8号独立柱建物址 (第98図、図版三十六・六十六)

6こ3グリットにあり、重複関係はない。2間×1間の南北棟で、桁行き320cm、梁行き256cm、長軸方位N-29°-Eを測る。不規則な柱穴配列である。柱穴は径7~13cm、深さ11~22cmを測る。出土遺物はない。

## 9) F9号独立柱建物址 (第98図、第58表、図版三十七・六十六)

2い9グリットにあり、重複関係はない。3間×3間の側柱式である。桁行き472cm、梁行き416cmの東西棟である。長軸方位はN-90°である。柱穴は円形で、径58~74cm、深さ27~53cmを測り柱痕が検出された。出土遺物は土師器と弥生式土器の受口状の甕、無彩の壱片が23片ある。掲載資料はP2から出土し古墳時代のミガキの施された丸胴甕である。球形を呈すであろう胴部片もある。

## 10) F10号独立柱建物址 (第99図、図版三十七・六十六)

6く4グリットにあり、弥生時代末のH51を切る。溝持ちの独立柱建物址に、北側に新柱穴が重複する。2間×1間で、旧の溝持ち独立柱建物址の規模は南北が長く240cm、東西224cmである。新ピット列はやはり南北が長く梁行き280cm、桁行き252cmを測る。長軸方位はN-12°-EとN-15°-Eである。出土遺物はP5から古墳時代の土師器丸胴甕片、橙色杯片がある。弥生時代後期の櫛波状文の甕、赤色塗彩破片などもある。

## 11) F11号独立柱建物址 (第99図、図版三十七・六十六)

6あ3グリットにあり、H39に切られる。3間×3間の側柱式である。重複部などで検出できなかったピットもあり、内容は明らかでない。東西560cm、南北470cmの東西棟で長軸方位はN-76°-Wを指す。柱穴は円形で長径36~60cm、深さ20~29cmを測る。出土遺物はない。

## 12) F12号独立柱建物址 (第99図、図版三十七・六十六)

6い2グリットにあり、F20を切る。2間×1間の側柱式である。桁行き472cm、梁行き320cmの南北棟で長軸方位N-13°-Wを指す。柱穴は円形で、径36~65cm、深さ17~29cmを測る。出土遺物は3片土器があるが弥生時代の櫛波状文の壱片と、古墳時代の土師器壱片がある。

## 13) F13号独立柱建物址 (第100図、第58表、図版三十七・六十六)

6え9グリットにあり、H34に切られる。3間×3間の側柱式である。桁行き460cm、梁行き412cmの東西棟で長軸方位N-90°を指す。柱穴は円形で60~78cm、深さ23~31cmを測る。出土遺物は弥生式土器とP2から古墳時代後期長胴甕胴部片がでている。掲載遺物は弥生時代の赤色塗彩された杯(1・2)、甕(3)、甕(4・5)である。

## 14) F14号独立柱建物址 (第100図、第58表、図版三十七・六十六)

2あ10グリットにあり、一部攪乱の影響を受ける。重複関係はない。3間×3間の側柱式である。桁行き476cm、梁行き392cmの東西棟で、N-88°-Wを指す。柱穴は円形を呈し、径52~71cm、深さ16~46cmを測る。7個のピットに柱痕が検出された。掲載遺物、土器破片もすべて弥生時代の土器である。

## 15) F15号独立柱建物址 (第101図、図版三十七)

5あ8グリットにあり、M4に切られる。3間×2間の側柱式である。柱穴の配列が不規則である。桁行き580cm、梁行き492cmを測り、長軸方位はN-80°-Wを指す。柱穴は円形で径46~65cm、深さ17~40cmを測る。出土遺物は弥生式土器と土師器片がある。土師器は古墳時代前期のハケ目の残る小型壺、ミガキ黒色処理された古墳時代後期の杯片がある。

## 16) F 16号掘立柱建物址 (第101図、図版三十七)

5×2グリットにあり、古墳時代後期のH43に切られる。3間×3間の側柱式である。桁行き456cm、梁行き388cmを測る東西棟で、長軸方位はN-74°-Eを指す。柱穴は円形を呈し、径36~74cm、深さ17~37cmを測る。出土遺物はない。

## 17) F 17号掘立柱建物址 (第101図、図版三十七)

5か10グリットにあり、南から東は調査区域外であるため掘立柱建物址の規模形態はわからない。柱穴は42~48cm、深さ21~27cmを測る。弥生式土器、古墳時代の土師器の断片があるが土師器は小片で詳細はわからない。

## 18) F 18号掘立柱建物址 (第102図、図版三十七)

5う5グリットにあり、北側は検出できず、南西だけ判明した。3間×3間の側柱式である。桁行き536cm、梁行き424cmの東西棟で、長軸方位はN-64°-Eを指す。柱穴は径29~64cm、深さ11~26cmを測る。弥生式土器、古墳時代前期の土師器ハケ萐、後期の長胴甕片などがある。

## 19) F 19号掘立柱建物址 (第102図、図版三十七)

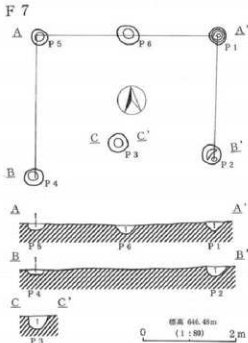
5う7グリットにあり、H1~3を切る。2間×2間の側柱式である。南北376cm、東西352cmを測り、長軸方位はN-2°-Eを指す。柱穴は円形で径30cm~55cm、深さ13~36cmを測る。出土遺物には弥生式土器2片、古墳時代土師器ハケ萐、須恵器カキ目瓶片がある。

## 20) F 20号掘立柱建物址 (第102図、図版三十七)

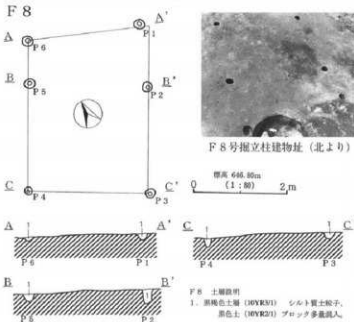
6う1グリットにあり、F12に切られる。2間×2間であるが東列ではその間にもピットがみられる。南北448cm、東西440cmのほぼ方形である。軸方位はN-13°-Wを指す。柱穴は円形で径28~58cm、深さ7~18cmを測る。出土遺物はない。

第58表 掘立柱建物址出土遺物一覧表

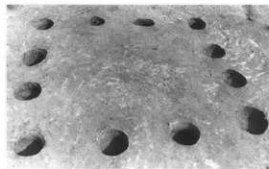
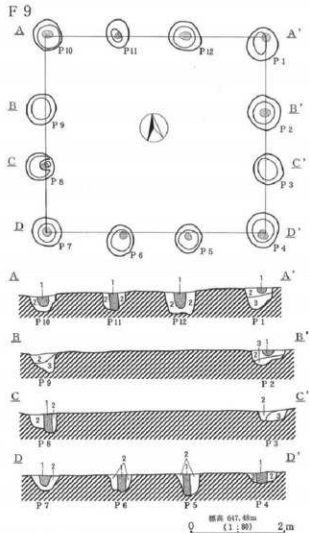
番号	器種	法沢	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
F4 1	土師器 甕	(10.6) - <7.8>	内外 □縁部横ナデ→胴部ヘラナデ □縁部横ナデ→胴部ヘラナデ(縦位)	□縁部1/3残存 10Y R 8/2(灰白)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子・白色粒子含む。	P8
F4 2	弥生土器 白付萐	9.7 - <6.5>	内外 杯部ミガキ、胴部ナデ(横ナデ) ミガキ	胴部定形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	P12
F4 3	土師器 甕	(22.8) - <7.6>	内外 □縁部横ナデ→胴部ヘラナデ □縁部横ナデ→胴部横位ケズリ	□縁部1/8残存 7.5Y R 6/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子・赤色粒子・小石・ウモン 含む。	P4
F9 1	土師器 甕	(16.8) - <5.7>	内外 ミガキ □縁部横ナデ、□縁部横位ミガキ	□縁部1/4残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	P2
F13 1	弥生土器 杯	(14.0) - <3.0>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	□縁部1/6残存 濃い赤色塗彩 地の色7.5Y R 6/3(にぶい橙)	断面。1mm以下の白色粒子 少量含む。	P2
F13 2	弥生土器 杯	(13.6) - <4.0>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	□縁部1/4残存 濃い赤色塗彩 地の色7.5Y R 6/3(にぶい橙)	断面。1mm以下の白色粒子 少量含む。	P2
F13 3	弥生土器 甕	(20.6) - <4.0>	内外 ハケナデ→ミガキ ハケナデ→ミガキ	□縁部1/8残存 2.5Y R 6/6(橙)	断面。1mm以下の白色粒子 少量含む。	P2
F14 1	弥生土器 甕	(6.2) - <6.0>	内外 ナデ 胴位ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	P6
F14 2	弥生土器 甕	(5.0) - <7.2>	内外 横位ミガキ ハケナデ→ミガキ	底部1/3残存 10Y R 5/2(灰黄緑)	1mm以下の白色粒子多量含 む。	P6



F7号掘立柱建物址 (北より)



F8号掘立柱建物址 (北より)

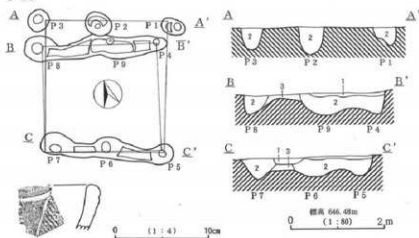


F9号掘立柱建物址 (南より)



第98図 F7・F8・F9号掘立柱建物址

F 10



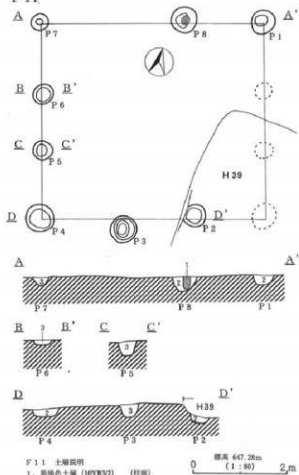
F 10 土層説明

1. におい・黄褐色土層 (10YR6/4)
- 黄褐色土 (10YR3/1) ににおい・黄褐色土 (10YR5/3) の混在土層。
2. 黄褐色土層 (10YR2/2) ににおい・黄褐色土層 (10YR6/4) が混在。
3. におい・黄褐色土層 (10YR5/3) 砂の二次堆積。



F 10号掘立柱建物址 (北より)

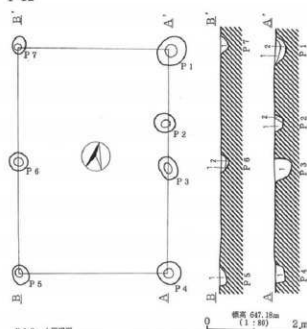
F 11



F 11 土層説明

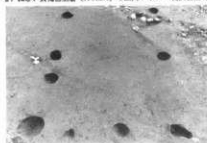
1. 黄褐色土層 (10YR3/2) (柱間)
2. 黄褐色土層 (10YR3/2)
3. 褐色土 (10YR4/3) ににおい・黄褐色土 (10YR5/3) の混在土層

F 12



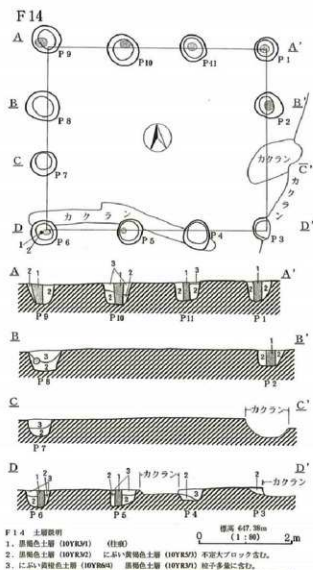
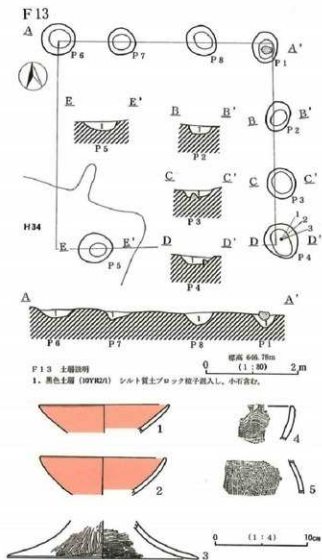
F 12 土層説明

1. 褐色土層 (10YR4/3) ににおい・黄褐色土層 (10YR5/3) の混在土層
2. におい・黄褐色土層 (10YR5/3) 1mm未満のX - 褐色土 (10YR4/3) が少量混在。

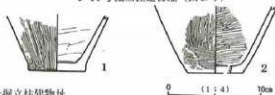


F 12号掘立柱建物址 (北より)

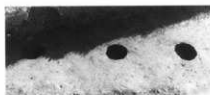
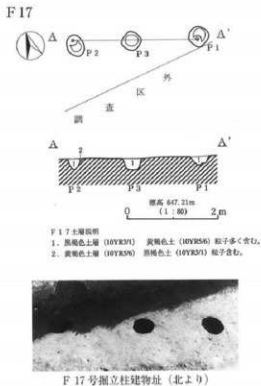
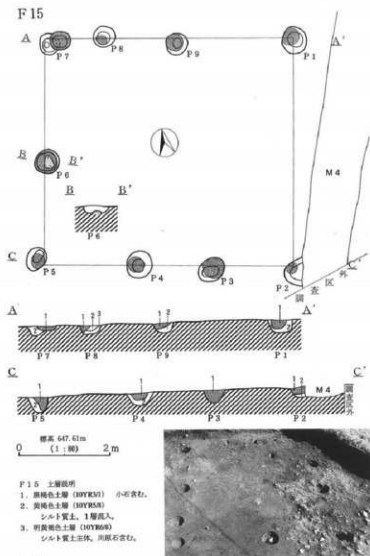
第99図 F 10・F 11・F 12号掘立柱建物址



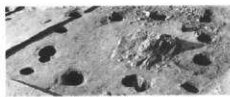
F14号竪立柱建物址 (西より)



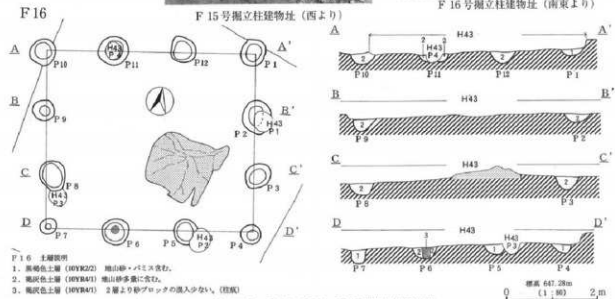
第100図 F13・F14号竪立柱建物址



F 17号掘立柱建物址 (北より)



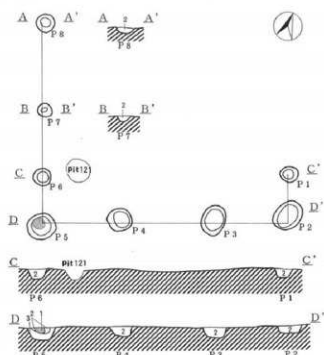
F 16号掘立柱建物址 (南東より)



第101図 F 15・F 16・F 17号掘立柱建物址



F18



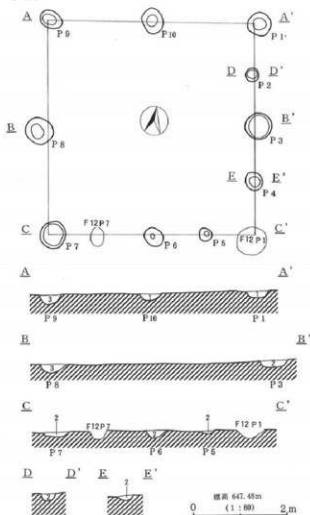
F18 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) (柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR3/1) に赤い黄褐色 (10YR5/4) 砂物少し含む。
3. 黄褐色土層 (10YR5/6) 砂の二次堆積層。



F18号掘立柱建物址(北西より)

F20



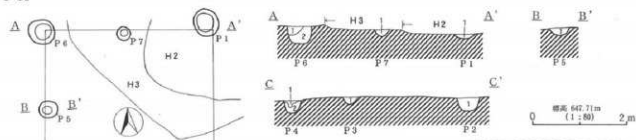
F20 土層説明

1. 褐色土層 (10YR4/1) - に赤い黄褐色土層 (10YR3/2) 混在層
2. 黄褐色土層 (10YR5/6) - 黒褐色土層 (10YR3/1) 混在層
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) - 黄褐色土層 (10YR5/6) 混在層



F19号掘立柱建物址(北より)

F19



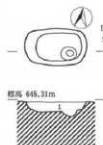
F19 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/1) - に赤い黄褐色土層 (10YR5/4) の混在層
2. に赤い黄褐色土層 (10YR5/4) 黒褐色土 (10YR3/1) 粒子含む。

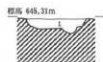
第102図 F18・F19・F20号掘立柱建物址

第3節 土坑

D 3



D 3 土層説明  
1. に近い黄褐色土層 (10YR4/2)  
黄褐色土 (10YR3/2) に  
近い黄褐色土 (10YR6/4)  
の不定大ブロックを含む。



D 3号土坑 (南より)

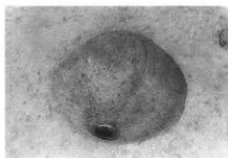
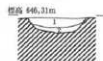
【D 3号土坑】

検出位置 7 ㊦3 グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
128 × 75 × 33cm  
平面形 隅丸方形  
出土遺物 弥生 甕・壺片  
古墳 丸胴甕片

D 6



D 6 土層説明  
1. 黒色土層 (10YR2/1)  
シルト質土ブロック少量  
含む。  
2. 黄褐色土層 (10YR3/2)  
シルト質土粒子・砂粒  
含む。



D 6号土坑 (北東より)

【D 6号土坑】

検出位置 6 ㊦3 グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
128 × 121 × 35cm  
平面形 円形  
出土遺物 弥生 甕・壺片  
古墳 長胴甕片

D 7



D 7 土層説明  
1. 黄褐色土層 (10YR3/1)  
黄褐色 (10YR5/6) 砂粒  
含む。

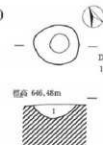


D 7号土坑 (西より)

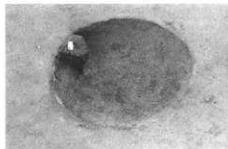
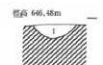
【D 7号土坑】

検出位置 6 ㊦2 グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
132 × 116 × 36cm  
平面形 円形  
出土遺物 弥生 甕・壺片  
古墳 甕片  
踏出土

D 10



D 10 土層説明  
1. 黄褐色土層 (10YR3/1)  
黄褐色 (10YR5/6) 砂粒  
含む。



D 10号土坑 (北より)

【D 10号土坑】

検出位置 6 ㊦2 グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
92 × 84 × 28cm  
平面形 円形  
出土遺物 古墳 鉢片

D 11



D 11 土層説明  
1. 黄褐色土層 (10YR3/2)  
シルト質土含む。  
2. 黄褐色土層 (10YR3/2)  
暗褐色砂 (10YR3/3) 含む。  
3. 黄褐色土層 (10YR3/3)  
褐色砂 (10YR4/4)・シルト  
質土多く含む。



D 11号土坑 (北東より)

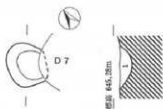
【D 11号土坑】

検出位置 3 か 8 グリット  
重複関係 H 17 を切る。  
規模 (長径×短径×深さ)  
96 × 90 × 63cm  
平面形 隅丸方形  
出土遺物 弥生 壺片  
古墳 甕・鉢片

0 (1:80) 2m

第 103 図 古墳時代の土坑 (D 3・D 6・D 7・D 10・D 11)

D12



D12 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) シルト質土ブロック・砂含む。



D12号土坑 (北より)

【D12号土坑】

検出位置 6け2グリット  
重複関係 D7に切られる。D17を切る。  
規模 (長径×短径×深さ)

94×63×35cm

平面形 楕円形

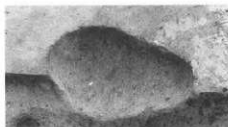
出土遺物 弥生 甕・壺片

古墳 甕・鉢片

D15



D15 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/1) シルト質土ブロック  
砂多量を含む。

D15号土坑 (西より)

【D15号土坑】

検出位置 6こ3グリット  
重複関係 H23に切られる。

規模 (長径×短径×深さ)

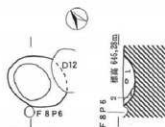
86×-×29cm

平面形 楕円形

出土遺物 弥生 甕・壺片

古墳 丸胴壺片

D17



D17 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) シルト質土ブロック・シルト質土粒子含む。  
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多量を含む。

D17号土坑 (西より)

【D17号土坑】

検出位置 6こ2グリット  
重複関係 D12に切られる。

規模 (長径×短径×深さ)

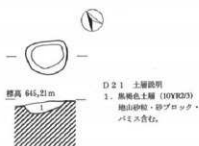
106×96×30cm

平面形 円形

出土遺物 弥生 壺・壺片

古墳 壺片

D21



D21 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 地山砂粒・砂ブロック・  
パミス含む。

D21号土坑 (北より)

【D21号土坑】

検出位置 6け10グリット  
重複関係 なし

規模 (長径×短径×深さ)

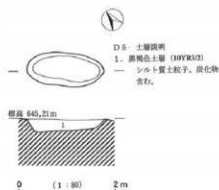
86×68×22cm

平面形 楕円形

出土遺物 弥生 甕・杯片

古墳 壺片

D5



D5 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土粒子・炭化物  
含む。

D5号土坑 (北より)

【D5号土坑】

検出位置 7い8グリット  
重複関係 なし

規模 (長径×短径×深さ)

158×70×25cm

平面形 長楕円形

出土遺物 弥生 甕・杯片

第104図 古墳時代の土坑 (D12・D15・D17・D21)・弥生時代の土坑 (D5)

D 8



D 8 土層説明  
1. 黒褐色土層 (HVR22)  
炭化物含む。  
2. 黒褐色土層 (HVR22)  
炭化物含む。

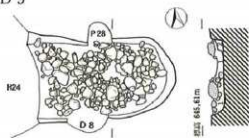


D 8号土坑 (北より)

【D 8号土坑】

検出位置 3い9グリット  
重複関係 D 9を切る。  
規模 (長径×短径×深さ)  
920×66×21cm  
平面形 楕円形  
出土遺物 弥生 葉片  
種多数出土

D 9



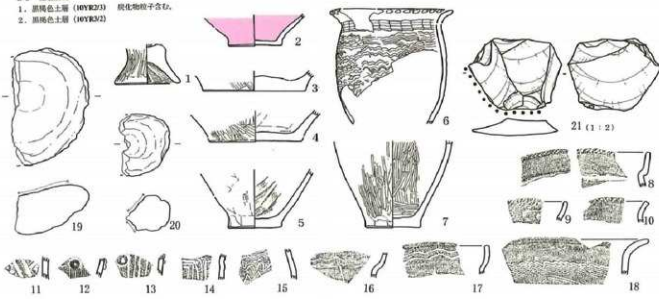
D 9 土層説明  
1. 黒褐色土層 (HVR23) 炭化物粒を含む。  
2. 黒褐色土層 (HVR22)



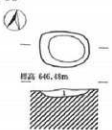
D 9号土坑 (南より)

【D 9号土坑】

検出位置 3い9グリット  
重複関係 H 24・D 8に切られ、H 52・M 2を切る。  
規模 (長径×短径×深さ)  
< 290 > × 166 × 31cm  
平面形 隅丸長方形  
出土遺物 弥生 甕・壺、  
軽石製凹石、剥片石器  
(第59表、図版六十六)



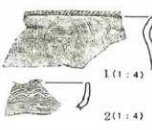
D 18



D 18 土層説明  
1. 黒色土層 (HVR21)  
シルト質土含む。



D 18号土坑 (北より)

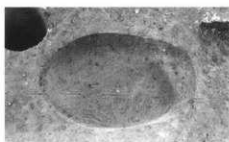
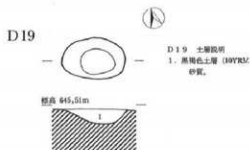


【D 18号土坑】

検出位置 6か5グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
104×80×14cm  
平面形 隅丸長方形  
出土遺物 弥生 甕・壺・  
杯片

0 (1:80) 2m

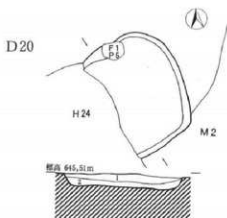
第105図 弥生時代の土坑 (D 8・D 9・D 18)



D19号土坑 (南より)

## 【D19号土坑】

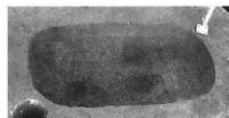
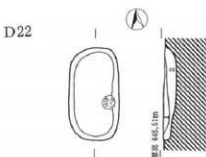
検出位置 3い8グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
134×87×33cm  
平面形 隅丸方形  
出土遺物 弥生 壺片



D20号土坑 (南西より)

## 【D20号土坑】

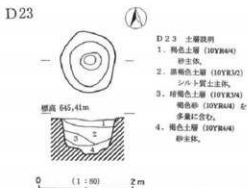
検出位置 3い8グリット  
重複関係 H24に切られる。  
規模 (長径×短径×深さ)  
239×<160>×35cm  
平面形 隅丸方形  
出土遺物 弥生 壺片



D22号土坑 (西より)

## 【D22号土坑】

検出位置 3え9グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
197×107×39cm  
平面形 隅丸長方形  
出土遺物 弥生 壺片



D23号土坑 (東より)

## 【D23号土坑】

検出位置 3か7グリット  
重複関係 なし  
規模 (長径×短径×深さ)  
130×114×77cm  
平面形 円形  
出土遺物 弥生 壺・壺片

第106図 弥生時代の土坑 (D19・D20・D22・D23)



D 25 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 土層含む、砂質土。  
 2. 増褐色土層 (10YR3/3) 地山の褐色土 (10YR4/4) を多く含む。



D 25号土坑 (東より)



1 (1:4)



2 (1:4)

【D 25号土坑】  
 検出位置 6お7グリット  
 重複関係 H 55に切られる。  
 規模 (長径×短径×深さ)  
 262×<159>×43cm  
 平面形 隅丸長方形  
 出土遺物 弥生 甕  
 露出土  
 (第59表、図版六十六)

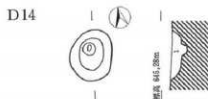


D 13 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土粒子・砂含む。



D 13号土坑 (東より)

【D 13号土坑】  
 検出位置 6こ3グリット  
 重複関係 なし  
 規模 (長径×短径×深さ)  
 143×107×22cm  
 平面形 楕円形  
 出土遺物 なし



D 14 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土ブロック・砂含む。

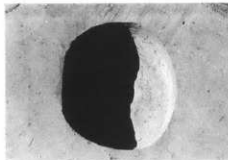


D 14号土坑 (北より)

【D 14号土坑】  
 検出位置 6こ2グリット  
 重複関係 なし  
 規模 (長径×短径×深さ)  
 110×86×38cm  
 平面形 楕円形  
 出土遺物 なし



D 24 土層説明  
 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土含む。  
 2. 緑褐色土層 (7.5YR3/2) シルト質土。  
 3. 褐色土層 (10YR4/4) 地山の砂主体。

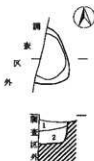


D 24号土坑 (東より)

【D 24号土坑】  
 検出位置 3か7グリット  
 重複関係 なし  
 規模 (長径×短径×深さ)  
 109×94×59cm  
 平面形 隅丸長方形  
 出土遺物 なし

第107図 弥生時代の土坑 (D 25)・時代不詳の土坑 (D 13・D 14 D 24)

D26



- D26 土層説明  
 1. 赤褐色土層 (0.7m) 砂土状。  
 2. 黒褐色土層 (0.9m) シルト質土含む。  
 3. 黒褐色土層 (0.9m) シルト質土・地山砂多く含む。

0 距離 445.41m (1:80) 2m

第108図 時代不詳の土坑 (D26)

【D26号土坑】

検出位置 7え4グリット  
 重複関係 西側は調査区外  
 規模 (長径×短径×深さ)  
 120×60×61cm  
 平面形 隅丸長方形  
 出土遺物 なし

第59表 土坑出土遺物一覧表

番号	容積	法量	成形・調整	残存量・色調	粘土・特徴	出土位置
D9 1	弥生土器 高杯状	7.0 <4.1>	内 栗部ミガキ 白部ハケナデ 外 ミガキ	底部3/4残存 7.5Y R7/4(にぶい型)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	
D9 2	弥生土器 蓋	5.7 <3.3>	内 ミガキ→赤色塗彩(一部黒色化) 外 ミガキ→赤色塗彩・底部ミガキ	底部完形 淡い赤色塗彩 地の色10Y R8/4(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。	
D9 3	弥生土器 蓋	(11.0) <3.3>	内外 調整・磨削のため割捨てず。 ハケナデ・底部ナデ	底部1/2残存(割壊・磨削) 10Y R7/3(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。	
D9 4	弥生土器 蓋	(9.8) <3.2>	内 ナデ 外 ミガキ・底部ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R7/2(明褐灰)	緻密。1mm以下の白色粒子・ 赤色粒子少量含む。	
D9 5	弥生土器 蓋	5.8 <6.1>	内 ハケナデ 外 ナデ→ミガキ	底部完形 10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子少量含 む。外面の磨耗著しい。	
D9 6	弥生土器 甕	13.1 <12.1>	内外 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部縄文を施した後、指頭による押捺 が施される。 胴部4本1組とする縄縞線状文(等間隔め) を施す。 胴部3-4本1組とする縄縞波状文を施す。	口縁部1/2残存 5Y R6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子含む。	
D9 7	弥生土器 甕	(5.8) <3.1>	内 ミガキ 外 ナデ→ミガキ	底部1/2残存 10Y R6/2(灰黄褐)	緻密。	
D25 1	弥生土器 甕	14.4 <14.2>	内外 ミガキ 胴下部ミガキ 胴部11本1組とする縄縞線状文を2条(2 条止め)。 口縁部・胴部8本-16本を単位とする縄 縞斜定平行線文?	口縁部2/3残存 7.5Y R6/4(にぶい型)	緻密。	
D25 2	弥生土器 高杯	13.0 <9.0>	内 横ナデ 外 ミガキ	胴部完形 7.5Y R7/4(にぶい型)	1mm以下の白色粒子多く含 む。	

## 1. 古墳時代の土坑

古墳時代の土器片を出土する土坑10基をまとめてみた。D3・D5は長方形ないし楕円形である。他は円形基調、径100cm前後、深さ30cm、(D11は63cm)と全般的に深いものである。これらの土坑は6け2グリットにまともっており、形跡のはっきりしない掘立建物址があるが竇穴住居址はなく、住居址群の中間に存在している。

## 2. 弥生時代の土坑

8基の弥生時代までの土器を出土する土坑をまとめた。しかし、たまたま古墳時代の土器片を含まなかった可能性もあるため、その帰属は不確実である。D9号土坑は多数の礫と弥生時代中期の土器、軽石製円石、剥片石器を出土している。隅丸長方形を呈し底面は平坦である。D20・D25は隅丸長方形で底面が平坦である。D2からは弥生時代後期末の甕と土師器高杯が出土する。

## 第4節 溝址

## 1) M1号溝址 (第109図、第60表、図版六十六・六十七)

3う5グリットから3お9グリットにかけて検出された。古墳時代後期のH19・F2・3に切られ、弥生時代中期のH45・H50を切る。ほぼ直線で余長19.5m、幅1.2~2.1m、深さ18cmを測る。溝底の高低は10cmほど北に低くなる。掲載遺物は弥生式土器鉢(1)、甕(2~4・6)、台付甕(7)、壺(5・9)、軽石製白石(10)、扁平片刃石斧(8)がある。これらは弥生時代中期の土器群である。

## 2) M2号溝址 (第110図、第60表、図版六十七)

3い6グリットから3い9グリットにかけて溝面して検出された。F1・F6・D9・D20に切られる。全長約13m、幅1.15~1.5m、深さ16~23cmを測る。溝底の高低は10cm前後北に低い。掲載遺物は弥生式土器甕(1~4・6~15)、壺(7~18)、剥片(19)がある。

## 3) M3号溝址 (第111図、第60表、図版六十七)

3か9グリットから3き10グリットにかけて湾曲した形態で検出された。古墳時代後期のH17・35に切られる。重複のため全容はつかめない。残長約9.5m、幅2.7m~1.3m、深さ13~22cmを測る。溝底の高低は北に9cmほど低い。出土遺物は弥生式土器の外面赤色塗彩された小型壺(1)である。

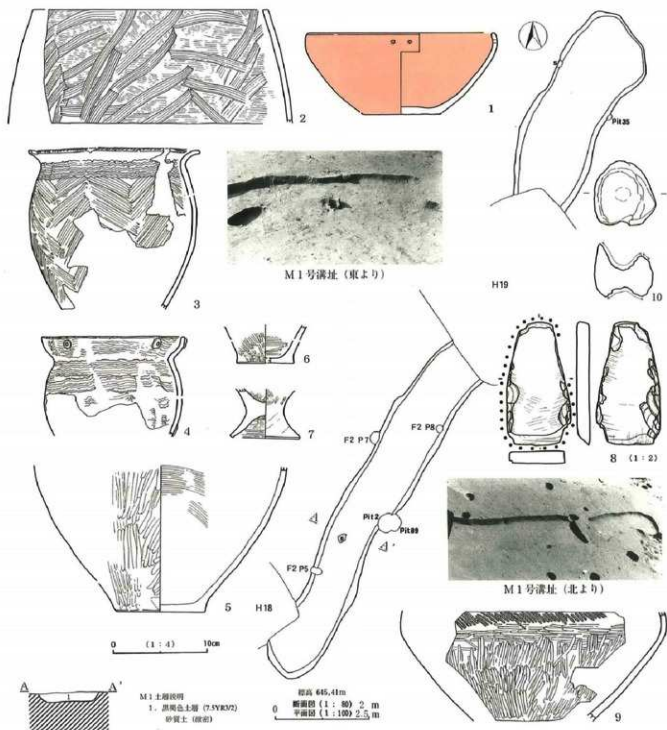
## 4) M4号溝址 (第112図、第60表、図版六十七)

4け6グリットから4こ9グリットにかけてほぼ南北に直線的に検出されている。溝幅は1mほどの浅い溝である。出土遺物には弥生式土器の壺(2)、古墳時代後期の土器器杯(1)が出土している。

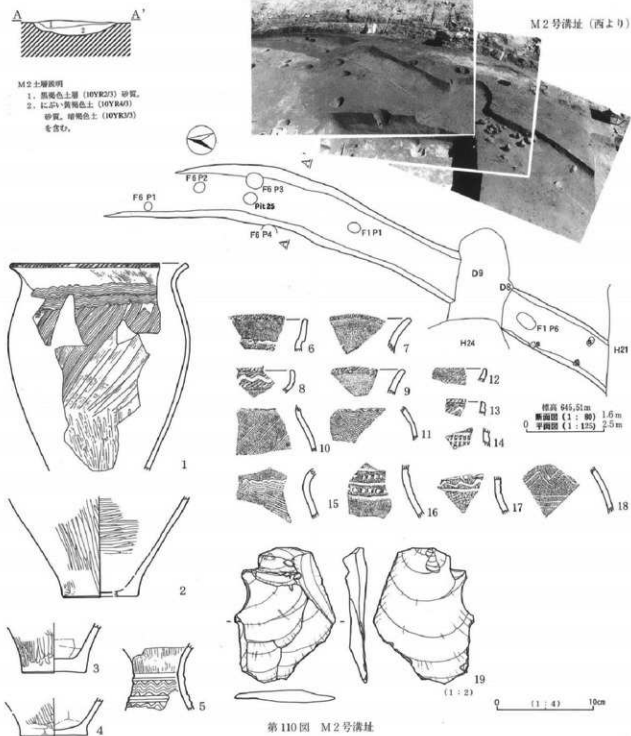
第60表 溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
M1 1	弥生土器 鉢	(20.2) (8.2) 8.4	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	1鉢部1/5残存 赤色塗彩 地の色 7.5Y R82(灰白)	縦溝。口縁部に2つの穿孔あり。底成接穿孔。	
M1 2	弥生土器 甕?	(25.0) — <12.0>	内外文 ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ 5本1組とする鑿指斜状文	口縁部1/2残存 2.5Y 7/2(灰黄)	縦溝。	
M1 3	弥生土器 壺	18.2 — <16.9>	内外文 口縁部横ナデ、胴部ハケナデ→ミガキ 口縁部横ナデ、胴部ハケナデ 口部部横文 胴部6本1組とする鑿指状文 胴部6~8本1組とする鑿指斜状文(羽状、右端より)	1鉢部3/4残存 7.5Y R73(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	
M1 4	弥生土器 甕	15.2 — <10.5>	内外文 口縁部横ナデ、胴部ハケナデ→ミガキ 口部部横ナデ、胴部ハケナデ 口部部横文 口縁部・胴部6~7本を1組とする鑿指状文。口縁部に等間隔に4コ、ボタン状の貼付文。胴部中央にも同様の貼付文(何コかわからない)	口縁部完形(厚托) 2.5Y R74(淡赤橙)	1mmの白色粒子含む。	3お9G
M1 5	弥生土器 壺	9.6 <15.4>	内外 ハケナデ ナデ→ミガキ	底部完形(内面側摩) 10Y R83(淡黄橙)	縦溝。1mmの黒色粒子含む。	
M1 6	弥生土器 甕	(6.2) <4.1>	内外 ナデ→ミガキ ナデ→ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R44(薄灰)	1mm以下の白色粒子少量含む。	
M1 7	弥生土器 台付甕	(7.4) <5.2>	内外 臺部ナデ→ミガキ 脚部ハケナデ→ミガキ ナデ→ミガキ	底部1/3残存(厚托) 7.5Y R84(淡黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	
8	欠番	—	—	—	—	—
M1 9	弥生土器 壺	— <11.5>	内外文 横位ハケナデ 胴部中央部位ミガキ→胴上半部横位ミガキ(わずかに赤色塗彩残る) 胴部中央に横文	胴部破片 7.5Y R62(灰黄)	1mm以下の白色粒子含む。	検出



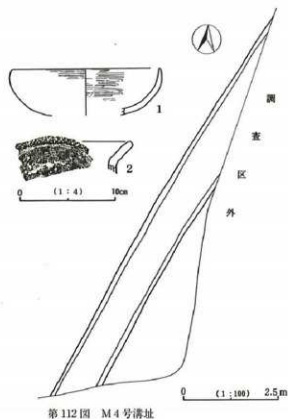
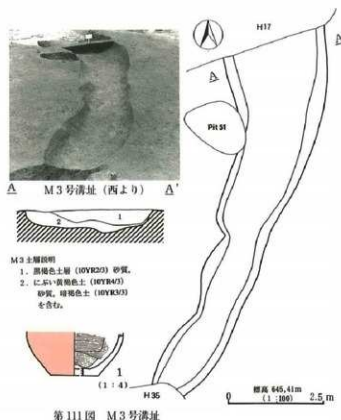


第109図 M1号溝址



第60表 溝址出土遺物一覧表(1)

M2 1	弥生土器 蓋	(18, 4) — 21.3	内外 文	口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ・胴下半部 縦位ミガキ 口唇部横文 胴部6本1組とする櫛形波状文を2条 胴部6本1組とする櫛形斜状文	口縁部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい・橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。
M2 2	弥生土器 蓋	(7, 8) — <10, 2>	内外	横位ミガキ 縦位ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R7/4(にぶい・橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子含む。
M2 3	弥生土器 蓋	(6, 6) — <5, 1>	内外	ハラナデ・ミガキ 縦位ミガキ	底部2/3残存 10Y R6/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。



第60表 溝址出土遺物一覧表(2)

M2 4	弥生土器 甕	(7.0) -<3.8>	内外 ミガキ ミガキ	底部定形 7.5Y R8/4(浅黄橙)	微塵, 1mm以下の赤色粒子・ 黒色粒子・白色粒子含む。
M2 5	弥生土器 壺	(-) -<6.9>	内外 ナデ・口縁部ミガキ 口縁部ミガキ 4本1組とする櫛溝状文とヘラ掻横走 平行線文で区切る。	破片 10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子多量含 む。
M3 1	弥生土器 甕	(5.0) -<4.5>	内外 ハケナデ ミガキ→赤色塗彩	底部約1/2残存(壊滅) 外面 濃い赤色塗彩 地の色 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。
M4 1	土師器 杯	(16.0) -<4.8>	内外 横紋ミガキ 横紋ミガキ	口縁部1/5残存 2.5Y R7/6(橙)	赤色粒子含む。 内外面に赤色粘着物あり。

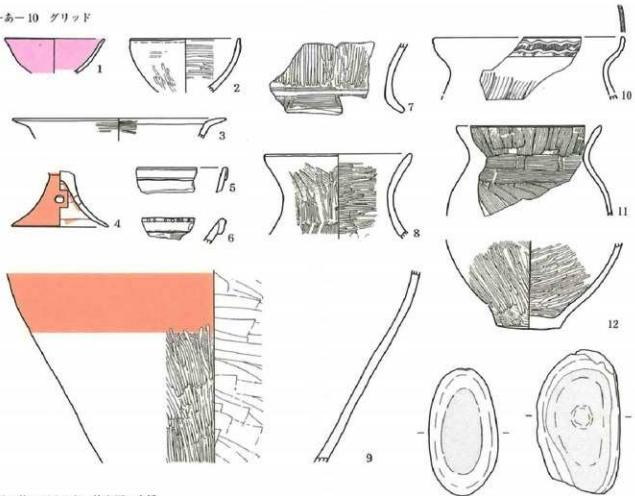
## 第5節 グリッド・検出面・表採遺物

(第113・114・115・116図、第61表、図版六十七・六十八・六十九)

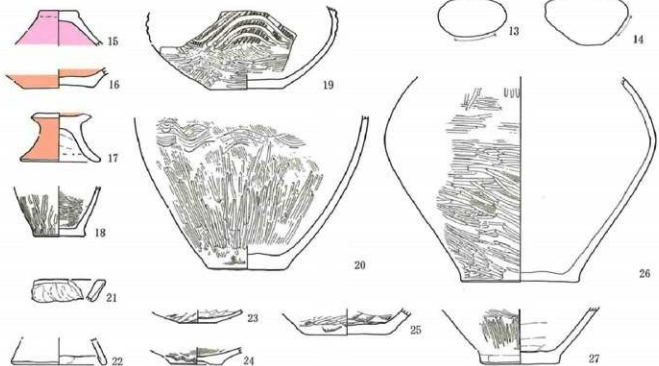
第61表 グリッド・検出面・表採出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(10.6) -<3.6>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/3残存 濃い赤色塗彩10R 4/8(赤)	0.5mm以下の白色粒子を少 量含む。	7あ10G
2	弥生土器 甕	11.6 -<5.5>	内外 ミガキ ミガキ	口縁部1/3残存 10Y R8/3(浅黄橙)	0.5mm以下の白色粒子を多 く含む。 赤色塗彩色淡か	7あ10G
3	弥生土器 高杯	(22.4) -<2.1>	内外 横ナデ→ミガキ 横ナデ→ミガキ	口縁部1/6残存	1mm以下の白色粒子含む。 内面に赤色塗彩の痕跡あり。	7あ10G

7-あ-10 グリッド

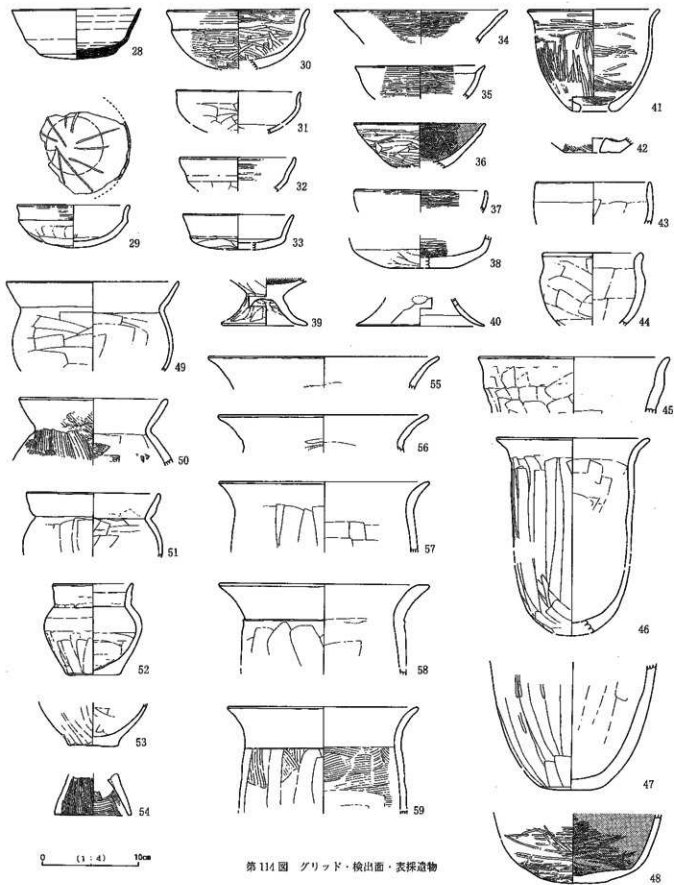


その他のグリッド・検出面・表採

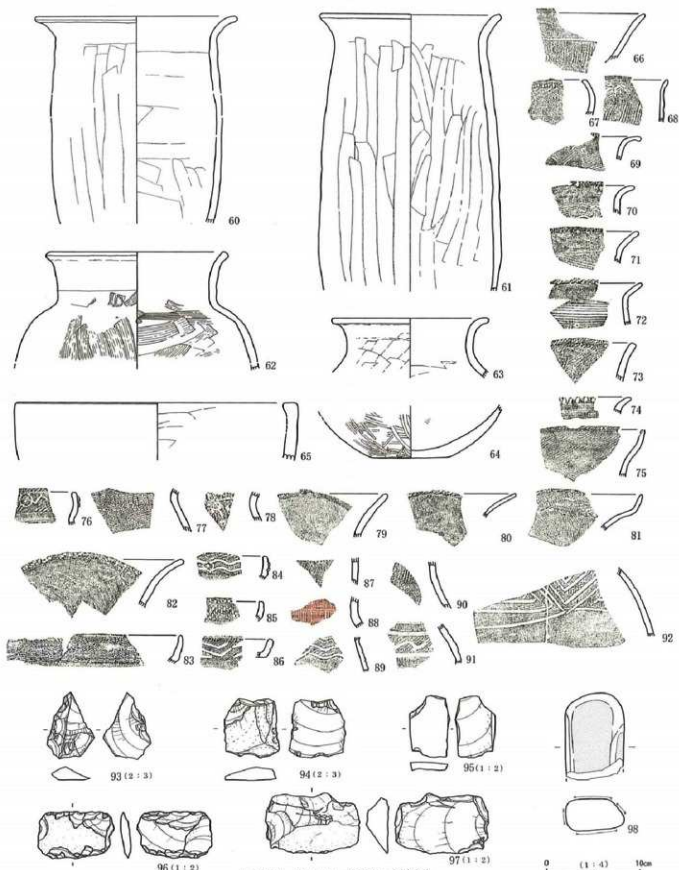


第113図 グリッド・検出面・表採遺物

0 (1:4) 10cm

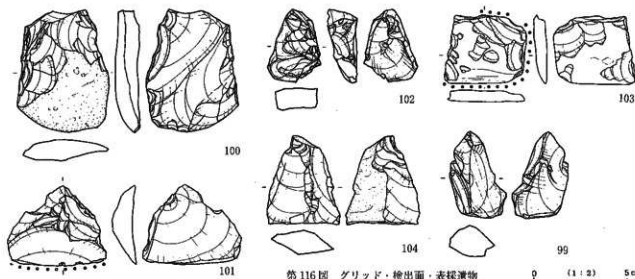


第114図 グリッド・検出面・表採遺物



第115図 グリッド・検出面・表採遺物

0 (1:4) 10cm



第116図 グリッド・検出面・表採遺物

0 (1:2) 5cm

第61表 グリッド・検出面・表採出土遺物一覧表(2)

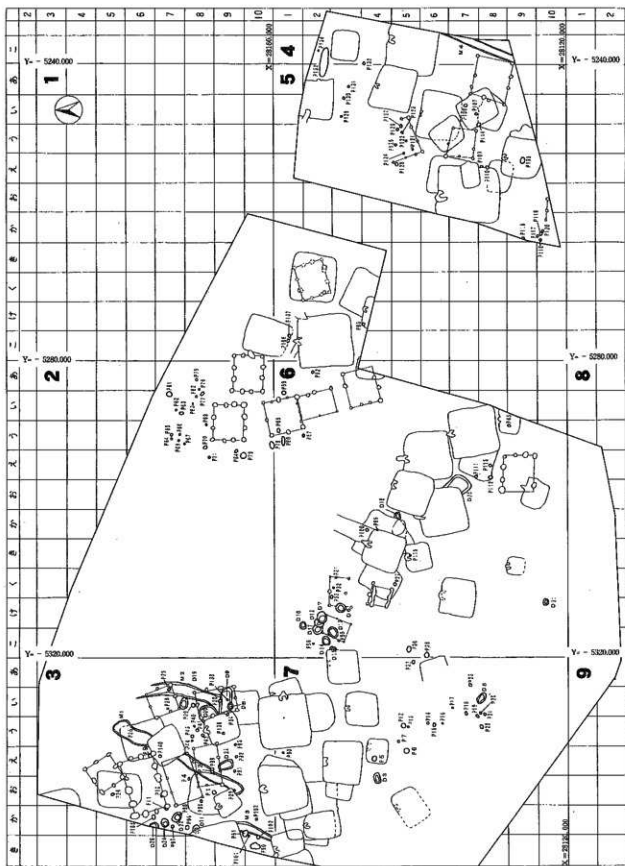
4	弥生土器 高杯	(10.2) <5.8>	内外	胴部ナデ→腹部横ナデ ミガキ	底部1/6残存 外面 濃い赤色塗彩10R46 (赤) 内面 赤色顔料付着	緻密。 胴部に3つの通しあり(焼成 箱、ヘラによる穿孔)。	7a10G
5	土師器 壺	— <2.7>	内外	ハケ状口具による横ナデ→横ナデ 横ナデ	破片 5Y R6/4(にぶい橙)	0.5mm以下の白色粒子を少 量含む。	7a10G
6	土師器 壺	— <2.2>	内外	横位ミガキ 口唇部横ナデ、口縁部ハケナデ 胴部ヘラによる刻み	破片 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。	7a10G
7	弥生土器 釜	— <7.2>	内外	口縁部横位ミガキ 口縁部ハケナデ→縦位ミガキ 胴部に帯状塗彩(単位不明)	破片 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	7a10G
8	土師器 壺	(15.6) <8.8>	内外	横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ	口縁部1/2残存 5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	7a10G
9	弥生土器 壺	— —	内外	ヘラナデ ミガキ→胴部赤色塗彩	破片 濃い赤色塗彩 地の色 7.5Y R6/2(灰褐)		7a10G
10	弥生土器 壺	(20.2) <6.5>	内外	横位ミガキ 口縁部横ナデ、胴部横ナデ 口唇部横文 口縁部横文を地文としてヘラ掻き状文を 2条施す。 胴部5本1組とする帯状文を施す。	1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	緻密。	7a10G
11	弥生土器 壺	(15.4) <5.3>	内外	ミガキ ミガキ 4~12本を単位とする帯状文	口縁部1/3残存 外面口縁部に赤色顔料付着	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	7a10G
12	弥生土器 壺	6.7 <9.1>	内外	ミガキ ミガキ 帯横斜此文	底部完形 2.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	7a10G
13	欠番	—					
14	欠番	—					
15	弥生土器 壺	4.2 <3.7>	内外	ミガキ→赤色塗彩 ?→赤色塗彩	天井完形 濃い赤色塗彩7.5R4/4(にぶい 赤) 地の色 7.5Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子含む。	5<1G
16	弥生土器 鉢	7.4 <1.9>	内外	ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	底部完形 濃い赤色塗彩7.5R3/4(暗赤) 地の色 7.5Y R6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	7<8G
17	弥生土器 高杯	(6.4) <5.0>	内外	杯縁ミガキ→赤色塗彩 胴部ミガキ→赤色塗彩	底部1/4残存 濃い赤色塗彩10R3/6(赤) 地の色 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 転用して器台か。	6<4G

第61表 グリッド・表採出土遺物一覧表

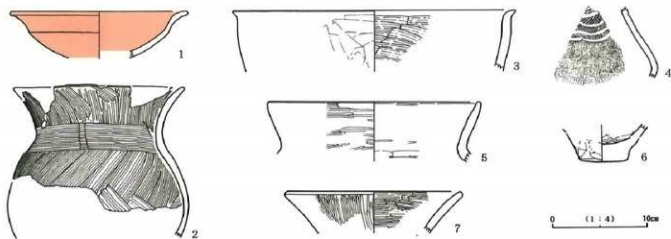
18	弥生土器 壺	— 5.4 <5.2>	内外	ハケナデ→横位ミガキ (ハケ)ナデ→縦位ミガキ	底部定形 10Y R 7G(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。 外面に赤色顔料が付着する が範囲はわからない。	検出
19	弥生土器 壺	— 7.6 <8.4>	内外 文	ハケナデ ハケナデ→ミガキ・底部ヘラナデ 縄文を境としヘラ編平行連続波状文	底部定形 10Y R 7M(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。 赤色顔料が所々観察できる が、範囲はわからない。	6×4G
20	弥生土器 壺	— 8.2 <15.9>	内外 文	横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ 縄文波状文(単位不明)	底部2G残存 5Y R 6G(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	5×4G
21	土師器 壺	— —	内外	ナデ 横ナデ→指張おさえ	破片 10Y R 7G(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子少量含む。	検出
22	土師器 (不明) 陶器	(10.0) — <3.8>	内外	ナデ ナデ	口縁部1/6残存 10Y R 7G(にぶい黄緑)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子少量含む。	検出
23	土師器 壺	— 4.0 <1.3>	内外	ヘラナデ ケズリ→ミガキ	底部2G残存 2.5Y R 6G(黄)	1mm以下の赤色粒子少量含む。	検出
24	土師器 壺	— 5.4 <1.8>	内外	ミガキ 横ナデ	底部定形 7.5Y R 7M(にぶい黄)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子を含む。	検出
25	弥生土器 壺	— (8.1) <2.7>	内外	ハケナデ・ナデ ハケナデ	底部1/2残存 10Y R 8G(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	検出
26	弥生土器 壺	(12.4) <21.2>	内外	全面剥離しており判別できず。 (ハケ)ナデ→ミガキ	底部1/2残存(内面剥離) 10Y R 8G(浅黄緑)	顕密。	5×4G
27	弥生土器 壺	— 8.4 <5.7>	内外	ナデ ミガキ	底部定形 7.5Y R 8G(浅黄緑)	顕密。1mmの白色粒子含む。	検出
28	須恵器 杯	(13.6) (7.8) 5.2	内外	ロクロナデ→底部切り離し→ナデ ロクロナデ→底部切り離し→ナデ	口縁部1/4残存 10Y R 8I(灰白)	1mm以下の黒色粒子を含む。 小石含む。	検出
29	土師器 杯	(11.8) — 4.4	内外	みこみ部ナデ→口縁部横ナデ・附文風ミ ガキを施す。 横→底部ナデ→ヘラケズリ→口縁部横 ナデ→横位ミガキ	口縁部1/5残存 7.5Y R 6G(灰黄)	顕密。1mm以下の赤色粒 子・黒色粒子・白色粒子を含む。	検出
30	土師器 杯	(15.0) — <6.1>	内外	ミガキ ミガキ	口縁部1/3残存 5Y R 6G(にぶい黄)	顕密。	検出
31	土師器 杯	(13.2) — <4.4>	内外	みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部→底部ヘラケズリ	口縁部1/5残存 7.5Y R 84(浅黄緑)	1mmの赤色粒子を含む。	検出
32	土師器 杯	(6.2) — <3.5>	内外	横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/10残存 7.5Y R 6G(にぶい黄)	顕密。	5×10G
33	土師器 杯	(11.6) — <3.6>	内外	みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 5Y R 84(浅黄)	顕密。	7×8G
34	土師器 杯	(16.6) — <3.4>	内外	横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/3残存 5Y R 7M(にぶい黄)	顕密。1mm以下の白色粒子 を含む。	検出
35	土師器 杯	(13.6) — <3.4>	内外	ミガキ ミガキ	口縁部1/8残存 5Y R 7M(にぶい黄)	顕密。	検出
36	土師器 高杯	(13.8) — <4.6>	内外	ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→体→底部ミガキ	口縁部1/2残存 内 20H(黒) 外 10Y R 7I(灰白)	顕密。	検出
37	土師器 杯	(14.0) — <2.2>	内外	横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/5残存(外面剥離) 5Y R 7M(にぶい黄)	顕密。1mm以下の白色粒子 少量含む。	検出
38	土師器 杯	(6.2) — <3.5>	内外	横位ミガキ 口縁部横ナデ・体→底部ミガキ	底部1/2残存 5Y R 6M(にぶい黄)	1mmの赤色粒子を含む。	検出
39	土師器 高杯	— 9.0 <6.9>	内外	横位ミガキ・脚部横ナデ→ナデ 横部ケズリ・脚部横ナデ→脚部ヘラナ デ	底部7/8残存 7.5Y R 84(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	検出
40	土師器 高杯	(13.4) — <2.9>	内外	ロクロナデ→脚部ヘラケズリ ロクロナデ→横位ミガキ	底部1/5残存 7.5Y R 7G(にぶい黄)	顕密。	5×8G
41	土師器 瓶	(14.0) 4.7 10.6	内外	ミガキ ミガキ	底部定形 7.5Y R 7M(にぶい黄)	顕密。1mm以下の白色粒子 を含む。	検出
42	土師器 瓶	(5.8) — <1.6>	内外	ミガキ ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7M(にぶい黄)	顕密。 焼成前に一孔穿孔。	検出



43	土師器 甕	(12.2) — <4.3>	内外 口縁部横ナデ→腰部ヘラナデ 腰部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部15残存 2.5Y R76(橙)	白色粒子少量含む。	2い9G
44	土師器 鉢	(10.7) — <7.5>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部(ヘラ)ナデ	口縁部14残存(摩耗) 7.5Y R83(淡黄緑)	1mmの白色粒子・黒色粒子含む。	検出
45	土師器 瓶	(20.0) — <5.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部23残存 7.5Y R73(にぶい橙)	微塵。1mmの赤色粒子・黒色粒子含む。	検出
46	土師器 壺	(16.2) — <20.1>	内外 口縁部横ナデ→胴→底部ナデ 口縁部横ナデ→胴→底部ヘラケズリ	口縁部14残存 5Y R74(にぶい橙)	1mmの赤色粒子・白色粒子含む。	検出
47	土師器 壺	— 6.7 <13.2>	内 ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 7.5Y R73(にぶい橙)	砂質。1mmの白色粒子含む。	検出
48	土師器 鉢	— 7.3 <7.2>	内外 ミガキ→黒色処理 ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 内 R20(黒) 外 7.5Y R83(淡黄緑)	1mmの赤色粒子含む。	検出
49	土師器 壺	(18.0) — <9.2>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部15残存 5Y R84(淡橙)	1~2mmの赤色粒を含む。	5A3G
50	土師器 壺	(15.5) — <6.9>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ(一部ハケ) 口縁部横ナデ→胴部ハケナデ?	口縁部18残存 2.5Y R76(橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子少量含む。	検出
51	土師器 壺	(14.0) — <6.5>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部ナデ	口縁部14残存 2.5Y R56(明赤橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子少量含む。	検出
52	土師器 壺	(8.4) (5.8) 9.4	内 胴→底部ナデ→口縁→胴上半部横ナデ →ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴→底部ナデ→ミガキ	口縁部12残存 2.5Y R76(橙)	1mmの黒色粒子・赤色粒子・白色粒子含む。	検出
53	土師器 壺	— 5.2 <4.5>	内 ナデ 外 ナデ(ヘラ?)	底部完形 10Y R83(淡黄緑)	4mm以下の赤色粒子多量含む。	検出
54	土師器 白付壺	(8.0) — <4.3>	内 ナデ→ハケナデ 外 ハケナデ	底部14残存 5Y R74(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含む。	検出
55	土師器 壺	(24.2) — <3.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部(ヘラケズリ?)	口縁部110残存 7.5Y R84(淡黄緑)	1mm以下の白色粒子少量含む。	検出
56	土師器 壺	(22.0) — <3.9>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部14残存 5Y R84(淡橙)	1mm以下の白色粒子少量含む。	検出
57	土師器 壺	(22.0) — <7.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→ヘラケズリ	口縁部14残存 5Y R83(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子多量含む。	検出
58	土師器 壺	(22.0) — <9.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部13残存 10Y R71(灰白)	微塵。1mm以下の白色粒子少量含む。	検出
59	土師器 壺	(20.0) — <11.0>	内 胴部ハケナデ→部ヘラナデ→口縁部 横ナデ 外 胴部ハケナデ→ナデ→口縁部横ナデ	口縁部14残存 5Y R74(にぶい橙)	2mm以下の白色粒子・赤色粒子含む。小石含む。	検出
60	土師器 壺	(21.2) — <22.0>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部14残存 2.5Y R86(橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色粒子含む。小石含む。	検出
61	土師器 壺	(21.2) — <29.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部15残存 7.5Y R84(淡黄緑) 7.5Y R73(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子含む。	検出
62	土師器 壺	(19.4) — <12.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部(ハケとヘラ)ナデ 口縁部横ナデ→胴部ナデ(一部ハケナデ)	口縁部18残存 7.5Y R74(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・1mmの赤色粒子を含む。	検出
63	土師器 壺	(16.8) — <6.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部(ヘラ)ナデ 口縁部横ナデ→(ヘラ)ナデ	口縁部12残存 7.5Y R72(明黄灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	検出
64	土師器 壺? 壺?	— (8.2) <5.5>	内 全面割離 外 ミガキ	底部12残存(内面割離) 7.5Y R74(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子含む。	検出
65	土師器 (不明)	(30.2) — <6.1>	内外 ナデ	口縁部112残存 5Y R84(淡橙)	黒色粒子・赤色粒子含む。	検出



第117図 川原埴遺跡土坑・単独ピット全体図(1:500)



第118図 単独ピット出土遺物

## 第6節 単独ピット (第117・118図、第62表)

本調査域からは123個の単独ピットが検出された。単独ピットは7カ所に集中している。

第62表 単独ピット出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	(18.8) — <4.9>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/3残存 濃い赤色塗彩 地の色・10Y R 8/6(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	P17
2	弥生土器 甕	(18.1) — <16.2>	内 横位ミガキ、外 ? 文 頸部16本1組とする飾線縞状文(2連止め) 口縁部・胴部6～12本1組とする飾線斜状文	口縁部1/3残存 7.5Y R 5/2(灰褐)	緻密。	P20
3	土師質土器 鍋	(30) — <6.4>	内外 口縁部横ナデ→(ヘラ)ナデ 口縁部横ナデ→(ヘラ)ナデ	破片 7.5Y R 4/1(黄灰)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	P38
4	欠番					
5	土師器 甕	(22.6) — <6.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ・口縁部ミガキ ミガキ	口縁部1/8残存 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	P108
6	土師器 甕	— 5.1 <3.9>	内 ナデ 外 ナデ	底部完形 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。 底部に本蓋痕あり。	P108
7	弥生土器 甕	(18.8) — <4.4>	内 横位ミガキ 外 縦位ミガキ	口縁部1/5残存 5Y R 7/6(橙)	砂質。1mmの白色粒子・黒 色粒子・石英を多く含む。	P133

## 第V章 総括

## 第1節 古墳時代

古墳時代の住居址は、H1～H7・H9～H16・H18～H36・H38・H40・H43・H49・H54～H58・H61の45棟である。これらはみえてきたように古墳時代後期という時代があてられる。また掘立柱建物址の20棟も弥生時代の遺構を切っており、古墳時代の堅穴住居址4棟と重複し、切っている。柱穴に混入した土器は古墳時代後期より新しい遺物がみられないことから、古墳時代に帰属する。

## 1. 土器器杯の分類

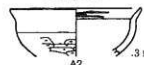
まず古墳時代後期の土器を、1999 小林「西一本柳Ⅲ・Ⅳ」-第2節 古墳時代 1 土器様相-の分類に沿って、川原端遺跡の古墳時代後期の土器について分類してみた。一部、川原端遺跡に合わせて変更している。

## A類



A 1. 丸底の底部から体部が内湾しながら立ち上がり、短い口縁部が内稜をなして強く外反する。

(破片はあるが実測資料なし。「西一本柳Ⅲ・Ⅳ」より転載。)



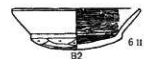
A 2. A 1 の口縁部がやや長く、緩やかに外反する。

## B類

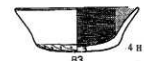
丸底の底部から口縁部が稜をなして長く外反する。



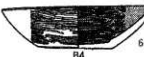
B 1. A 2 の口縁部が更に長くなり、口縁部と体部の境に稜を形成して外反するもの。その位置が上位にある。



B 2. 体部下が浅く、口縁部と体部の境に稜を形成して口縁が外反するもの。



B 3. B 2 の口縁部と体部の境の段や凹が省略されたもの。B 1・B 2 に施されていた外面のヘラミガキ調整も省略化される様になる。



B 4. 口縁が直線的または外湾的に伸び、内面の稜が明らかに下にあるもの。腰部にあまり丸みを持たず、造台形となる。

## C類

丸底で素縁のもの。

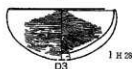


C 1. 丸底から口縁部がそのまま内湾して立ちあがるもの。内外面ミガキ調整される。



C 2. 外面のミガキ調整が省略される。

D類 底部が半球形に深いもの。



D 1. 半球状で、口縁部が素直に開くもの。

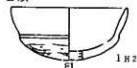
D 2. 半球状で、口縁部が外反するもの。

D 3. 半球状で、口縁部が直立するもの。

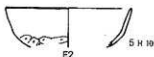
D 4. 半球状で、口縁部が内湾するもの。

E・Fは須恵器模倣杯で、内面ナテ調整、まれに畷文様のミガキが施される。一般に器肉が薄く、胎七が緻密（黒色処理されたものもある。）、外面は口縁部横ナテ、底部ヘラケズリ調整。

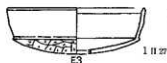
E類



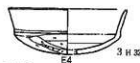
E 1. 須恵器杯蓋の模倣、あるいは模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有するもの。



E 2. 須恵器杯蓋の模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有さず、稜を有するもの。

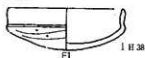


E 3. 所謂有段口縁杯。

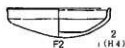


E 4. E 1 同様の形態を呈し、橙色で陶質と表現できる様な焼成が施されたもの。概して、小型で、器壁が薄い特徴を有する。

F類



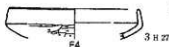
F 1. 須恵器杯身の模倣、あるいは模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有するもので、口縁部が直立するもの。



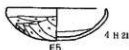
F 2. 須恵器杯身の模倣、あるいは模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有さず、稜を有するもので口縁部が直立するもの。



F 3. F 1 の口縁部が内傾するもの。  
(実測資料なし。『西一木博士Ⅲ・Ⅳ』より転載。)



F 4. F 2 の口縁部が内傾するもの。

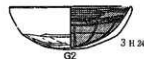


F 5. 丸底で、口縁部が弱く内傾するもので、口縁部と体部の境が明瞭なもの。E 4 と同質な橙色陶質なものを含む。口径・器高が小さくなる。

G類 須恵器の杯身を模倣したもので内面ミガキ調整・黒色処理されるもの。

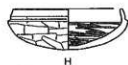


G1. 厚手で、丸底から外縁をなして口縁が外傾する。外縁が上位にある。内面ミガキ、黒色処理するもの。外面は口縁部横ナア底部ヘラナズリ、ミガキ調整。



G2. 外縁の位置下がり、ミガキ調整が雑または施されなくなる。

H類 須恵器の杯壺を模倣したもので、厚手で内面ミガキ調整されるもの。



H. 厚手で、丸底から外縁をなして口縁部が直立する。  
(実測資料なし。『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』より転載)

I類



I. 平底から口縁部が直線の外傾して開くもの。

第119図 古墳時代後期土師器杯分類図

この土師器杯の分類、また壺・須恵器などとの組み合わせから各住居址の遺物についてみると、主な形態変化を捉えることができる。

I期 杯A、C、D系、有段口縁壺、小型丸底、杯の底部と体部の境に稜を有する高杯などで構成される中期の土師器相が残る。

T K208号窯式期の須恵器

須恵器杯身・壺模倣のE・F形態の土師器が組成に加わる。

土師器 杯A1がA2に変化。須恵器模倣高杯は杯Gが乗る。

壺の長胴化。

II期 杯A2がB1・B2に変化、有段口縁杯E3が加わる。

有段口縁壺は存在しない。

壺は長胴が進み、体部の中央付近に最大径を有する。

MT15やT K10号窯式期須恵器伴出。

小型丸底は今期で消滅。

III期 杯B系はB3・B4に変化し、E・F系の杯が増加する。E4・E5が組成に加わる。

高杯は長胴化の後単脚に転じる。

壺は頸初において顕著なハケ目調整、体部過半部で内屈するものが存在。

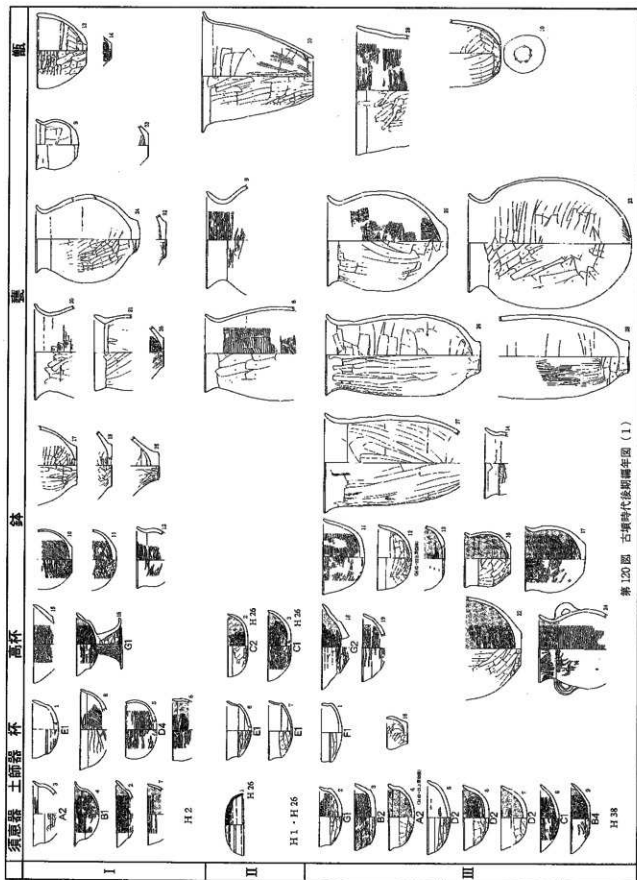
これら以外の壺は最大径を口縁部に有する。瓶は多孔のものが出現。

MT85・T K43・T K209号窯式期が伴出。

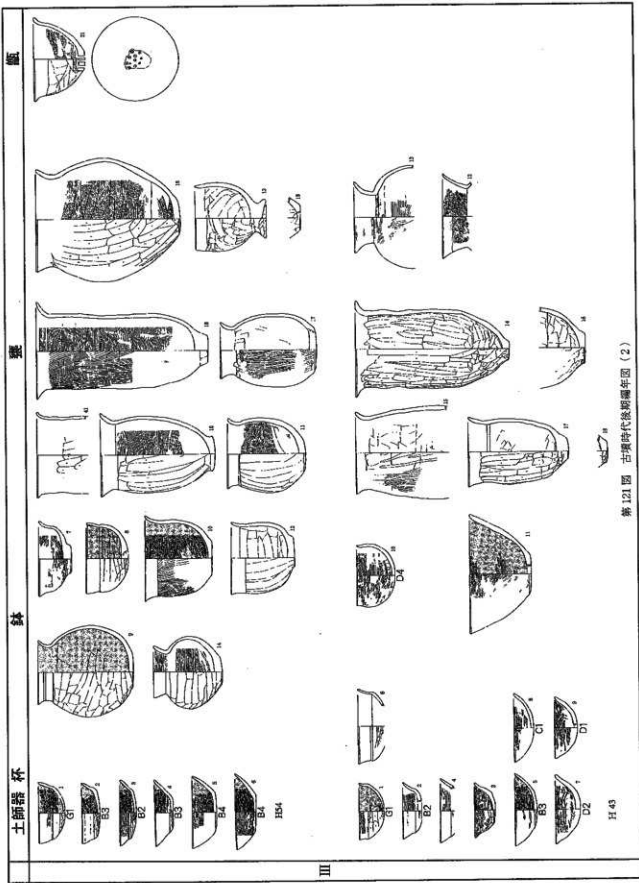
IV期 B系の杯は姿を消し、E系・D系の杯が主体となる。新たにI形態が認められる。

高杯は短脚で半球状の杯部を有し小型化する。

壺は卵形の体部を呈するものが一時期認められ、武蔵壺が出現する。



第120圖 古墳時代後期壺年圖(1)



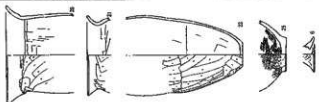
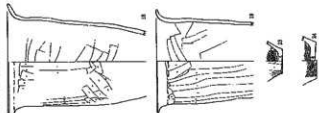
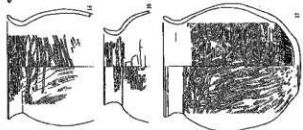
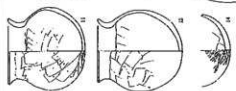
第 121 圖 古墳時代後期繩文陶 (2)





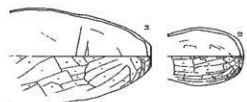
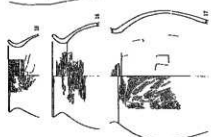
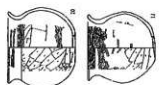
須臾器 土師器 鉢

壺



H 21

IV



H 7

第 123 圖 古墳時代後期播磨年區 (4)

## 2. 竪穴住居址

土器分類に従って川原端遺跡の各住居址の時代を分けると4期にわたる区分が観察された。

I期	H 2・H 6・H40・H42	4棟
II期	H 1・H30	2棟
III期	H 3・H25・H34・H38・H54・H55 II12・H19・H23・H24・H28・II31・H33・H43・H49・H58・H61・H62	18棟
IV期前半	H 4・H14・H16・H18・H26・H27・H29・H32・H35・H36・H56	11棟
IV期後半	H 7・H10・H11・H15・H21・H13・H22	7棟
細別不可能	H 5・H 9・H20	3棟

この住居址の変遷を図化して示したものが第124図である。I・II期(6C前半)において、約80mほど離れて1棟~2棟の竪穴住居址が営まれ、III期(6C後半)に至るとその周囲と中間の3ブロックに棟数を増やして18棟ある。しかし同時期に何棟存在したかということになると再検討が必要である。

IV期(7C頃)は後半と前半に分けられ、引き続きほぼ同数の竪穴住居址が存在している。中間地点の竪穴住居址群(H54・H55・H25・H26・H27・H29)ではH55・H54を同じIII期にしてあるが1mと近接しているため同一期ではあり得ないだろうが、土器からは時間の大差を感じない。いくらH55が竈などに古い要素があるが直接比較できる土器を持っていないことから異なる人の住む竪穴で、H55→H54への直接移動もあり得ないであろう。また焼失して、すぐその後IV期のH26・H27を構築するはずもないのである。連続した竪穴住居址の構築ではなく時間を経ての構築が推定される。従ってIII期においてすぐに棟数が増えたのではなく、同一時期の棟数は少ないものと推測される。IV期もほぼ同数の竪穴が営まれ、古墳時代の終わりを最後にこの集落は土に埋もれてしまった。

## 3. 掘立柱建物址

20棟の掘立柱建物址が検出されたが、すべて掘立柱式である。

(桁行き×梁行き)

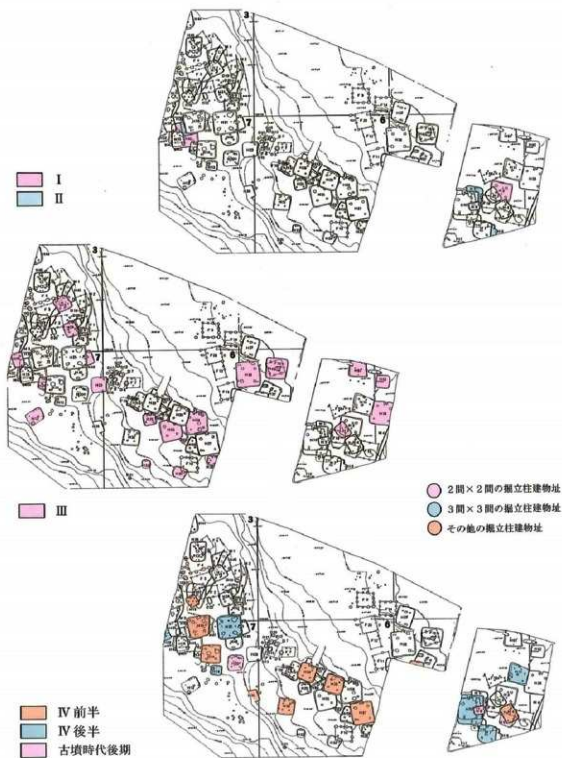
2間×1間	F 7 (長方形)・F 8 (長方形)・F 10 (方形)・F 12 (長方形)
(面積)	10.4m <sup>2</sup> 8.2m <sup>2</sup> 5.3m <sup>2</sup> 15m <sup>2</sup>
2間×2間	F 5 (方形)・F 6 (方形)・F 19 (方形)・F 20 (方形)
	14.7m <sup>2</sup> 12.3m <sup>2</sup> 13.2m <sup>2</sup> 19.7m <sup>2</sup>
3間×1間	F 2 (長方形)・F 3 (長方形)
	17.5m <sup>2</sup> 23.6m <sup>2</sup>
3間×2間	F 1 (長方形)
	18.3m <sup>2</sup>
3間×3間	F 9 (長方形)・F 11 (長方形)・F 13 (長方形)・F 15 (長方形)・F 16 (長方形)・F 18 (長方形)
	19.6m <sup>2</sup> 26.3m <sup>2</sup> 18.9m <sup>2</sup> 28.4m <sup>2</sup> 17.6m <sup>2</sup> 23.6m <sup>2</sup>
4間×3間	F 4
	33.2m <sup>2</sup>

以上のように規模から分けることができる。ここで注目されるのは、3間×3間の掘立柱建物址の存在である。1987 堤『前山遺跡』において、古代の掘立柱建物址の分類がなされているがこの形態の分類がなされていない。前山遺跡の掘立柱建物址は8C第一四半期から竪穴住居址とはほぼ同数の掘立柱建物址の存在を推測している。竪穴住居址12軒と掘立柱建物址14棟で構成され、その掘立柱建物址の内訳は、2間×2間の総柱1棟、1間×1間が2棟、3間×2間、2間×1間などが10棟としている。これ以後奈良~平安時代も当然3間×3間の掘立柱建物址はでてこない。川原端遺跡の掘立柱建物址は、前述したIII期(6C後半)の竪穴住居址を切ったり、切られたりであること、古墳時代以降の新しい土器片を出土していないことなどから古墳時代後期に所属するとすれば、この正方形に近いが桁方向にやや長い長方形の掘立柱建物址、また2間×2間の掘立柱建物址が、古墳時代後期の掘立柱建物址として注目される。

これらの掘立柱建物址はブロックを作り、竪穴住居址とは隣接するものの離れた位置にある。第124図に示したよ

うに数棟ずつブロックをなしている。竪穴居住域と掘立柱建物址群との空間が分けられていたようである。

また、奈良・平安時代を通して、掘立柱建物址と竪穴住居址がほぼ同数といわれているが、本遺跡では掘立柱建物址が約半数であるということは、古墳時代後期においては掘立柱建物址と竪穴住居址の関係が、まだ竪穴住居址に主体があったためといえるのではなからうか。



第124図 古墳時代後期集落変遷図

## 第2節 弥生時代末～古墳時代初頭

この期の住居址はH51の1棟が検出された。南北496cm、東西383cmの隅丸長方形である。中央に炉であらう焼土が検出された。出土する土器は弥生時代の櫛描波状文を施す甕と赤色塗彩された杯と鉢がある。中でも無彩のミガキ調整の杯や高杯の脚が長く外反して広がるもの、ハケ目を残すが脚が共存している。これらの土器は2000 鳥羽『更埴条理遺跡・屋代遺跡群―総論編―』の土器編年の古墳1期（3C後半）に該当する。遺構には伴わないが、H1・H10号住居址からは有段口緑甕、S字口緑甕、ハケ目の甕が出土している。また7あ10グリットにもまともって、この期の土器が出土している。これらの土器も3C後半から4C前半であることから、検出数は1棟であるが、他にも遺構の存在があったようである。

## 第3節 弥生時代後期

弥生時代後期はH37・H57の2棟が検出された。隅丸長方形を呈する住居址で炉は北側主柱穴間にある。2棟とも遺物が少なく実測資料は赤色塗彩の高杯のみである。高杯は杯部中位で礎を持って外反するものと、小型の杯口縁部が直線的に開くものである。従って細かな検討はできないが後期でも新しい段階のものである。弥生時代末のH51との時間差が短い住居址であろう。

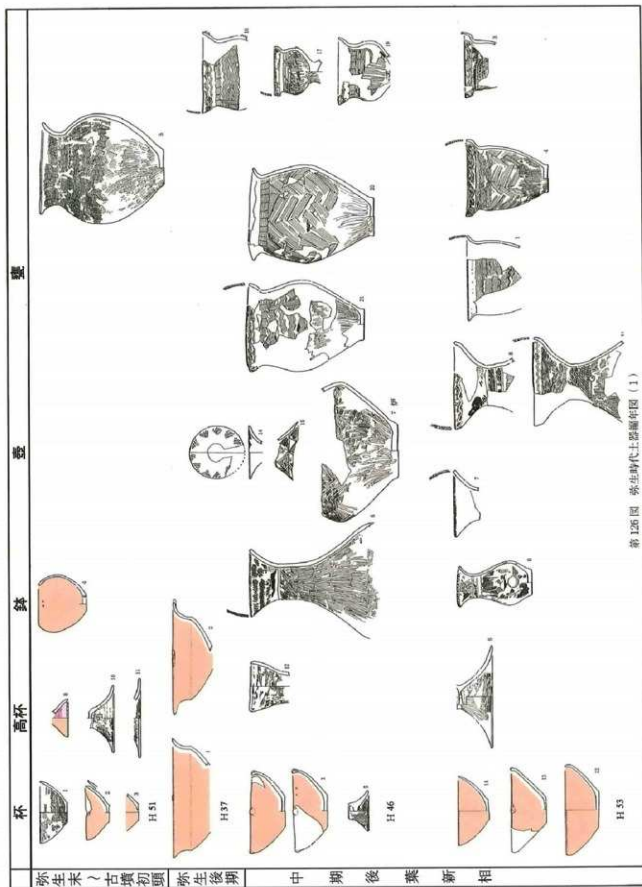
## 第4節 弥生時代中期

H17・H44・H45・H46・H47・H48・H50・H52・H53・H59の10棟が検出された。住居址形態は長方形に近いH45・H46・H52と隅丸長方形のH44・H48と方形に近いH50・H53・H59がある。土器の施文は壺型土器では頸部に縄文、ヘラ描沈線、口唇端部縄文を施し、胴部上部にはミガキで文様を施さない。また後期にみられるような濃い赤色塗彩の壺がない。甕形土器は口唇部に縄文、または押奈、または刻みを施し、胴部は櫛描波状文、櫛描斜走文を施すものである。これらは、弥生時代中期後半に位置づけられる資料である。これらは直接の重複関係がないのではほぼ同時期に存在した住居址であろう。1999『シンボジウム長野県の弥生土器』など参照するとH46・H53などは塗彩の杯が多く、壺の頸部の文様の省略、受け口口縁甕の外縁の省略などの新相が窺える。H45では甕形土器の頸部への施文が意識されており古相を示している。

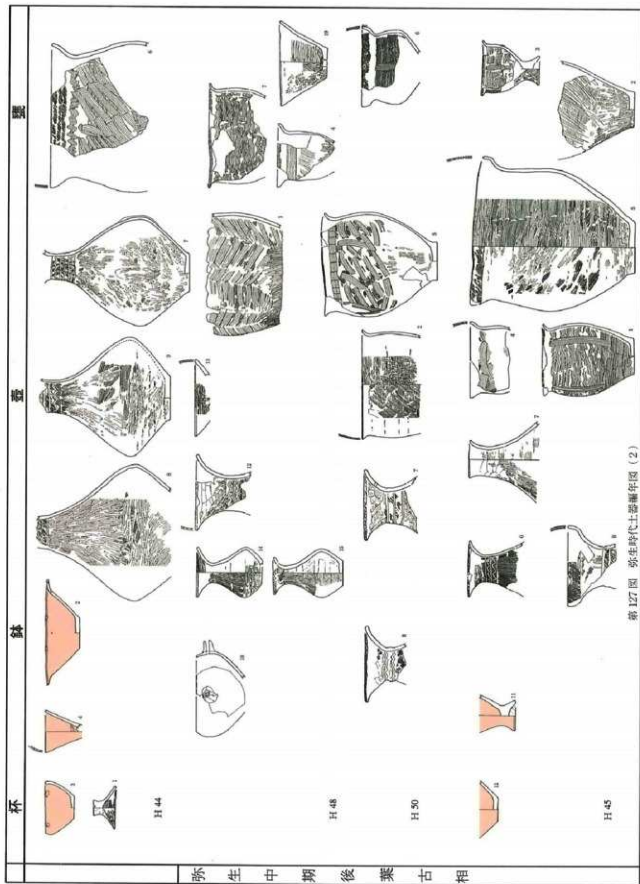
弥生時代中期の土器群はほぼ近い時期の土器でありながら、大きさ・文様・器形がすべてことになっており、量産体制の古墳時代後期以降の土器との差異を感じる。



第125図 弥生時代集落変遷図



第126圖 弥生時代土器圖(1)



第 127 图 弥生时代土器群年图 (2)

## 第5節 まとめ

本調査において、竪穴住居址62棟、掘立柱建物址20棟、土坑26基、溝址4本、123個の単独ピットが検出された。湯川の右岸に隣接し、河岸段丘上にある。遺構の構築土層は、湯川の堆積物である砂・礫のによって構成されている。また調査区の北東が低湿地になって湧水していることから、本遺跡は河岸段丘上の幅の狭い自然堤防上の遺跡であり、一方では湯川の浸食受け、南西地点では2段の河岸段丘を構成している。本遺跡の竪穴住居址61棟は時期不明の3棟を除いて、遺構・遺物などから3期に大別され、弥生時代中期・後期後半と弥生時代末～古墳時代初頭・古墳時代後期である。

以上川原端の遺構・遺物についてみたが、狭い河岸段丘上という限定され地域で、弥生時代中期から古墳時代後期の集落変遷がたどれる良好な資料である。古墳時代後期においても連続と集落が営まれたというわけではなく中間に抜けている土器様相のあることから、互途絶えて、また構築されたと推測される。弥生時代中期後半、集落が途絶えて弥生時代後期後半ないし弥生時代末～古墳時代（3C後半～4C前半）、またしばらく時間を経て古墳時代後期（6C～7C代）と大きく3時代の人々の足跡を記録した。

### 引用参考文献

- 1971 田辺昭三『須恵器大成』角川書店
- 1978 (財)大阪文化財センター『陶器Ⅲ』
- 1981 中村浩『和泉陶器窯の研究』柏書房
- 1987 御代田町教育委員会『前田遺跡』
- 1990 愛知県埋蔵文化財センター『第10集 廻間遺跡』
- 1991 雄山閣『古墳時代の研究第6巻 土師器と須恵器』
- 1994 小諸市教育委員会『東下原・天下原・竹花・舟窪・大塚原』  
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書『松原遺跡』
- 1999 長野県考古学会弥生部会編『長野県の弥生土器』
- 1999 佐久市教育委員会『西一本櫛Ⅲ・Ⅳ』
- 2000 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54『更埴系埋蔵遺跡・屋代遺跡群一総論編』



## 付表 遺構一覧表

第63表 竪穴住居址一覧表(1)

遺構名	掘出位置	規模(m) 南北×東西×深さ	平面形	カマド・炉	火地位置	時代	長軸方位	備考
H 1	5え6	—×4.74×0.24	長方形	—	—	古墳	N-9°-E	II 9・II 10・F 19に切られる。
H 2	5い6	5.38×5.96×0~0.33	方形	カマド	北壁中央	+	N-10°-E	H 3・H 4・F 19に切られる。
H 3	5う6	4.10×3.42×0.18	小竪長方形	カマド	東壁中央	+	N-57°-E	プラン不明瞭、残存状態よくない。
H 4	5い7	5.12×4.0×0.08	長方形	カマド	東壁中央	+	N-61°-E	H 2・H 5を切る。F 15に切られる。 軸が暴風ピットで片方なし。
H 5	5い8	3.54×4.37×0.08	不整形長方形	カマド	北壁中央	+	N-15°-E	H 4・F 15に切られる。 プラン不明瞭、残存状態よくない。
II 6	5う9	—×—×0.17	—	カマド	東壁	+	N-90°-E	H 7に切られる。 軸が片方なし。南側調査区外。
H 7	5う9	5.08×5.18×0.25	方形	カマド	北壁中央	+	N-7°-E	H 6・H 8を切る。P 136に切られる。 南東調査区外。
H 8	5え8	(3.60)×4.22×0.04	不整形長方形	—	—	不明	N-4°-E	H 7・H 10・P 110に切られる。 プラン不明瞭。
H 9	5え7	2.15×2.82×11.5	長方形	カマド	東壁	古墳	N-82°-E	プラン不明瞭。
H 10	5え6	8.32×7.00×0.32	長方形	カマド	北壁	+	N-0°	II 9に切られる。II 1・H 8を切る。 北西調査区外。
H 11	5あ4	4.92×5.66×0.12	不整形長方形	カマド	北壁中央	+	N-9°-E	
II 12	7お5	3.32×—×0~0.11	長方形	カマド	北壁	+	N-30°-W	プラン不明瞭。残存状態よくない。 カマドの焼土範囲のみ残る。
II 13	7う4	2.68×2.92×0	方形	カマド	北壁のやや東より	+	N-3°-E	P 5に切られる。
H 14	7う2	5.04×5.48×0.13	方形	カマド	北壁中央	+	N-0°	II 31・H 40を切る。
H 15	7か2	4.88×3.50×0.06	長方形	カマド	北壁中央	+	N-1°-W	H 30・H 40・H 42を切る。
H 16	3え10	5.54×6.12×0.3	方形	カマド	北壁中央	+	N-4°-W	H 30・H 40・H 47を切る。
H 17	3お8	6.18×—×0.12	隅丸長方形	—	—	弥生	N-26°-W	M 3・B 11を切る。 西側調査区外。
H 18	3お9	3.04×2.80×0.21	方形	カマド	北壁中央	古墳	N-33°-W	H 50・M 1を切る。
II 19	3う7	3.97×4.20×0.39	方形	カマド	北壁中央	+	N-34°-W	F 3・F 4に切られる。 M 1・H 45を切る。
II 20	7い3	4.27×4.02×—	方形	カマド	北壁中央	+	N-2°-E	床面なく堀方の状態で検出。
H 21	7い1	6.20×6.60×0.38	方形	カマド	東壁中央	+	N-98°-W	東壁石組になっている。
H 22	7き1	—×—×0.20	—	—	—	+	N-18°-W	H 35を切る。 大半が調査区外、南東隅のみ調査。
H 23	6こ2	4.08×4.20×0~0.08	方形	カマド	北壁中央	+	N-0°	
H 24	3う8	3.82×3.47×0.73	方形	カマド	北壁のやや東より	+	N-20°-W	D 25・H 52を切る。F 1・F 2に切られる。
H 25	6き5	3.00×3.23×0.31	方形	カマド	北壁中央	+	N-8°-W	H 60・P 115を切る。
II 26	6お5	5.12×5.28×0.56	方形	カマド	北壁中央	+	N-18°-E	H 54・H 55を切る。
II 27	6い7	6.12×6.22×0.35	方形	カマド	北壁中央	+	N-9°-W	H 54・H 59を切る。
H 28	6い8	2.72×—×0.28	隅丸長方形	カマド	北壁	+	N-4°-W	東側調査区外。
H 29	6お4	4.73×4.64×0.42	方形	カマド	北壁中央	+	N-17°-E	H 51・H 53・H 60を切る。II 25に切られる。
H 30	7お1	4.00×3.90×0.19	方形	—	—	+	N-12°-W	H 15・H 16に切られる。H 40を切る。
H 31	7お2	3.26×—×0.14	—	—	—	+	N-10°-E	H 14に切られる。
H 32	6く6	4.27×4.52×0.25	方形	カマド	北壁中央	+	N-7°-E	

第63表 聖火住居址一覧表(2)

遺構名	検出位置	規模(m) 南北×東西×深さ	平面形	カマド・炉	火処位置	時代	長軸方位	備考
H 33	6き9	2.28×2.27×0~0.23	方形	カマド	北壁	古墳	N-10°E	南側が削られる。
II 34	6え9	2.91×3.52×0.15	不整長方形	カマド	北壁のやや東より	*	N-25°E	F 13を切る。 煙道が長い。
II 35	7き1	4.05×—×0.11	方形	カマド	北壁	*	N-13°W	H 40・H 42を切る。II 22に切られる。
H 36	7あ6	3.34×—×0.30	—	—	—	*	N-14°W	西側は削平され、規模・プラン不明。
H 37	21け10	5.76×4.60×0.17	隅丸長方形	—	—	弥生	N-15°E	南側カクラン・溝・P 106に切られる・P 137を切る。
H 38	5け1	7.10×6.76×0.31	方形	カマド	北壁中央	古墳	N-2°W	カクランに入る。
H 39	5こ3	3.06×2.52×0.15	隅丸長方形	—	—	不明	N-7°E	東側・南側は調査区外。
H 40	7お1	7.00×7.12×0.12	方形	—	—	古墳	N-7°W	H 14・H 15・H 16・H 30・H 31・H 35に切られる。 H 42を切る。巻段らしく、プランの把握困難。
H 41	欠番							
II 42	7き2	—×—×0.12	—	—	—	古墳	N-1°E	H 15・H 35・H 40に切られる。
II 43	5き1	5.94×6.04×0.23	隅丸方形	—	—	弥生	N-8°E	H 16を切る。
H 44	3お3	—×—×0.32	—	—	—	*	N-6°W	北壁・西側は調査区外。
H 45	3う6	5.62×4.71×0.24	隅丸長方形	炉	中央	*	N-14°W	II 19・F 4・F 6・M 1に切られる。
H 46	3お5	5.57×4.36×0.27	隅丸長方形	炉	中央	*	N-4°E	F 4・F 5に切られる。
H 47	3え10	(4.24)×—×0.12	—	—	—	*	N-15°E	H 16に切られる。
H 48	7い2	—×4.64×0.34	隅丸長方形	炉	中央	*	N 0°	H 21・H 49に切られる。
II 49	7あ1	3.87×4.04×0.40	方形	カマド	北壁のやや東より	古墳	N-18°W	H 21に切られる。II 48を切る。
H 50	3え8	(5.2)×(5.0)×0.23	(隅丸方形)	炉	南壁	弥生	N-10°E	H 18・M 1・カクランに切られる。
H 51	6き4	4.96×3.83×0.20	隅丸長方形	炉	中央	*	N-32°E	H 29・F 10・F 11に切られる。
H 52	3い9	—×4.20×0.21	—	炉	(中央)	*	N-4°W	II 21・II 24・F 1・D 9に切られる。
H 53	6か4	—×6.17×0.11	—	—	—	*	N-28°E	H 29・II 60・カクランに切られる。
II 54	6う5	5.91×6.02×0.34	隅丸方形	カマド	北壁中央	古墳	N-6°W	H 26・II 27に切られる。 煙道が長い。
II 55	6お6	5.96×5.81×0.35	隅丸方形	カマド	北壁中央	*	N 9°W	H 26に切られる。H 25を切る。 煙道が長い。
II 56	5く4	—×3.98×0.14	—	カマド	北壁中央	*	N-10°E	F 96に切られる。 南は調査区外。
H 57	5き3	—×5.80×0.14	—	炉	中央北より	弥生	N-25°E	H 56に切られる。 南は調査区外。
H 58	4け5	6.68×—×0.08	—	カマド	北壁	古墳	N-10°E	H 11に切られる。 東は調査区外。
H 59	6え7	4.27×—×0.12	(隅丸方形)	炉	中央	弥生	N-17°E	II 27・P 111・P 112・P 113に切られる。
H 60	6か6	—×—×0.13	—	—	—	不明	N-42°W	H 24・H 20・カクランに切られる。 II 53を切る。 プラン、規模不明確。残存状態悪い。
H 61	5あ2	—×4.7×0.24	—	—	—	古墳	N-2°W	カクランに切られる。 北は調査区外。
H 62	4け3	3.42×3.88×0~0.03	方形	—	—	*	N-7°E	真中に柱穴1つあり、西のほしに小さい柱穴があり、西切りあり。

第64表 独立柱建物趾一覧表

遺構名	様式	杭出位置	桁行×梁間			梁間柱間	長軸方位	柱穴規模 (cm)		備考
			(間)	(間)	(間)			径	深さ	
F 1	側柱式	3×8	3×2	5.20×3.52	1.00~1.88	1.76	N-11'-W	40-65	26-46	南北棟 H 24・H 52・D 9・D 20・M 2を切る。
F 2	側柱式	3×8	3×1	5.36×3.28	1.00~1.92	3.28	N-93'-W	26-51	12-53	H 50・D 22・M 1を切る。
F 3	側柱式	3×7	3×1	6.20×3.80	1.80~2.00	(1.90)	N-73'-W	20-48	17-50	東西棟 H 19・H 50・M 1を切る。
F 4	側柱式	3×6	4×3	7.36×4.52	0.96~2.72	1.28~2.04	N-70'-W	54-117	13-88	H 19・H 45・F 5・P 9・P 10・P 11を切る。
F 5	側柱式	3×5	2×2	4.00×3.68	1.92~2.04	1.80~1.88	N-53'-W	58-90	34-48	H 45を切る。F 4に切られる。
F 6	側柱式	3×7	2×2	3.52×3.52	1.72~1.80	1.28~2.24	N-23'-W	24-56	30-68	H 45・M 2を切る。
F 7	側柱式	6×3	2×1	3.84×3.00	1.52~1.96	3.00	N-90'-E	37-47	14-33	P 2・P 3の位置が定位置にない。
F 8	側柱式	6×3	2×1	3.20×2.56	2.56	2.32	N-29'-E	7-13	11-22	北側に付属ピットP 5・P 6あり。
F 9	側柱式	2×9	3×3	4.72×4.16	1.36~1.72	1.20~1.60	N-90'-E	58-74	27-53	
F 10	側柱式 (遺持ち)	6×4	3×1	4.96×2.88 即2.88×2.88	1.04~1.48 1.00~1.44	2.80 2.24	N-15'-E H-12'-E	282-300	41-50	北側に柱穴列あり。建て替えられたか? H 51を切る。
F 11	側柱式	6×3	3×3	4.70×5.60	1.70~3.00	1.20~1.50	N-76'-W	36-60	20-29	H 39に切られる。
F 12	側柱式	6×2	2×1	4.72×3.20	1.92~2.40	0.88~3.20	N-13'-W	36-65	17-29	南北棟。F 20を切る。
F 13	側柱式	6×9	3×3	4.60×4.12	1.36~1.76	1.16~1.56	N-90'-E	60-78	23-31	H 34に切られる。
F 14	側柱式	2×10	3×3	4.76×3.92	1.44~1.68	1.12~1.48	N-88'-W	52-71	16-46	カクランにより一部切られる。
F 15	側柱式	5×8	3×2	5.80×4.92	1.28~2.62	2.24~2.68	N-90'-W	46-65	17-40	東側はM 4に切られる。
F 16	側柱式	5×2	3×3	4.56×3.88	1.44~1.60	1.20~1.36	N-74'-E	36-74	17-37	H 43に切られる。
F 17	—	5×10	—(×2)	2.76×—	1.32~1.44	—	N-11'-E	42-48	21-27	南側に調査区外。
F 18	側柱式	5×5	3×3	5.36×4.24	1.52~1.96	1.00~1.84	N-64'-E	29-64	11-28	北東側はプラン確認不可能。
F 19	側柱式	5×7	2×2	3.52×3.76	1.24~2.28	1.68~2.08	N-2'-E	30-55	13-36	H 1・H 2・H 3を切る。
F 20	側柱式	6×1	2×2	4.40×4.48	5.94	1.08~2.40	N-13'-W	28-58	7-18	F 12に切られる。

第65表 土坑一覧表

遺構名	杭出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	備考 (重複関係)	遺構名	杭出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	備考 (重複関係)
D 2	欠番			D 15	6×3	86×—×29	楕円形	H 23に切られる。	
D 3	7×4	128×75×33	隅丸方形		D 16	欠番			
D 4	欠番			D 17	6×2	106×96×30	円形	D 12に切られる。	
D 5	7×8	158×70×25	長楕円形		D 18	6×5	104×80×14	隅丸 長方形	
D 6	6×3	128×121×35	円形		D 19	3×8	134×87×33	楕円形	
D 7	6×2	132×116×36	円形	D 12を切る。	D 20	3×8	239×(160)×35	隅丸方形	H 24に切られる。
D 8	3×9	92×66×21	楕円形	D 9を切る。	D 21	6×10	86×68×22	楕円形 (不整)	
D 9	3×9	290×166×31	隅丸 長方形	H 24・D 8に切られる。 H 52・M 3を切る。	D 22	3×9	197×107×39	隅丸 長方形	
D 10	6×2	92×84×28	円形		D 23	3×7	130×114×77	円形 (不整)	
D 11	3×8	96×90×63	円形	H 17を切る。	D 24	3×7	109×94×59	隅丸 長方形	
D 12	6×2	94×63×35	楕円形 (不整)	D 7に切られる。 D 17を切る。	D 25	6×7	262×(159)×43	隅丸 長方形	H 25に切られる。
D 13	6×3	143×107×22	楕円形		D 26	3×6	120×(60)×61	隅丸 長方形	調査区外で切られる。

第66表 単独ピット一覧表(1)

遺構名	検出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	出土遺物・備考
P 1	3お9	57×56×20	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 2 暗褐色土層 (10 YR 3/3)	弥生土片、壺片
P 2	3え8	52×41×22	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 2 暗褐色土層 (10 YR 3/3)	弥生土片
P 3	欠番				
P 4	3お8	30×29×25	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 炭化物粒含む。	
P 5	7え4	70×60×24	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/2) 糠状の炭を多く含む。	弥生土片、壺片 H13を切る。
P 6	7え5	78×64×11	楕円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	弥生土片、壺片 古墳土片、壺片、杯片
P 7	7う5	60×56×30	円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	弥生土片
P 8	欠番				
P 9	3え6	46×34×21	楕円形	1 暗褐色土層 (10 YR 3/3) 焼土・炭化物粒を含む。	弥生土片、古墳土片
P 10	3お7	44×26×23	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 11	3か7	42×21×27	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 12	7う5	62×56×28.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	古墳土片 (内照)
P 13	7う5	30×30×12.5	円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	弥生土片
P 14	7う6	39×38×16	円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	
P 15	7う6	46×43×10.5	楕円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	
P 16	7う6	28×25×54.5	円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	
P 17	7い7	28×25×18.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	弥生土片 2
P 18	7い7	42×33×19.5	楕円形	1 焼土層 2 灰黄褐色土層 (10 YR 5/3)	
P 19	7い7	56×41×15.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/2)	弥生土片、壺片
P 20	7い8	55×46×25.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/2)	土器多く含む。 弥生土片、壺片、土器片
P 21	7い8	48×42×34.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	
P 22	7う8	52×48×20	円形	1 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	弥生土片、壺片、土器片 古墳土片、壺片、杯片
P 23	7あ7	52×46×14	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	
P 24	3お5	38×36×35	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/2) シルト質土	弥生土片
P 25	3い7	40×40×11.5	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/2)	
P 26	3い7	40×37×39.5	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 2 黒褐色土層 (10 YR 2/2) 3 暗褐色土層 (10 YR 3/3)	
P 27	6く5	45×38×50	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/1) シルトブロック少量混入。 2 黒褐色土層 (10 YR 3/2) ローム粒・シルト粒子混入。 3 暗褐色土層 (10 YR 3/3) 砂多量に混入。	
P 28	3い9	46×44×9	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/2)	弥生土片、古墳土片
P 29	3お9	36×32×13	楕円形	1 黒褐色土層 (10 YR 3/2) 焼土・炭化物含む。	
P 30	3お8	35×31×27.5	楕円形 (不整)	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 31	6く3	41×32×32	○	1 黒褐色土層 (10 YR 2/1) 砂多く含む。	
P 32	6く3	35×-×28	円形		
P 33	6く3	42×40×23	円形	1 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 柱状。 2 黒褐色土層 (10 YR 3/2)	
P 34	3い9	37×37×73	円形	○	
P 35	3う6	<19>×<7>×11	—	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 36	6こ5	72×61×28	楕円形 (不整)	1. 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	古墳土片
P 37	7あ5	46×42×25	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	
P 38	6こ6	68×67×60	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	弥生土片、古墳土片
P 39	3い8	41×42×48.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/2) - 暗褐色土層 (10 YR 3/3) 細ブロック含む。	弥生土片

第 56 表 単独ピット一覧表 (2)

遺構名	検出位置	屋根 (cm) 長径×短径×高さ	平面形	覆 土	出土遺物・備考
P 40	3う8	25×21×16	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 41	3う8	39×38×36.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 42	3う8	45×34×41.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 43	3う8	38×38×36.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 44	3う8	24×20×23.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 45	6う9	50×45×53	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/2)	H 28 を切る。
P 46 ~ P 49	欠番				
P 50	3き10	124×68×22	楕円形 (不整)	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/2) 2. 黒褐色土層 (7.5 Y R 5/8) 焼けている。 3. 黒褐色土層 (10 Y R 3/4) 地山の砂質土主体。	
P 51	3か10	82×64×14	楕円形 (不整)	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/2) 2. 黒褐色土層 (10 Y R 3/4) 地山の砂質土主体。	
P 52	6あ2	25×24×15	円形	1. におい黄褐色土層 (10 Y R 5/3)	
P 53 ~ P 54	欠番				
P 55	6こ3	39×32×39	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3) 砂多量・シルト含む。	
P 56	6こ2	28×28×33	円形	1. 黄褐色 (10 Y R 5/6)・黒褐色 (10 Y R 3/1) の混在土層	
P 57	6う2	50×44×22	円形	1. 黄褐色 (10 Y R 5/6)・黒褐色 (10 Y R 3/1) の混在土層	
P 58	欠番				
P 59	6い1	58×48×29	楕円形	1. 黄褐色 (10 Y R 5/6)・黒褐色 (10 Y R 3/1) の混在土層	
P 60	欠番				
P 61	2い7	74×54×18	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 62	2い7	20×18×13	円形	1. 黒灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 63	2い7	59×45×12	楕円形	1. 黒灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 64	2う7	34×32×30	円形	1. 黒灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 65	2う7	40×37×29	楕円形	1. 黒灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 66	2う7	27×24×-	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 67	2う8	27×23×7	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 68	2う7	27×24×6	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 69	2う8	35×30×-	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 70	2う8	52×51×12	円形 (不整)	1. 黒褐色 (10 Y R 2/2)・黄褐色 (10 Y R 5/6) の混在土層	
P 71	2え8	41×35×10	楕円形	1. 黒褐色 (10 Y R 2/2)・黄褐色 (10 Y R 5/6) の混在土層	
P 72 ~ P 74	欠番				
P 75	2あ8	33×31×12	円形	1. 灰黄褐色 (10 Y R 4/2)・黄褐色 (10 Y R 5/6) の混在土層	
P 76	2あ8	24×22×13	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 77	2い8	56×35×13	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/2)	
P 78	2え10	73×51×16	楕円形	1. 黒褐色 (10 Y R 3/2)・黄褐色 (10 Y R 5/6) の混在土層	
P 79	2う10	108×30×34	楕円形	1. 黒褐色 (10 Y R 3/2)・黄褐色 (10 Y R 5/6) の混在土層	
P 80	6う1	136×36×38	楕円形	1. 黒褐色 (10 Y R 3/2)・黄褐色 (10 Y R 5/6) の混在土層	
P 81	欠番				
P 82	2い8	28×26×13	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 83	2い8	24×22×23	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 84	2え9	52×41×26	楕円形 (不整)	1. におい黄褐色土層 (10 Y R 5/3)	
P 85	6う1	51×40×21	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4/2)	
P 86 ~ P 88	欠番				

第66表 単独ピット-覽表(3)

遺構名	検出位置	規模 (cm) 径×径×高さ	平面形	取 上	出土遺物・備考
P 89	3ㄤ8	—	—	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/2)	弥生銅片、埴彩片
P 90	7ㄤ1	29 × 29 × 18	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 91	3ㄤ9	37 × 36 × 16.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/2) 2. 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 92	3ㄤ9	39 × 37 × 19.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 93	3ㄤ9	37 × 31 × 30.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3)	
P 94	欠番				
P 95	5ㄤ4	47 × 45 × 20.5	円形	1. にぶい黄褐色土層 (10 YR 5/3)	
P 96	3ㄤ8	50 × 40 × 17	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/2)	
P 97	3ㄤ7	38 × 30 × 95	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/2)	
P 98	3ㄤ7	38 × 28 × 34	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/2)	D 23に切られる。
P 99	6ㄤ4	31 × 31 × 22	円形	1. 黒色土層 (10 YR 2/1)	H 53を切る。
P 100	6ㄤ4	45 × 35 × 17	円形	1. 黒色土層 (10 YR 2/1)	弥生小銅片、埴片 H 53を切る。
P 101	3ㄤ10	38 × 32 × 28	楕円形	1. 暗褐色土層 (10 YR 3/3)	破片
P 102	3ㄤ10	51 × 41 × 44	楕円形	1. 暗褐色土層 (10 YR 3/3)	弥生埴彩銅片
P 103	3ㄤ10	43 × 36 × 18	楕円形	1. 暗褐色土層 (10 YR 3/3)	
P 104	欠番				
P 105	3ㄤ6	68 × 52 × 57	楕円形	1. 褐色土層 (10 YR 4/4) 砂主体。 2. 黒褐色土層 (10 YR 2/3) シルト質土。 3. 黒褐色土層 (10 YR 3/2) シルト質土に地山の砂多く含む。	
P 106	5ㄤ1	—	—	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	H 37に切られる。
P 107	5ㄤ7	30 × 27 × 11.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	弥生銅片 古墳土片、杯
P 108	5ㄤ7	44 × 44 × 11.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	弥生銅片 古墳土片、土片、埴片 H 4と蓋板
P 109	5ㄤ8	37 × 35 × 14.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	古墳杯底部 H 10を切る。
P 110	5ㄤ8	33 × 33 × 95	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1) 黄色のシルトブロック含む。	弥生小銅片 古墳 埴片、埴片
P 111	6ㄤ7	47 × 47 × 25	円形 (不整)	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 砂を多く含む。	H 59を切る。
P 112	6ㄤ8	42 × 39 × —	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 底面石多い。	H 59を切る。
P 113	6ㄤ8	46 × 45 × 19	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 2/3) 砂多量。	H 59を切る。
P 114	5ㄤ8	50 × 42 × 51	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1) 小礫・砂を含む。 2. 黒褐色土層 (10 YR 2/2) 小礫を含む。	弥生銅片、埴片、古墳埴片 H 4を切る。
P 115	6ㄤ5	32 × 28 × 27	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1) 地山ローム粒子混入。 2. 黄褐色土層 (10 YR 5/8) 砂主体、貼り座か、しまりなし。	H 25に切られる。
P 116	5ㄤ9	32 × 24 × 25	円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	西側調査区外
P 117	5ㄤ10	38 × 37 × 20	円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	
P 118	5ㄤ10	38 × 35 × 21.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	
P 119	5ㄤ10	48 × 47 × 21	円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	
P 120	5ㄤ10	36 × 30 × 27	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 YR 3/1)	
P 121	5ㄤ5	51 × 47 × 21.5	楕円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	弥生銅片部
P 122	5ㄤ5	31 × 29 × 21.5	円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	
P 123	5ㄤ5	42 × 36 × 24	楕円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	
P 124	5ㄤ5	55 × 41 × 12	楕円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	
P 125	5ㄤ5	44 × 38 × 35	円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	弥生銅片部、埴片、埴彩片 古墳埴彩部
P 126	5ㄤ5	38 × 29 × 16	楕円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	
P 127	5ㄤ5	52 × 52 × 40.5	円形	1. 黒褐色 (10 YR 3/1)・黄褐色 (10 YR 5/6) の混在土層	
P 128	5ㄤ5	52 × 52 × 17	円形	1. にぶい黄褐色土層 (10 YR 5/3)	
P 129	5ㄤ3	30 × 30 × 26	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 YR 4/2)	

第 66 表 単独ピット一覧表 (4)

遺構名	検出位置	規模 (cm) 径×径×高さ	平面形	層 上	出土遺物・備考
P 130	5a3	28 × 28 × 20	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 131	5a3	30 × 22 × 23	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 132	5a4	35 × 34 × 30	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 133	5a2	39.6 × 84 × 52	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生土片、縄文土片、塗彩杯、古墳土片、土器、土付土器、漆器類、瓦葺き跡の一部
P 134	4c2	33 × 31 × 34.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1)	
P 135	5a9	55 × 55 × 19.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1) しまりややあり。白色のシルト層も含む。	H7を切る。
P 136	欠番				
P 137	5c1	48 × 42 × 24	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2) 2. 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 4)	H37に切られる。
P 138	3a9	32 × 16 × 33.5	楕円形	1. 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3) シルト層も含む。	
P 139	3a7	32 × 27 × 18	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	
P 140	3a7	28 × 27 × 35	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	H19を切る。

## 付編

## 川原端遺跡から出土した炭化材・炭化物の同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

川原端遺跡は、千曲川支流の湯川右岸段丘上に位置する。今回の発掘調査により、弥生時代中期および古墳時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、土坑、ピットなどの遺構が検出されている。このうち、竪穴住居址の中にはいわゆる火災住居址も認められ、住居構築材などの一部と考えられる炭化材や炭化物などが出土している。

今回の分析調査では、これらの炭化材および炭化物の同定を行い、当時の川材などに関する資料を得る。

## 1. 資料

資料は出土した炭化材・炭化物6点(資料番号1~6)である。各資料の詳細は、同定結果とともに表1に記した。

## 2. 方法

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

## 3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。資料番号2は炭化物でなく、火山弾であった。炭化材は、針葉樹1種類(カラマツまたはトウヒ属)と広葉樹2種(コナラ属コナラ亜属クスギ節・クリ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

・カラマツまたはトウヒ属 (*Larix kaempferi* (Lamb) Carriere or *Picea*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射索組織の水平壁および末端壁には数珠状に肥厚が認められる。分野壁孔は窓状でないことは確認できたが、保存が悪く詳細は不明。また放射仮道管の有縁壁孔も観察できなかった。放射組織は単列、1~20細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Carris*) ブナ科

環孔材で、孔圍部は1~3列、孔圍外でやや急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

資料は脆い。環孔材で、孔圍部は1~3列、孔圍外への移行は観察できなかった。小道管は、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

表1 樹種同定結果

番号	遺構	種別	樹種
1	H9号住居址Ⅲ区	炭化材	コナラ属コナラ亜属クスギ節
2	H32号住居址	火山弾	
3	H54号住居址Ⅰ区	炭化材	コナラ属コナラ亜属クスギ節
4	H54号住居址	炭化材	クリ
5	H54号住居址東方	炭化材	コナラ属コナラ亜属クスギ節
6	M2	炭化材	カラマツまたはトウヒ属



#### 4. 考察

各住居址から出土した炭化材は、落葉広葉樹のクヌギ節、3点とクリ1点であった。この結果から、本遺跡では落葉広葉樹（特にクヌギ節）を中心とした用材が行われていたことが推定される。佐久市内では、これまでも下芝宮遺跡、下聖端遺跡などの遺跡で、住居構築材と考えられる炭化材の樹種同定が行われており、コナラ節が多い結果が得られている。（パリオ・サーヴェイ株式会社、1992など）。クヌギ節とコナラ節は、現在の植生などを考慮すれば、クヌギとコナラの可能性はある。なお、これらはともに二次林の構成種であるが、川沿いの沖積地など土壌水分が多い所ではクヌギが多くなり、乾燥している場所ではコナラが多くなる。（宮脇、1977）とされている。このことから、クヌギ節とコナラ節の違いは、周辺植生の違いを反映している可能性がある。

住居構築材にクヌギ節、コナラ節が多い結果は、御代田町や小諸市でも確認されている。（パリオ・サーヴェイ株式会社、1988 a, 1988 b, 1989 a, 1989 b, 1994 a, 1994 b, 1995など）。この結果から、本地域周辺ではクヌギ節やコナラ節を主とする二次林が広い範囲で見られ、そこから住居構築材となる木材を得ていたことが推定される。また、クヌギ節とコナラ節の木材は比較的強度が高いことから、このような材質が考慮されていた可能性もある。

なお、M2から出土した炭化材（資料番号6）の樹種は、針葉樹のカラマツまたはトウヒ属であったが、いずれも現在本遺跡周辺で植林以外に生育が認められない種類である。そのため、最も近い生育地である浅間山や妙義山周辺から運ばれてきた可能性がある。一方、寄山遺跡では、約1.4万年前の浅間山活動期（軽石流期）に堆積した軽石流堆積物中にトウヒ属の立木が認められており、最終氷期には佐久盆地にもトウヒ属が生育していたことが明らかとなっている。軽石流堆積物は、湯川上流域にも分布していることから（荒巻、1993）、軽石流堆積物中から洗い出されたトウヒ属などの木材が利用された可能性もある。今後、放射性炭素年代測定を行うなどして検証したい点である。

なおH32号住居址から出土した炭化物（資料番号2）は、火山弾であった。本遺跡の立地を考慮すれば浅間山起源の火山噴出物と考えられるが、いずれの噴火に由来するか不明である。

#### 引用文献

荒巻重雄（1993）浅間火山地質図、地質調査所。

宮脇 昭彦（1977）日本の植生。535P.、学研。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1988 a）鋳物師屋遺跡出土炭化材の同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集「鋳物師屋遺跡群 鋳物師屋一長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘調査報告書」、P116-117、小諸市教育委員会。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1988 b）十二遺跡出土炭化材の樹種同定。「鋳物師屋遺跡群十二遺跡」P. 393-399、御代田町教育委員会。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1989 a）広畑遺跡出土炭化材の同定。「広畑遺跡」p35-40、御代田町教育委員会。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1989 b）根岸遺跡出土の炭化材同定。「鋳物師屋遺跡群根岸遺跡発掘調査報告書」p 291-293、御代田町教育委員会。

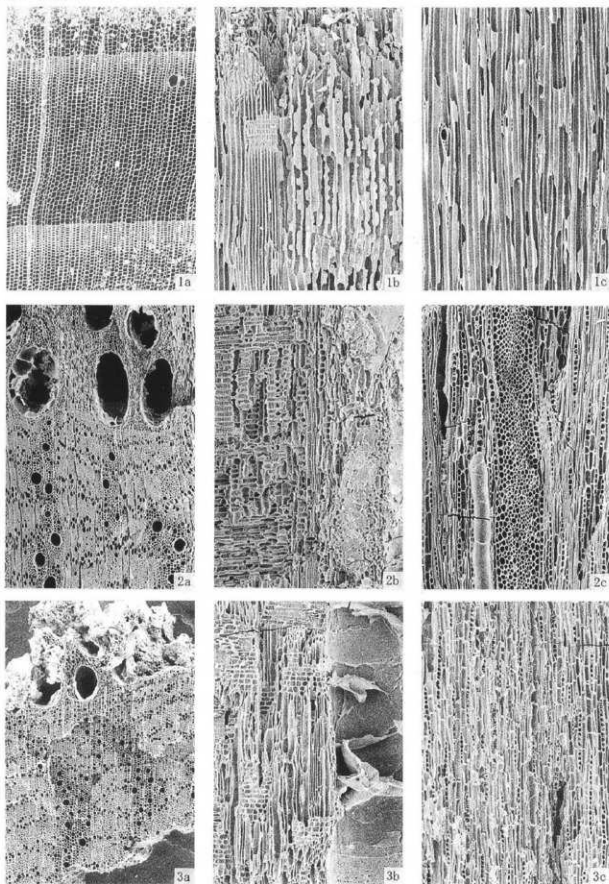
パリオ・サーヴェイ株式会社（1992）下芝宮遺跡・下聖端遺跡炭化材同定報告。「国道141号線関係遺跡」p355-391 佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1994 a）過去の食物利用について「東下原・大下原・竹花・舟森・大塚原」p613-624、小諸市教育委員会。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1994 b）大塚原における平安時代の住居構築材。「大塚原遺跡群 大塚原（第2次）」p81-84、小諸市教育委員会。

パリオ・サーヴェイ株式会社（1995）第1号住居址出土の炭化材樹種。「三子塚遺跡群 十石板上遺跡」p12-13 小諸市教育委員会。

図版1 炭化材



1. カラマツまたはトウヒ属 (試料番号6)
2. コナラ属コナラ亜属クスギ節 (試料番号1)
3. クリ (試料番号4)

a: 木口, b: 柱目, c: 板目

200 μm: a  
200 μm: b, c

## 川原端遺跡出土の獣骨

宮崎 重雄

川原端遺跡は長野県佐久市大字鳴瀬宇川原端にあり、弥生時代中期と古墳時代の集落跡である。平成8年8月～10月に行われた発掘調査で、竪穴住居址・溝などからニホンシカと野ウサギの歯や骨が出土した。

ここで比較に用いた現生種は、ともに足尾山地産で、ニホンシカがオスの成獣、ノウサギは性別不明の亜成獣で、計測値を（ ）の中に示した。

### 1. 2号竪穴住居址（古墳時代）

Ⅳ区堀方から出土したニホンシカ（*Cervus Nippon*）の右下顎第2後臼歯と第3後臼歯である。歯の大きさは、第2後臼歯の歯冠近遠心径が $22.4 + \text{mm}$ （17.3 mm）、歯冠高が頰側で22.2 mmである。舌側の補鐘がよく発達していて、その高さは4.6 mmである。第3後臼歯は中葉・後葉の近遠心径が17.2 mm（13.6 mm）、歯冠高は頰側で21.2 mmである。中葉・後葉間の基部に高さ2.2 mmの補鐘が観察される。咬耗は第3後臼歯後葉におよんでいて、咬頭部にわずかの咬耗がみられる。このことから年齢は2才程度と推測される。

各計測値は現生種よりもかなり大きい個体であることを示している。

### 2. 16号竪穴住居址（古墳時代）

#### ※No 1

①ニホンシカの角の破片で、10数片に細片化しているが、直径は23.2 mm以上あり、オスの成獣であることがわかる。保存がきわめて不良で、加工痕などの存否は確認されていない。

②ノウサギの左總骨近位半片である。焼かれた骨で、食糧残滓の一部とも考えられる。熱によって歪みが生じ、骨幹部が緩く湾曲している。全長は $35.1 + \text{mm}$ （75.8 mm）あり、近位横径・近位前後径はそれぞれ6.5 mm（7.4 mm）、4.5 mm（4.8 mm）である。熱による骨の収縮を考えに入れても、現生種と比べてかなり小さい。

#### ※1区

6片に分離しているニホンシカの歯片で、左下顎第2後臼歯と思われる。最大歯冠高19.2 mmあるが、咬頭先端部が咬耗していることにより、年齢は1から5才程度と推定される。

### 3. 55号竪穴住居址（古墳時代）No 1

カマド跡から出土した7片の細焼骨で、肢骨である。ニホンシカのものであろうが、確証はない。火熱による亀裂が目立つ。

### 4. 59号住居址（弥生時代）炉跡

住居址中央部の炉跡から出土した4片の焼骨である。細骨片化しすぎていて動物種等の詳細は不詳である。

### 5. F15

ニホンシカの左第3後臼歯の舌側半が残存したものである。咬耗が進み、歯冠高が12.8 mmと低く、老獣であることを示している。前歯と中葉の基部に高さ6.7 mmの大きな補鐘があり、中葉と後葉の間にも痕跡的なものがある。また、後葉遠心面には痕跡的なタロドが観察される。

歯冠近遠心径は24.4 mm（21.4 mm）で、現生シカよりはるかに大きい。

### 6. 2号溝

①ニホンシカの右舌顎第2後臼歯と第3後臼歯である。第2後臼歯は歯冠舌側半と頰側片の2片である。咬耗はすでに始まっていて、最大歯冠高は21.8 mmである。

第3後臼歯は完存し、未咬耗である。歯冠近遠心径は最大で25.1 mm（21.5 mm）、同頰舌径は12.0 mm、10.3 mm、歯冠高は20.3 mmである。現生種のオスよりはるかに大きい。

咬耗の状態から、年齢は1.5才ほどが推定される。

②ニホンシカの左下顎第2後臼歯と第3後臼歯である。第2後臼歯は咬耗を受けていることはわかるが、7片に細片化していて詳細は不明である。第3後臼歯は未咬耗で前葉・中葉近遠心径が19.0 mm（17.4 mm）で歯冠高は22.6 mmである。推定年齢は1.5才前後である。①と②は同一個体の場合も考えられるが、歯冠高や肉眼的印象に違いのあるこ

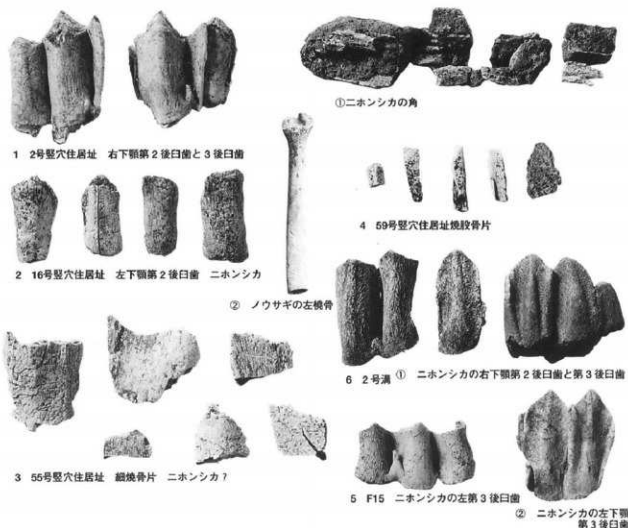
とから、別個体の可能性が高い。

まとめ

- (1) 出土した獣骨はニホンシカとノウサギである。
- (2) ニホンシカについて
  - ・いずれも現生足尾産オスよりも大きい個体である。
  - ・1例(F15)を除き1~2才程度の若い個体である。
  - ・検出された歯は下顎第2後臼歯・第3後臼歯に限られている。上顎臼歯やその他の下顎の歯が出土しない理由は不明である。
- (3) ノウサギは現生足尾産ノウサギより小さい個体である。
- (4) ニホンシカ?とノウサギの焼股骨片の出土があり、食残残滓の可能性もある。

参考文献

- 大森可紀之(1980) 遺跡出土のニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法. 考古学と自然科学, 13, 51-72
- Schmid, E (1972) Atlas Of Animal Bones. Elsevier Publishing Company. 159P.





H1号住居址(北より)



H2号住居址(西より)



H 2号住居址カマド (東より)



H 2号住居址カマド (南より)



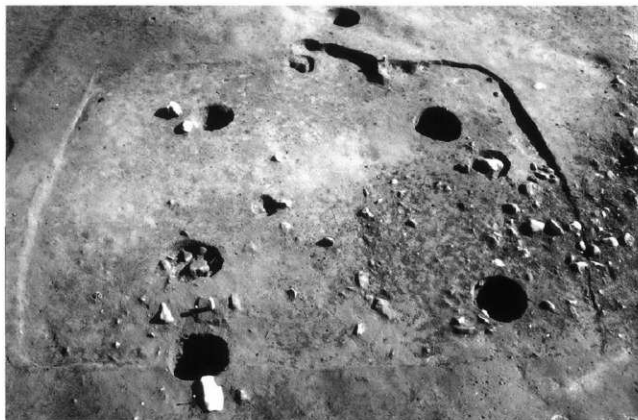
H 2号住居址堀方 (北より)



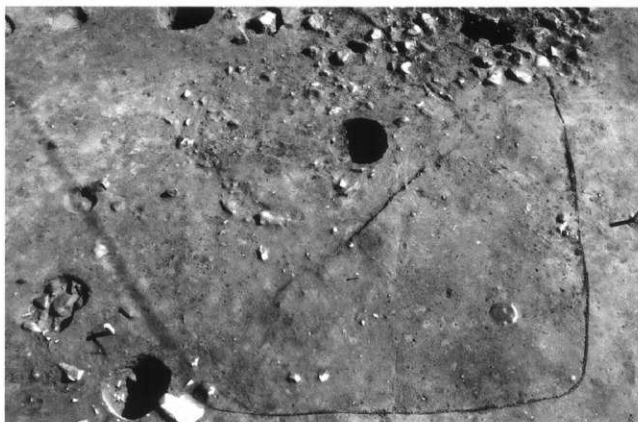
H 3号住居址カマド堀方 (西より)



H 3号住居址 (南より)



H 4号住居址(西より)



H 5号住居址(南より)



H 6号住居址 (北より)



H 6号住居址堀方 (北より)



H 6号住居址 (西より)



H 7号住居址堀方 (北より)

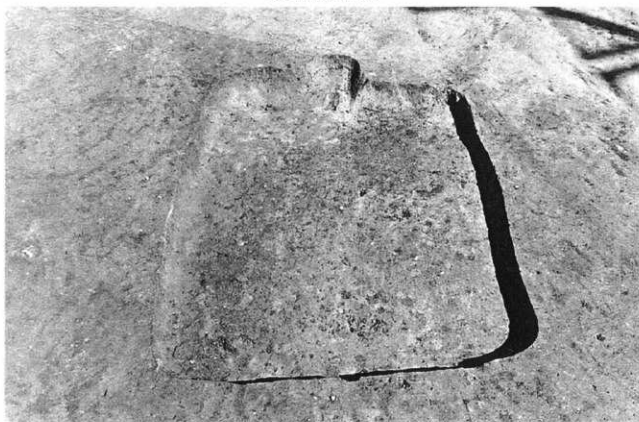


H 7号住居址 (北より)





H 8号住居址 (北より)



H 9号住居址 (西より)



H 8号住居址(南より)



H 9号住居址カマド側方(西より)



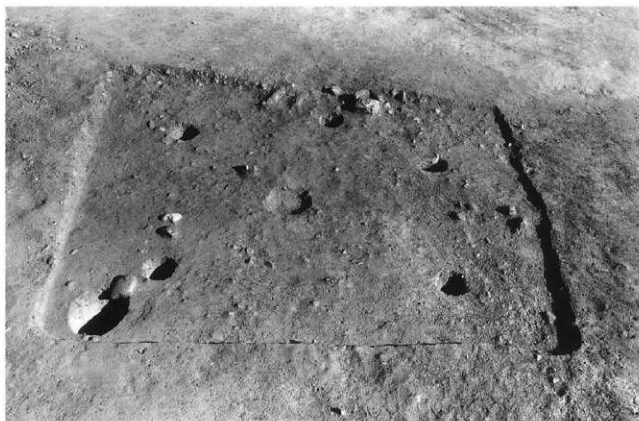
H 10号住居址側方(北より)



H 10号住居址カマド(南より)



H 10号住居址カマド(北より)



H 11号住居址 (南より)



H 12号住居址 (南より)



H 13号住居址（南より）



H 14号住居址（東より）